福 岡 市

埋蔵文化財年報 Vol. 4

1989年度

1 9 9 1

福岡市教育委員会

表紙写真は復元された梅林古墳と現地説明会風景
（古墳写真は読売新聞西部本社提供）

序

平成元年（1989）年度は　年号がうつり、歴史資料館の廃止、これにかわる福岡市博物館の新設など変化の多くみられた年でありました。

さらに埋蔵文化財保護にかかる諸業務も増加の一途を辿り、開発にかかる事前審査業務及び緊急発掘調査の激増がこのことを物語っております。このことは関係する諸各位の文化財に対する御理解の賜物と考えております。

以下平成元年度の埋蔵文化財行政の概要を示して、関係者各位の更なる御協力をお願い致しますとともに、本書が文化財理解の一助として有効に活用されることを希望致します。

平成３年１月10日
福岡市教育委員会
教育長　井口雄哉

例言

本書は、教育委員会埋蔵文化財課が平成元年度に行った事業のうち、開発事業に伴う事前審査と発掘調査業務についての概要を記したものである。

本書の作成は、平成２年度事前審査担当（吉留、滝本、加藤）および同担当主事（塩屋、横山）で行った。なお各発掘調査の概要は各担当者で分担した。また文化課管理係より平成元年度の文化財調査成果の概要をえた。

目次

Ⅰ　開発事前審査……1
　1）平成元(1989)年度の概要……1
　2）試掘調査一覧……3
Ⅱ　発掘調査
　1）平成元(1989)年度の概要……14
　2）発掘調査一覧……16
　3）各調査の概要……19
Ⅲ　文化財調査の概要……104
附　平成元(1989)年度刊行の報告書一覧……108

平成元（1989）年度の組織

- 文化部
  - 埋蔵文化財課
    - 第　1　係：公共事業に係る埋蔵文化財の発掘調査
    - （文化財主事）：公共事業に係る埋蔵文化財の事前審査
    - 第　2　係：民間事業に係る埋蔵文化財の発掘調査
    - （文化財主事）：民間事業に係る埋蔵文化財の事前審査
  - 埋蔵文化財センター
    - 管　理　係：考古学的資料の収集・保存・展示
    - （文化財主事）：考古学的資料の調査・収集・整理
  - 文　化　課
    - 文化財管理係：文化財の指定、史跡の保存・整備
    - 文　化　係：芸術・文化の振興・普及、文化団体との連絡
  - 歴史資料館
    - 管　理　係：歴史資料・民俗資料の収集・保存・展示
    - （文化財主事）：歴史資料の調査・収集・整理
  - 少年科学文化会館
    - 管　理　係：施設の管理運営
    - 学　芸　係：児童図書の閲覧・貸出し、プラネタリウム等
  - 副主幹―主　査：鴻臚館跡調査

- 博物館
  - 庶　務　課
    - 庶　務　係：博物館の庶務、連絡調整、施設の管理運営
    - 計画管理係：施設の管理運営、渉外
  - 学　芸　課―主　査：博物館資料の収集・保存・展示・調査研究

埋蔵文化財課の構成

課　　長：柳田純孝
第一係長：飛高憲雄
文化財主事：横山邦継
係　　員：（技術）　濱石哲也．松村道博．下村　智．佐藤一郎．瀧本正志
荒牧宏行．宮井善朗．菅波正人．長家　伸
（事務）　松延好文．安部　徹
第二係長：柳沢一男
文化財主事：山口譲治．井澤洋一
係　　員：（技術）　山崎龍雄．小林義彦．大庭康時．小畑弘己．常松幹雄
吉留秀敏．加藤良彦．野村俊之．池田祐司

福岡市の概要

位置

この表は建設省国土地理院の２万５千分の１の地図から測定したものです。

方　位	地　点	東　経	北　経
市役所(本庁)	中央区天神一丁目８－１	130°24′15″	33°35′14″
極東	東区大字蒲田字別府の浦	130°29′50″	33°38′34″
極西(陸部)	西区大字西の浦字外蒔	130°12′00″	33°38′11″
極西	西区大字小呂島字向	130°02′06″	33°51′49″
極南	早良区大字板屋字苦笑	130°25′13″	33°42′33″
極北(陸部)	東区大字三苫字牧山	130°22′50″	33°25′17″
極北	西区大字小呂島字向	130°02′17″	33°52′17″

※福岡市勢要覧―平成元年度―による

平成元年度福岡市当初予算

一般会計	4,436億7,600万円
特別会計	2,411億141万5千円
企業会計	2,096億5,349万円
合　計	8,944億3,090万5千円

教育・文化に604億円

平成元年度毎蔵文化財関係予算

開発事業審査費	788万1千円
公共事業関係費	4億2,194万9千円
民間・国庫補助関係調査費	2億9,372万3千円
合　計	7億2,355万3千円

面積，人口，土地利用状況（有租地面積など）

区	面積(㎢)	世帯数	人　口	有租地総面積(千㎡)	宅地				農地		山林	原野その他	免税点未満
					総数	商業地	工業地	住宅地	田	畑			
全　市	336.39	472,695	1,221,823	187,373	75,876	8,432	8,963	58,481	28,914	10,838	50,597	21,148	8,418
東　区	63.20	92,009	243,122	34,207	17,176	432	4,317	12,426	3,935	2,465	5,031	5,600	1,084
博多区	31.40	68,483	163.648	17,453	11,745	3,035	3,540	5,170	1,298	632	1,224	2,554	216
中央区	15.14	64,638	140,164	7,979	7,491	3,049	753	3,689	2	7	205	273	2
南　区	30.98	86,680	231,400	18,804	12,925	657	175	12,093	1,387	396	2,153	1,943	257
城南区	16.02	51,687	123,011	9,653	6,545	282	－	6,263	471	207	1,699	731	122
早良区	95.88	65,765	186,645	47,081	10,534	604	－	9,930	7,954	750	24,798		2,237
西　区	83.77	43,433	133,833	52,197	9,461	373	178	8,910	13,869	6,382	15,486		4,499

※人口は平成元年３月１日現在の推計人口。福岡市勢要覧―平成元年度―による。

Ⅰ　開発事前審査

本市において、埋蔵文化財包蔵地内での土木工事などにかかわる開発事前審査は、昭和52年度から57年度までの６年間にわたって実施した分布調査の成果（福岡市文化財分布地図．1：4000．Ｂ３版．全173図）をもとに行っている。

文化財分布地図は、市役所各部局および関係公社・公団などに配布し、事業計画策定段階での活用をお願いしている。また民間の開発関係、不動産取引関係者などには、埋蔵文化財課窓口での分布地図閲覧や各種の相談にのっている。この際に文化財保護法の主旨及び手続きなどを説明するとともに、文化財保護についての協力をお願いしている。

1）　平成元（1989）年度の概要

平成元年度に埋蔵文化財課に提出された開発事前調査についての申請（埋蔵文化財事前調査願い）は、下表に示すように公共事業560件、民間開発事業404件の計964件である。

事業別では公共的事業が前年比より１割強増加し、民間関係では逆に２割近く減少している。しかし分布地図閲覧時の指導による件数を加えると実際の件数は倍数に近いと考えられる。

このうち公共的事業では、各種公園・道路・施設・下水道構築に伴う事業が多いが、工事箇所が市域全体に展開しているため、事前審査の完全処理に困難がある。

また民間事業関係は、主に専用住宅建設や博多駅周辺における再開発事業（共同住宅、事務所・商業ビルなど）を主体としており、審査実数にあらわれない閲覧・電話による不動産取引にかかわる問合せなども増加傾向にある。

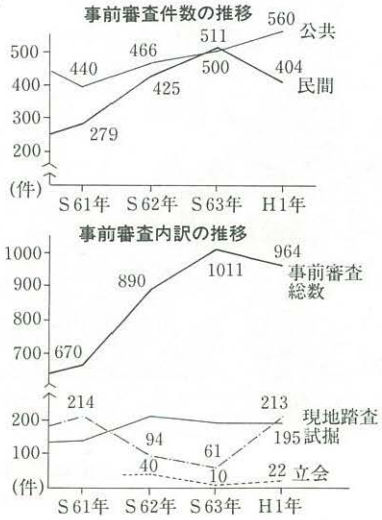
事前審査の処理内訳では、全体比で書類審査によるものが最も多く、次で現地踏査が急増している。これは市域のほぼ全域に遺跡の周知化が進んだ結果と考えられる。試掘調査はやや長期間の事例があるが、前年比と同様である。また設計協議による慎重工事・工事立会相当の現地立会も２倍以上の増加となっている。

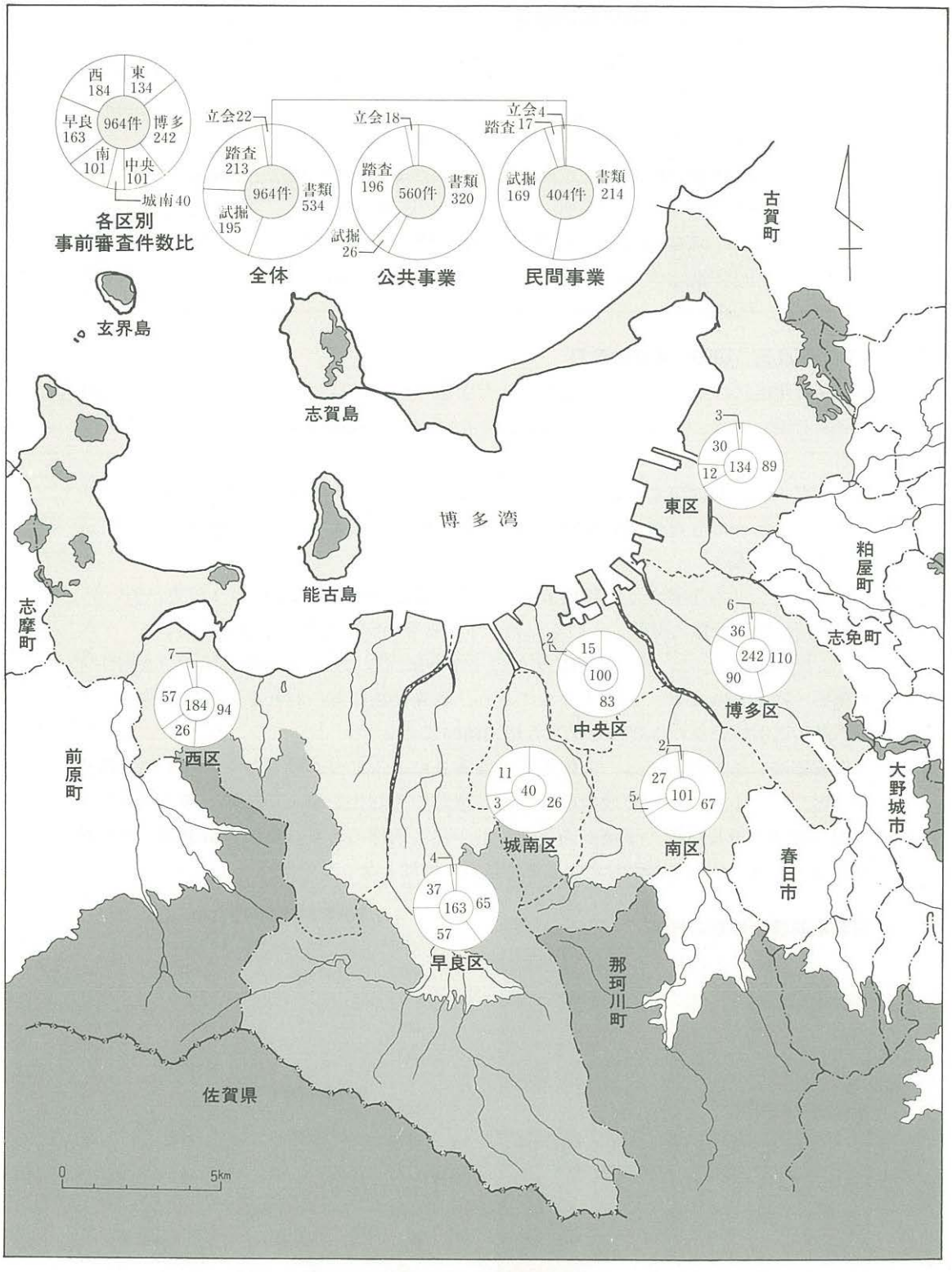
開発事前調査件数の推移　（件）

	S. 61年	S. 62年	S. 63年	H. 1年
民間	279	425	511	404
公共	391	465	500	560
計	670	890	1011	964

事前調査の内訳

	S. 61年	S. 62年	S. 63年	H. 1年
書類		555	743	534
踏査	214	94	61	213
試掘	139	214	197	195
立会		40	10	22





平成元年度開発事業事前審査状況

各区の円内訳は、図上円グラフと一致する。

試　掘　調　査　一　覧

ここに掲載する試掘は、平成元年度（1989年４月１日～1990年３月31日）におこなったものである。

東区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
1	名島城址	東区名島三丁目2438番15	890509		457	無		32	中世城址	63-2-435
2	秋山谷遺跡群	東区大字大道ナキ197-1外7筆	890419	仏閣建設	4,166.22	無		16	丘陵谷部	1-2-4
3	名島城址	東区名島一丁目11	891108	集合住宅	910.76	有	本調査	32	中世城址石垣	1-2-240
4	三苫遺跡群	東区三苫字池尻340番、339番1	891130	共同住宅	6,254.21	無		28	海岸砂州後背低湿地	1-2-258
5	名島城址	東区名島一丁目2387番6外3筆	891130	共同住宅	1,090.91	無		32	中世城址内	1-2-269
6	秋山谷遺跡群	東区下原三丁目180番1外9筆	900207	共同住宅	3,749.22	無		16	丘陵谷部	1-2-302
7	三苫遺跡群	東区大字三苫字草場183-1，184-1	900222	共同住宅	1,816.61	有	本調査	27	縄文時代包含層，中世遺構	1-2-337
8	蒲田原遺跡群	東区大字蒲田字小田85-88，89-5外3筆	900306	ターミナル	9,686	無		1	沖積微高地	1-2-363
9	箱崎遺跡	東区箱崎一丁目2731番1，2731番4	891012	共同住宅	361.06	有	本調査	34	中世集落遺構	1-2-119
10	土井遺跡群	東区青葉七丁目899-37外	891212	共同住宅	6,254.21	無		7	丘陵斜面	1-2-259

博多区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	事業 種別	事業 面積	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
1	那珂遺跡群	博多区那珂一丁目2237-723	891124	賃貸住宅	1,815	有	慎重工事	37	弥生～古墳時代集落址	62-2-90
2	雑餉隈遺跡群	博多区昭南町三丁目7番	890704	未定	111.83	無		13	既削平	63-2-266
3	博多遺跡群	博多区祇園町551-1外	890513	共同住宅	570.17	有	本調査	49	弥生時代包含層	63-2-283
4	比恵遺跡群	博多区山王一丁目104番1外	890719	未定	1,442	無		37	遺構なし	63-2-312
5	那珂遺跡群	博多区那珂二丁目15番6号	890607	専用住宅	291.34	有	慎重工事	38	古代生活遺構	63-2-472
6	板付遺跡群	博多区板付六丁目11-3	890613	倉庫併用住宅	936.47	無		24	旧河川か	63-2-515

7	博多遺跡群	博多区中呉服町154，155-2	890523	給油所	507.18	有	本調査	48	中世生活遺構など	63-2-550
8	青木遺跡群	博多区青木地内	890801	道路拡幅	2,500	無		22	既削平	63-1-196
9	板付遺跡	博多区板付二丁目11-7，11-23	890428	専用住宅	288.68	有	慎重工事	24	弥生時代中期水田	1-2-9
10	博多遺跡群	博多区博多駅前一丁目101番	890502	貸ビル	1,499.63	有	本調査	36	中世遺構	1-2-19
11	板付遺跡	博多区板付五丁目7-115	890515	アパート建設	381.62	有	慎重工事	24	弥生時代包含層，奈良時代遺構	1-2-32
12	博多遺跡群	博多区博多駅前一丁目129番	890519	電気通信事業	46.5	有	工事立会	36	中世遺構	1-2-37
13	博多遺跡群	博多区奈良屋町61番1	890607	新聞販売所	190.51	有	本調査	48	中世遺構	1-2-40
14	博多遺跡群	博多区店屋町182-1，2，3，4，5	890530	ビル建設	227.7	有	本調査	49	中世遺構	1-2-41
15	博多遺跡群	博多区綱場町1	890601	事務所ビル	647.24	有	本調査	48	中世期包含層	1-2-45
16	比恵遺跡群	博多区博多駅南五丁目84-1の一部	890529	ガバナー建設	28.14	無		37	旧河川の氾濫原	1-2-51
17	榎田遺跡群	博多区上牟田一丁目29番1，29番2	890525	倉庫建設	1,473	無		22	旧河川の氾濫原	1-2-52
18	博多遺跡群	博多区店屋町1番27号	890531	立体駐車場建設	349.92	有	本調査	49	中～近世生活遺構	1-2-55
19	那珂遺跡群	博多区竹下五丁目420番地	890000	共同住宅	776.29	有	本調査	38	古代生活遺構	1-2-56
20	博多遺跡群	博多区祇園町406番外3筆	890606	ビル建設	329.12	無		49	旧河川の氾濫原	1-2-57
21	博多遺跡群	博多区冷泉町300-1，300-2	890620	分譲マンション	527.42	有	本調査	49	中世生活遺構，井戸	1-2-63
22	博多遺跡群	博多区博多駅前一丁目155-1	890606	防火水槽建設	29.8	有	本調査	36	中世遺構	1-2-65
23		博多区東那珂一丁目301番	890614	共同住宅	2,419	無		23	歴史時代の包含層	1-2-67
24	博多遺跡群	博多区上呉服町365，366，380，381	890613	納骨堂	3,359.76	無		48	旧河川	1-2-71
25	博多遺跡群	博多区下呉服町15番	890704	賃貸ビル	201.95	無		48	海岸砂州	1-2-75
26	吉塚遺跡群	博多区堅粕四丁目486番1、487番1、487番2	890614	マンション	1,350.77	有	工事立会	36	古墳時代包含層，中世溝状遺構	1-2-76
27	博多遺跡群	博多区冷泉町63外	891128	ビル建設	1,328	有		49	中世生活遺構	1-2-77
28	比恵遺跡群	博多区博多駅南六丁目22ノ2	890822	共同住宅	450.12	無	本調査	37	旧河川か	1-2-81
29	那珂遺跡群	博多区那珂二丁目61番	890612	専用住宅	165.40	無		24	台地下谷部	1-2-82
30	比恵遺跡群	博多区博多駅南五丁目38	890620	ビル建設	519	無		37	既削平	1-2-85
31	麦野Ｃ遺跡群	博多区麦野六丁目11-4	890629	共同住宅	895.47	有	本調査	12	古墳時代住居址	1-2-88

32	博多遺跡群	博多区下呉服町3，4，5	890622	事務所建設	316.22	無		48	海岸砂州	1-2-90
33	比恵遺跡群	博多区博多駅南四丁目221番,221番1,221番2	890622	ビル建設	879.73	有	本調査	37	古墳時代住居址	1-2-93
34	比恵遺跡群	博多区博多駅南五丁目50番2	890719	ビル建設	138.73	無		37	旧河川氾濫原	1-2-97
35	博多遺跡群	博多区上呉服町76	890705	ビル建設	148.05	有	工事立会	49	道路状遺構	1-2-108
36	那珂遺跡群	博多区竹下三丁目1番1号	890727	空瓶供給場建設	118.84	有	工事立会	37	弥生時代集落	1-2-116
37	博多遺跡群	博多区奈良屋町6-36	890823	事務所ビル建設	318.79	無		48	海岸砂州	1-2-121
38	仲島遺跡	博多区井相田一丁目11番地9	890727	倉庫建設	1,488	無		11	沖積低湿地	1-2-125
39	比恵遺跡群	博多区山王一丁目201-1，201-3	890725	賃貸ビル	931	無		37	旧河川氾濫原	1-2-127
40	博多遺跡群	博多区冷泉町90番3外7筆	890809	共同住宅	513.33	有	本調査	49	古代～中世期の遺構	1-2-129
41	堅粕遺跡群	博多区千代二丁目4-26	890727	ビル建設	2,793	有	本調査	35	弥生～古墳時代包含層	1-2-141
42	比恵遺跡群	博多区博多駅南五丁目14-10	890809	事務所建設	287.66	無		37	沖積低湿地	1-2-145
43	麦野Ａ遺跡群	博多区麦野四丁目14番8，14番11	890824	共同住宅	1,597.35	無		12,25	沖積台地斜面	1-2-149
44	博多遺跡群	博多区冷泉町2-7	890822	事務所ビル建設	237.39	有	慎重工事	49	古代～中世の生活遺構	1-2-154
45	博多遺跡群	博多区博多駅前一丁目155番2外	890830	老人福祉センター	1,054.65	有	本調査	36,49	古代～中世の生活遺構	1-2-155
46	博多遺跡群	博多区御供所町8-26，8-27	890823	倉庫建設	340	無		36	旧河川	1-2-165
47	那珂遺跡群	博多区東光寺一丁目218	890904	事務所建設	125.82	有	工事立会	37	弥生時代住居址	1-2-169
48	博多遺跡群	博多区古門戸町108-1外8筆	891011	事務所ビル	393	有	工事立会	48	近世遺構多数	1-2-171
49	笹原遺跡群	博多区諸岡五丁目53	890927	未定	703.80	無		25	旧河川	1-2-172
50	博多遺跡群	博多区奈良屋町110番	890914	未定	99.17	無		48	遺構なし	1-2-174
51	博多遺跡群	博多区奈良屋町109番	890914	未定	99.17	無		48	遺構なし	1-2-175
52	博多遺跡群	博多区店屋町164-1，164-2	890904	立体駐車場	193.35	有	工事立会	49	中世後半期からの生活遺構	1-2-176
53	高畑遺跡	博多区板付四丁目10番，710番6	890829	専用住宅	249	無		24	沖積微高地	1-2-181
54	比恵遺跡群	博多区博多駅南五丁目163-3	890913	アパート建設	132.42	無		37	沖積低台地谷部	1-2-186
55	比恵遺跡群	博多区博多駅南三丁目29番	890920	マンション建設	295.98	有	本調査	37	弥生時代住居址，中世期以前の水田址	1-2-188
56	博多遺跡群	博多区祇園町220番	890926	商業ビル建設	214.01	有	本調査	49	古代～中世包含層	1-2-195
57	那珂遺跡群	博多区那珂二丁目7-12	891005	共同住宅	1,157.18	有	本調査	24	弥生～古墳時代住居址	1-2-196
58	那珂遺跡群	博多区東光寺町一丁目312番外3筆	891005	共同住宅	194.26	有	本調査	37	古墳時代住居址	1-2-197

59	堅粕遺跡群	博多区吉塚三丁目384-2	891009	共同住宅	272.79	有	慎重工事	35	弥生～古墳時代集落址	1-2-199
60	那珂遺跡群	博多区那珂二丁目249番の一部	891005	共同住宅	1,028.24	有	本調査	38	弥生～古墳時代集落址	1-2-201
61	板付遺跡	博多区板付五丁目6-3,6-4,6-7の一部	891009	住宅建設	248	無		24	既削平	1-2-204
62	博多遺跡群	博多区古門戸町113外4筆	891122	共同住宅	682.50	有	工事立会	48	近世～近代の遺構	1-2-214
63	那珂遺跡群	博多区那珂二丁目38番	891019	専用住宅	44.71	有	慎重工事	24	住居址状の遺構	1-2-226
64	井相田Ｃ遺跡群	博多区井相田一丁目12-3	891101	未定	1,484	有	慎重工事	12	弥生～古墳時代住居址	1-2-228
65	比恵遺跡群	博多区博多駅南丁目160外5筆	891115	倉庫付事務所	920.25	無		37	遺構なし	1-2-244
66	榎田遺跡群	博多区榎田二丁目4-10，4-11	891128	倉庫建設	4,650	有	慎重工事	22	弥生～古墳時代包含層	1-2-263
67	諸岡Ａ遺跡群	博多区諸岡一丁目2番1	891128	未定	246	無		24	遺構なし	1-2-264
68	博多遺跡群	博多区上呉服町98-2外4筆	891221	ビル建設	287.85	有	慎重工事	48	中世包含層	1-2-265
69	吉塚遺跡群	博多区吉塚三丁目262番1	891129	アパート建設	418.87	有		35	古墳時代包含層	1-2-267
70	麦野Ａ遺跡群隣接地	博多区麦野三丁目9番3号	891212	未定	990	有	工事立会	12	８～９世紀代の集落址	1-2-271
71	博多遺跡群	博多区奈良屋町33-1外9筆	900124	共同住宅	819.98	有	慎重工事	48	近世の生活遺構	1-2-293
72	那珂遺跡群	博多区那珂二丁目184	900111	共同住宅	165.01	無		38	既削平	1-2-306
73	雑餉隈遺跡群	博多区新和町二丁目10-2，10-6	900116	共同住宅	500.57	有	本調査	13	奈良時代住居址	1-2-315
74	博多遺跡群	博多区祇園町251，252	900116	専用住宅	128.81	有	慎重工事	49	中世包含層	1-2-316
75	博多遺跡群	博多区古門戸町7-3	900125	事務所ビル	505	有	慎重工事	48	近世包含層	1-2-318
76	堅粕遺跡群	博多区千代一丁目292番	900118	文化施設	7,182.03	有	本調査	35	古墳時代墓地	1-2-320
77	諸岡Ａ遺跡群	博多区諸岡三丁目147外4筆	900207	店舗付事務所	262.77	無		24	遺構なし	1-2-326
78	博多遺跡群	博多区奈良屋町98-1，98-2	900131	未定	112.87	無		48	近世包含層	1-2-334
79	博多遺跡群	博多区古門戸町98-1外4筆	900313	老人センター	640	有	本調査	48	中世石垣状遺構	1-2-361
80	井相田遺跡群	博多区井相田二丁目2-4	900319	倉庫建設	1,498.96	有	慎重工事	12	古墳時代竪穴住居址など	1-2-367
81	比恵遺跡群隣接地	博多区博多駅南三丁目426	900307	共同住宅	727.68	有	本調査	37	弥生～古墳時代集落址	1-2-371
82	博多遺跡群	博多区堅粕四丁目318-2外	900317	賃貸マンション	252.54	無		36	旧河川か	1-2-372
83	比恵遺跡群	博多区博多駅南四丁目201番外	900315	寄宿舎	1,094	有	本調査	37	弥生～奈良時代集落址	1-2-373
84	博多遺跡群	博多区千代四丁目24-16外	900315	集合住宅	4,972.55	無		48	旧海岸砂州	1-2-374

85	博多遺跡群	博多区祇園町285、227	900000	未定	295.93	有		49	古代～中世生活遺構	1-2-382
86	博多遺跡群	博多区御供所見235-1外	900327	事務所ビル	803.25	有		49	古代～中世包含層	1-2-384
87		博多区東月隈三丁目地内	891101	公園建設	1,876	無		10	遺構・遺物なし	1-1-27
88	堅粕遺跡群	博多区吉塚一丁目1番外5筆	890919	市営住宅改良	540	有	本調査	35	奈良時代生活遺構など	1-1-310
89		博多区大字下月隈字四ノ坪839-7	890725	税関施設	3,000	無		10	遺構なし	1-1-500
90	仲島遺跡	博多区立花寺地内	891214	道路建設	4,960	有	本調査	11	中世生活遺構	2-1-180

中央区

番号	遺跡		調査日	事業		遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
	名称	所在地		種別	面積					
1		中央区輝国二丁目地内	891011	公園建設	3,800	無		61	遺構・遺物なし	1-1-28
2		中央区梅光園団地	890825	団地建設	5,800	無		62	旧河川	1-1-503
3		中央区六本松一丁目地内	890527	放送局建設	8,000	無		61	沖積低湿地	1-1-550

城南区

番号	遺跡		調査日	事業		遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
	名称	所在地		種別	面積					
1		城南区樋井川四丁目523-2	890712	共同住宅	376.65	無		63	遺構なし	1-2-109
2	茶山遺跡群	城南区茶山五丁目378番	891108	共同住宅	1,582.20	無		73	既削平	1-2-237
3		城南区松山一丁目	890530	公園建設	16,000	無		74	遺構・遺物なし	1-1-21

南区

番号	遺跡		調査日	事業		遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
	名称	所在地		種別	面積					
1	大橋E遺跡	南区大橋三丁目	890515	道路拡幅	517	無		39	遺構・遺物なし	64-1
2	警弥郷B遺跡	南区弥永五丁目6-16	890907	共同住宅	666	有	工事立会	41	弥生時代包含層	1-2-177

3	警弥郷Ｂ遺跡	南区弥永五丁目14-1，14-38番地	891221	共同住宅	1,031	有	本調査	41	弥生時代水田址	1-2-291
4	横手遺跡群	南区横手三丁目287番1号	900214	共同住宅	584.97	無		39	沖積微高地	1-2-360
5	井尻Ｂ遺跡群	南区井尻五丁目234番54	900319	共同住宅	338.34	有	慎重工事	25	弥生～古墳時代集落址	1-2-377

早良区

番号	遺跡		調査日	事業		遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
	名称	所在地		種別	面積					
1	有田遺跡群	早良区小田部一丁目263-1	890411	専用住宅	297	無		81	丘陵谷部	1-2-1
2	有田遺跡群	早良区小田部五丁目70番，71番	890510	賃貸マンション	330	有	本調査	82	柱穴など	1-2-21
3	田村遺跡群隣接地	早良区大字田78-1の一部	890509	店舗付住宅	1,650	無		84	沖積低湿地	1-2-33
4	有田遺跡群	早良区小田部一丁目109，115	890516	未定	1,174	無		82	既削平	1-2-34
5	小田部城址	早良区有田二丁目16番14の一部外2筆	890524	貸アパート	733.84	無		82	既削平	1-2-35
6	小田部城址	早良区有田二丁目16番35，16番37	890524	専用住宅	297.54	無		82	既削平	1-2-36
7	有田遺跡群	早良区小田部三丁目318番	890608	農業倉庫改築	237.6	無		82	既削平	1-2-42
8	有田遺跡群	早良区小田部三丁目3-2	890608	専用住宅	93	有	慎重工事	82	竪穴住居址か	1-2-43
9	原遺跡群	早良区原七丁目1030-4	890000	店舗付共同住宅	578.80	無		82	沖積低湿地	1-2-54
10	原遺跡群	早良区原六丁目22番27号	890608	ビル建設	330.19	無		82	沖積低湿地	1-2-64
11	有田遺跡群2号墳	早良区小田部一丁目25-10	890706	専用住宅	316.8	無		81	既削平	1-2-72
12	藤崎遺跡群	早良区藤崎一丁目119，120番	890608	賃貸住宅	176.02	有	本調査	81	古墳時代生活遺構	1-2-73
13	原遺跡群	早良区原六丁目830番5	890615	専用住宅	284.65	無		82	沖積扇状地	1-2-74
14	熊本遺跡群	早良区大字重留字谷874番5,874番6	890619	専用住宅	415.71	無		85	沖積扇状地	1-2-89
15	重留村下遺跡群	早良区大字重留字松本1229番1外4筆	890630	分譲住宅	1,130.22	無		84	沖積扇状地	1-2-96
16	有田遺跡群	早良区有田二丁目21-2，21-3	890711	専用住宅	161	無		82	既削平	1-2-110
17	藤崎遺跡群	早良区藤崎一丁目1-60	890810	アパート建設	147.69	有	本調査	81	古代～中世集落址	1-2-117
18	有田遺跡群	早良区小田部三丁目371番	890803	専用住宅	165.61	無		82	既削平	1-2-140
19	有田遺跡群	早良区南庄三丁目75番	890803	専用住宅	211.2	無		81	既削平	1-2-142

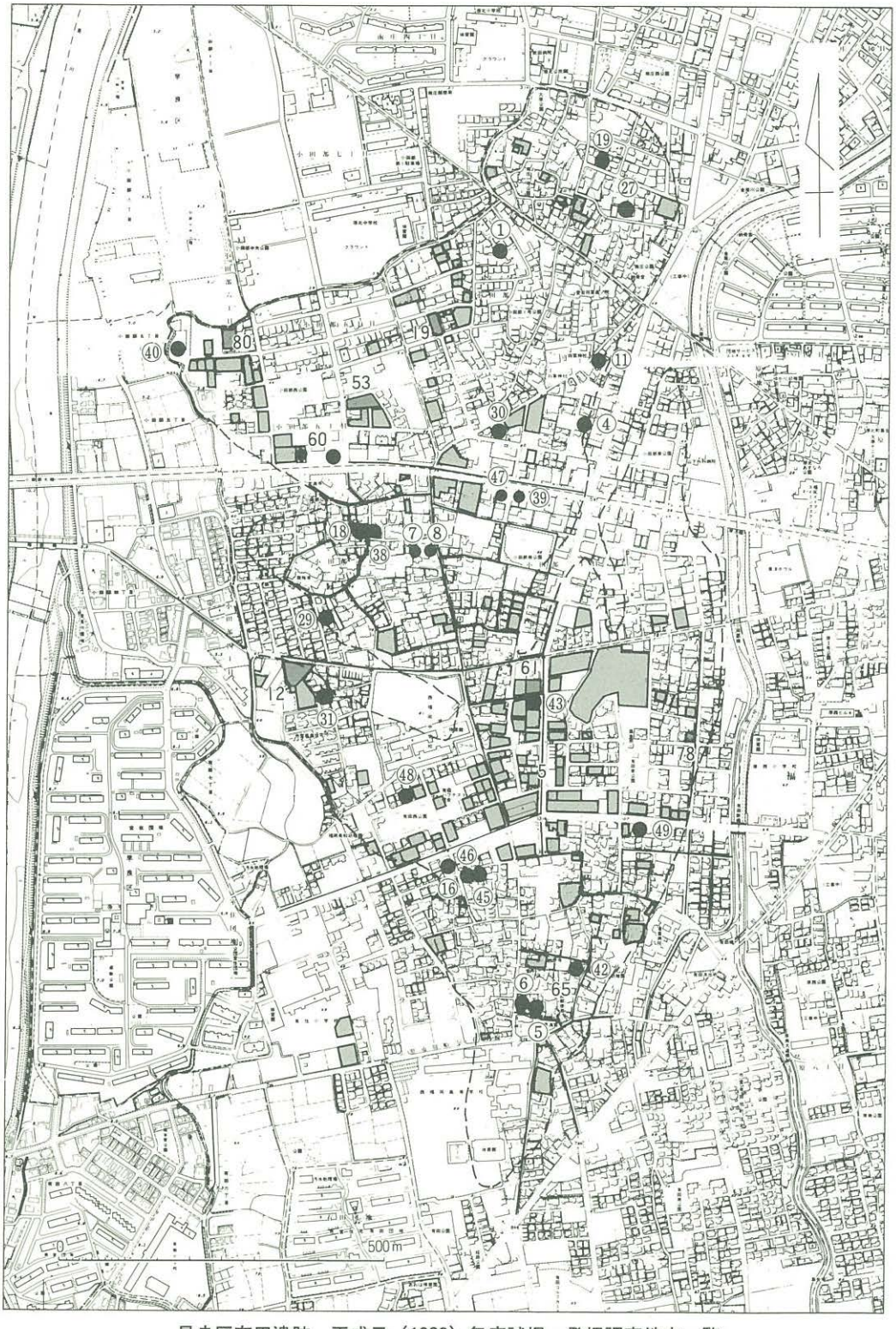
20	有田遺跡群	早良区大字原字上方	890810	専用住宅	165.4	無		82	沖積微高地	1-2-143
21	西新町遺跡	早良区高取一丁目11番，12番	890810	ビル建設	133.43	無		72	既削平	1-2-144
22	飯倉Ａ遺跡	早良区飯倉二丁目6-16	890829	マンション建設	688.34	無		73	沖積低湿地	1-2-147
23		早良区大字田字高柳625番1	890829	分譲住宅	1,631.66	無		84	旧河川氾濫原	1-2-160
24	藤崎遺跡群	早良区高取一丁目455番地	891012	店舗付住宅	674.38	有	本調査	72	古墳～奈良時代集落址	1-2-187
25	四箇大町遺跡	早良区大字四箇字小豆町706-1	891003	専用住宅	488	無		93	沖積微高地	1-2-191
26		早良区梅林七丁目46-10外	890922	分譲住宅	6,752.24	無		75	既削平	1-2-194
27	有田遺跡群	早良区南庄三丁目384-2	891107	賃貸住宅	387	無		81	既削平	1-2-198
28	藤崎遺跡群	早良区高取二丁目173番3	891019	賃貸マンション	273.34	有	本調査	81	古代竪穴住居址など	1-2-202
29	有田遺跡群	早良区小田部三丁目130	891003	専用住宅	264.10	無		82	丘陵谷部	1-2-205
30	有田遺跡群	早良区小田部一丁目157番	891025	共同住宅	612	有	本調査	82	古墳時代生活遺構	1-2-210
31	有田遺跡群	早良区小田部三丁目25	891025	専用住宅	318	有	慎重工事	82	古代生活遺構	1-2-211
32	田村遺跡群	早良区大字田字柿木町548-1，554	890822	事務所付倉庫	1,763.51	有	慎重工事	84		1-2-215
33	西新町遺跡	早良区西新五丁目645，646-7	891026	共同住宅	241.32	無		72	海岸砂州	1-2-227
34	原遺跡群	早良区原六丁目1182-3	891031	診療所	330.60	無		82	沖積低湿地	1-2-234
35	免遺跡群	早良区賀茂一丁目303番1	891124	共同住宅	1,196.97	有	慎重工事	83	中世溝状遺溝	1-2-243
36	四箇遺跡群	早良区大字四箇520-1	891114	賃貸住宅	1,000	無		84	沖積微高地	1-2-249
37	有田遺跡群	早良区小田部三丁目330番、341番	891124	専用住宅	142.54	無		82	既削平	1-2-254
38	有田遺跡群	早良区小田部三丁目2-15	891205	専用住宅	400	有	慎重工事	82	中世生活遺溝	1-2-273
39	有田遺跡群	早良区小田部二丁目36	891206	モデル・ルーム	322.40	有	慎重工事	82	弥生～古墳時代生活遺構	1-2-277
40	有田遺跡群	早良区小田部五丁目142番	891205	共同住宅	520.47	有	慎重工事	90	中世溝状遺構など	1-2-279
41	飯倉Ｅ遺跡	早良区飯倉二丁目453番1，455番45	891213	未定	321.97	無		73	既削平	1-2-283
42	有田遺跡群	早良区有田二丁目16-3，16-5，16-6	891220	専用住宅	570	有	慎重工事	82	弥生～古墳時代生活遺構	1-2-286
43	有田遺跡群	早良区有田一丁目27番8外2筆	891213	専用住宅	373.61	有	慎重工事	82	弥生～古墳時代生活遺構	1-2-287
44	藤崎遺跡群	早良区藤崎一丁目59	900215	店舗付住宅	126.24	有	本調査	81	弥生～古墳時代生活遺構	1-2-305
45	有田遺跡群	早良区有田二丁目19-3	900208	専用住宅	232.57	有	慎重工事	82	弥生～古墳時代生活遺構	1-2-335

46	有田遺跡群	早良区有田二丁目19-4	900227	専用住宅	281	無		82	既削平	1-2-344
47	有田遺跡群	早良区小田部三丁目137番	900228	店舗建設	528	有		82	弥生～古墳時代生活遺構	1-2-350
48	有田遺跡群	早良区有田一丁目34-3	900222	専用住宅	232	有	本調査	82	弥生～古墳時代生活遺構	1-2-356
49	有田遺跡群	早良区有田二丁目10-10	900000	専用住宅	204.96	無		82	既削平	1-2-383

西区

番号	遺跡		調査日	事業		遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
	名称	所在地		種別	面積					
1	女原古墳群Cなど	西区大字今宿町字南方501-19外	890426	宅地造成	24,876	有	計画停止	120外	群集墳	63-2-604
2	今宿遺跡群	西区大字今宿町字ム田730番他11筆外	890426	店舗建設	7,284.73	無		112	氾濫原	1-2-11
3		西区上山門一丁目484番	890525	共同住宅	1,299	無		103	沖積低湿地	1-2-26
4		西区福重三丁目298番17外2筆	890712	分譲マンション	3,158	無		91	氾濫原	1-2-101
5	拾六町亀田遺跡	西区拾六町二丁目325番1外11筆	890726	店舗建設	14,381	有	一部本調査	91	中世集落址	1-2-120
6	橋本一丁田遺跡	西区拾六町一丁目31-1	890802	店舗建設	3,296	無		91	遺構なし	1-2-124
7	青木遺跡群	西区今宿青木字小畠107番地1外	891107	共同住宅	4,228.86	有	本調査	112	古代～中世集落址	1-2-158
8	愛宕山古墳	西区愛宕三丁目4823-12外	890907	共同住宅	1,871	有		80	古墳なし	1-2-168
9	女原上ノ原製鉄址	西区大字女原字浅鹿谷378-2	891017	資材置場	3,273	有		129	古代製鉄址	1-2-190
10		西区今宿町字　口591-3外	890927	店舗建設	2,717.27	無		112	沖積低湿地	1-2-193
11	周船寺遺跡群	西区周船寺二丁目390-3	891018	ビル建設	330.58	無		120	氾濫原	1-2-207
12		西区野方二丁目485-3、486-1	891018	分譲住宅	815	有	本調査	105	弥生時代集落址	1-2-208
13		西区野方二丁目486-2	891018	分譲住宅	285.39	有	本調査	105	弥生時代集落址	1-2-209
14	羽根戸原C遺跡群	西区大字羽根戸字唐木190-5外1筆	891031	事務所建設	961	有	慎重工事	92	弥生時代集落址	1-2-236
15	下山門敷町遺跡	西区石丸三丁目248番1外4筆	891205	共同住宅	1,840	無		90	旧河川	1-2-257
16	橋本一丁田遺跡	西区福重二丁目474番27	891220	倉庫建設	1,570.49	無		91	沖積低湿地	1-2-288
17		西区石丸二丁目489-1外2筆	900208	共同住宅	3,987.47	有	本調査	90	弥生時代前期溝状遺構など	1-2-308
18	羽根戸原C遺跡群	西区大字羽根戸字小畑303-9	900214	店舗併用住宅	294	有	慎重工事	92	中世溝状遺構など	1-2-340

19	大塚遺跡	西区大字今宿字鎌研379-1	900215	病院建設	2,828	無		112	沖積低湿地	1-2-341
20		西区大字草場地内	890405	圃場整備	80,000	無		138	旧河川	1-1-12
21	吉武遺跡群	西区飯盛地内	890713	道路建設	1,050	無		93	氾濫原	1-1-406
22	今津Ｃ遺跡	西区今津地内	890720	道路建設	600	有	本調査	118	古墳時代ピットなど	1-1-496
23		西区小呂島	891117	浄水場建設	700	無		145	遺構なし	2-1-43
24		西区飯氏地内	891127	国道建設	18,000	有	本調査	132	縄文～弥生時代の生活遺構	2-1-179
25		西区橋本地内	891107	道路建設	28,000	無		91・92	氾濫原	2-1-184
26	山崎古墳	西区周船寺地内	900223	公園建設		無		120	古墳なし	2-1-424



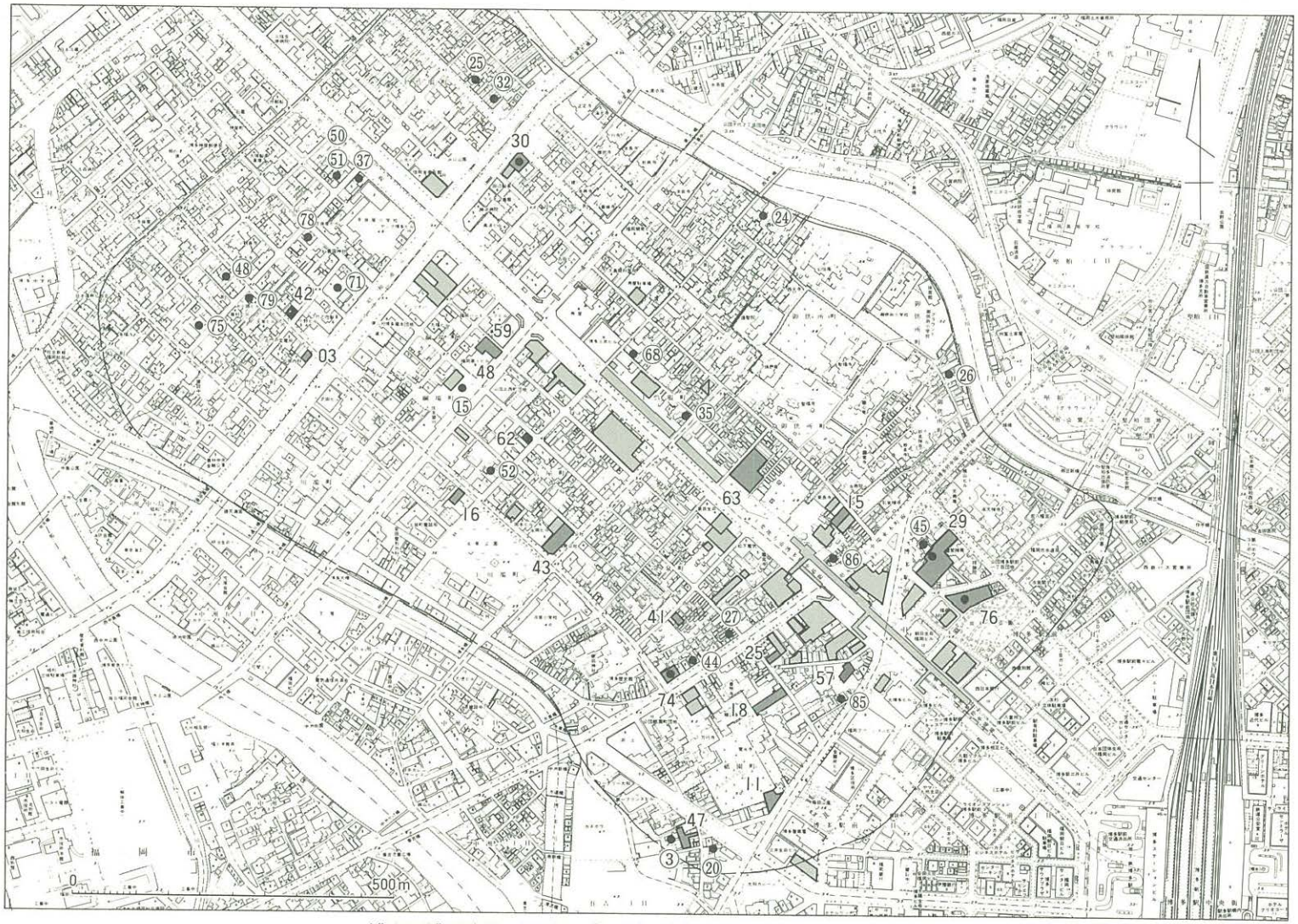
早良区有田遺跡　平成元（1989）年度試掘・発掘調査地点一覧

●は試掘調査地点（番号は試掘調査一覧〈早良区〉に一致）

■は発掘調査地点（番号は発掘調査一覧―16～18Ｐ―に一致）

□は既往の発掘調査地点

道路上の黒色実線は下水埋設に係る調査位置をしめす



博多区博多遺跡　平成元（1989）年度試掘・発掘調査地点一覧

●は試掘調査地点（番号は試掘調査一覧〈博多区〉に一致）

■は発掘調査地点（番号は発掘調査一覧―16～18Ｐ―に一致）

■は既往の発掘調査地点

Ⅱ　発掘調査の概要

本市における埋蔵文化財の発掘調査は、公共的事業にかかる調査を本課第１係、民間事業および区画整理・圃場整備・国庫補助事業にかかる調査を第２係が担当している。なお年度の調査量の多寡により、随時係間での補完をはかっている。

また本市では、調査資料の保管・管理のため個々の遺跡の発掘調査に固有の遺跡略号・調査番号をつけて登録し、数字・アルファベットで調査資料を検索するシステムを採用している。以下の概要記述で調査番号とするものはこの番号であり、西暦年（上２桁）＋調査順（下２桁）の４桁数字で表示する。更に調査番号は、調査開始時に設定するために１遺跡の調査が複数年度にまたがる場合、開始年度のみに番号が登録されることがある。

1)　平成元年度の概要

本年度市域内で実施された発掘調査件数は86件であり、昭和63年度より20件の増加である。

調査の主たる原因となったもののうち最も多いのは、博多・早良・西の各区における民間共同住宅・事務所ビル及び専用住宅建設に伴うものであり、今年度特に博多遺跡群では前者が顕著であった。また公共的事業は前年度比で推移した。

調査面積では前年度を30,000㎡以上も上まわり，爆発的な圃場整備に伴う増加にくわえて民間営業があり、公共的事業実績を追い抜いている。

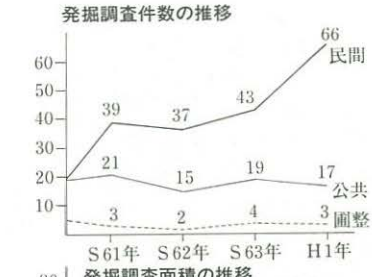
民間営業に伴う調査は特に博多区に顕著であるが、文化層の重層性による工事工程との調整に非常な困難が伴った。また早良区圃場整備（脇山・入部地区）では増加する調査対象面積と事業の時間的制約の間で調査機能の限界を補完できる有効な解決方法が再度求められている。

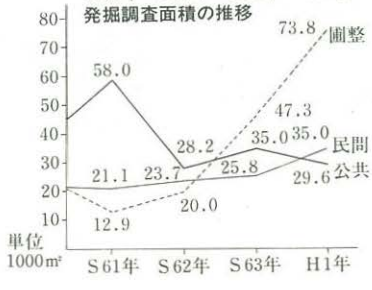
発掘調査件数の推移　（件）

	S. 61年	S. 62年	S. 63年	H. 1年
民　　間	39	37	43	66
圃場整備	3	2	4	3
公　　共	21	15	19	17
計	63	54	66	86

発掘調査面積の推移　（㎡）

	S. 61年	S. 62年	S. 63年	H. 1年
民　　間	21,157	23,776	25,826	35,054
圃場整備	12,870	20,000	47,330	73,790
公　　共	58,052	25,233	35,082	29,605
計	92,079	72,009	108,238	138,449





平成元年度発掘調査状況と調査地点の位置

調査地点の番号は発掘調一覧16～18Pと一致する。

平成元（1989）年度埋蔵文化財課発掘調査一覧

調査番号	遺跡名	次数	地区	遺跡略号	調査原因	調査種類	調査地所在地	調査面積		調査期間	調査担当者	報告書	分布地図
								m²	古墳				
8901	板付遺跡		F-5i	ITZ	専用住宅	補	博多区板付二丁目12-9外	163		890408～890422	山口譲治		024-A-8
8902	比恵遺跡群	22		HIE-22	倉庫	民・補	博多区博多駅南四丁目19-2	215		890411～890422	杉山富雄		037-A-1
8903	博多遺跡群	46		HKT-46	共同住宅	民	博多区古門戸町1	150	4面	890411～890520	吉留秀敏		048-A-1
8904	麦野B遺跡群			MGB-1	事業所	民	博多区銀天町二丁目4	100		890411～890412	佐藤一郎		012-A-3
8905	有田遺跡群	149		ART-149	分譲住宅	民	早良区有田一丁目21-3	145		890413～890501	山崎龍雄	234	081-A-3
8906	那珂遺跡群	20		NAK-20	共同住宅	民・補	博多区那珂二丁目257外	750		890417～890624	下村　智・荒牧宏行		038-A-3
8907	板付遺跡		F-9·10	ITZ	共同住宅	民・補	博多区板付四丁目9-2	720		890417～890610	山口譲治		024-C-1
8908	原遺跡群	14		HAR-14	給油所	民	早良区原六丁目21-35	550		890418～890527	瀧本正志		082-A-2
8909	比恵遺跡群	23		HIE-23	事業所	民	博多区博多駅南五丁目40-1	88		890418～890423	小林義彦	227	037-A-1
8910	鴻臚館	5		KRE	範囲確認	市・補	中央区城内	1,200		890420～891207	山崎純男・吉武　学		060-E-1
8911	博多遺跡群	47		HKT-47	ビル	民	博多区祇園町390-2、393	工事立会		890425	常松幹雄		049-A-1
8912	有田遺跡群	150		ART-150	共同住宅	民・補	早良区小田部三丁目163	1,087		890510～890707	山崎龍雄		082-A-1
8913	重留古墳群	4		STK-D-1	防災工事	補	早良区大字重留字後谷	249	1基	890513～890701	荒牧宏行		084
8914	飯倉H遺跡	1		IKR-H-1	市営住宅	公	城南区梅林五丁目176外	1,700	1基	890510～890819	濱石哲也・菅波正人		083
8915	博多遺跡群	48		HKT-48	共同住宅	民	博多区御供所町40外	263	4面	890516～890801	小畑弘己		049-A-1
8916	博多遺跡群	49		HKT-49	駐車場	民	博多区上川端町272、273	90	2面	890518～890531	加藤良彦		049-A-1
8917	比恵遺跡群	24		HIE-24	共同住宅	民	博多区博多駅南3丁目317	340		890523～890619	吉留秀敏		037-A-1
8918	博多遺跡群	50		HKT-50	共同住宅	民	博多区祇園町317外	730		890602～891014	大庭康時		049-A-1
8919	有田遺跡群	151		ART-151	分譲住宅	民	早良区小田部一丁目203、207	70		890602～890607	加藤良彦		082-A-1
8920	蓮町遺跡	1		HMC-1	道路	公	西区大字飯氏字蓮町	2,297		890401～890615	松村道博・宮井善朗		120-A-3
8921	飯氏遺跡群	3		IIJ-3	道路	公	西区大字飯氏字鏡原・馬場	13,500		890615～900331	松村道博・宮井善朗		121-A-1
8922	藤崎遺跡群	15		FUA-15	共同住宅	民	早良区藤崎一丁目11-1	204	2面	890610～890620	加藤良彦		081-A-1
8923	那珂遺跡群	21		NAK-21	工場	民	博多区竹下三丁目1-1	1,988		890608～890916	山口譲治		037-A-3
8924	比恵遺跡群	25		HIE-25	事業所	民	博多区博多駅南三丁目1-1	400		890619～890904	横山邦継・田崎博之		037-A-1
8925	博多遺跡群	51		HKT-51	共同住宅	民	博多区祇園町154-1·2	200	5面	890619～890715	瀧本正志		049-A-1
8926	井相田C遺跡群	3		ISC-3	共同住宅	民・補	博多区井相田二丁目2-6	650		890623～890915	吉留秀敏		012
8927	拾六町平田遺跡	1		JRH-1	共同住宅	民	西区大字拾六町字平田86	1,168		890626～890810	小林義彦		091-A-8
8928	瀬戸口古墳群	2		SGK-2	宅地造成	民	城南区東油山字瀬戸口	1,168	1基	890626～890808	加藤良彦		064-A-1

8929	博多遺跡群	52		HKT-52	防火水槽	民	博多区博多駅前一丁目155-1	29	2面	890626～890704	常松幹雄		036-A-1
8930	博多遺跡群	53		HKT-53	給油所	民	博多区中呉服町154外	190	2面	890627～890705	横山邦継		048-A-1
8931	岩本遺跡群	3		IRB-3	圃場整備	公・補	早良区大字入部地内	37,500		890801～900321	井沢洋一・野村俊之		085-A-2・A・3・A-6
8932	谷口遺跡	1		TNG-1	圃場整備	公・補	早良区大字脇山字谷口地内	22,931		890701～900228	井沢洋一・野村俊之		早18-A-7
8933	脇山A遺跡群	4		WKA-4	圃場整備	公・補	早良区大字脇山字会田地内	13,359		891030～900203	井沢洋一・野村俊之		早18-A-5
8934	田村遺跡群	9		TMR-9	公民館	公	早良区大字田字鶴園835-1	540		890705～890816	濱石哲也・瀧本正志		093-A-1
8935	那珂遺跡群	22		NAK-22	共同住宅	民	博多区竹下五丁目420	516		890707～890822	荒牧宏行		037-A-3
8936	那珂遺跡群	23		NAK-23	保育所	公	博多区竹下五丁目282、283	1,428		890710～900104	下村　智・荒牧宏行		038-A-3
8937	飯倉C遺跡	1		IKR-C-1	共同住宅	民	城南区七隈三丁目77-6外	2,412		890717～891018	山崎龍雄		037-A-3
8938	愛宕山古墳	1		ATG-1	宅地造成	調査団	西区愛宕三丁目4278-4外	300	1基	890703～890929	(佐田茂)		080
8939	比恵遺跡群	26		HIE-26	駐車場	民	博多区博多駅南三丁目58	482		890807～890923	小畑弘己		037-A-1
8940	飯倉F遺跡	1		IKR-F-1	公園	公	城南区梅林三丁目地内	1,000		890817～891021	瀧本正志		074-A-3
8941	博多遺跡群	54		HKT-54	店舗付住宅	試掘	博多区冷泉町二丁目128-2	79		890710～890711	常松幹雄		048-A-1
8942	博多遺跡群	55		HKT-55	事業所	民	博多区奈良屋町61-1	128	3面	890811～890921	小林義彦		048-A-1
8943	博多遺跡群	56		HKT-56	国際交流会館	公	博多区店屋町4-1外	476	3面	890905～900203	濱石哲也・菅波正人		049-A-1
8944	大塚遺跡群	7		OTK-7	分譲住宅	民・補	西区今宿町大塚334-1	134		890830～890926	加藤良彦		112-A-4
8945	鋤崎古墳群	2		SKK-2	ガス基地	民	西区大字今宿青木字鋤崎	480	5基	890925～891118	小林義彦		112-B-4
8946	藤崎遺跡群	16		FUA-16	共同住宅	民	西区藤崎一丁目1-60	70	2面	890907～890920	池田祐司・長家　伸		081-A-1
8947	博多遺跡群	57		HKT-57	ビル	民	博多区祇園町557	184		891003～891005	小畑弘己		049-A-1
8948	博多遺跡群	58		HKT-58	ビル	民	博多区綱場町20外	70	3面	891006～891016	山口譲治		049-A-1
8949	麦野C遺跡群	1		MGC-1	共同住宅	民・補	博多区麦野六丁目11-4	633		891011～891118	小畑弘己		012-A-4
8950	福岡城肥前堀	4		HZB-4	庁舎建設	公	中央区天神一丁目8-1	700		891011～891021	菅波正人		049-E-1
8951	草場古墳群	2		KSK-2	宅地造成	民	西区大字下山門字大谷	2,575	8基	891012～900303	加藤良彦		103-B-7
8952	四箇遺跡群	24		SIK-24	宅地造成	民	早良区大字重留1096外	1,712		891016～900120	常松幹雄		084-A-2
8953	有田遺跡群	152		ART-152	店舗	民	早良区小田部五丁目48、49	770		891023～891121	山崎龍雄		082-A-1
8954	拾六町亀田遺跡	1		JRK-1	店舗	民・補	西区拾六町二丁目325-1外	363		891023～891102	大庭康時		091-A-6
8955	羽根戸古墳群	1	Q群	HDK-Q-1	墓園建設	公	西区大字羽根戸字佛尾871-3	440	3基	891023～900205	瀧本正志		105
8956	野多目A遺跡群	3		NMA-3	宅地造成	民	南区野多目一丁目外	1,740		891107～891218	大庭康時		039-A-11
8957	博多遺跡群	59		HKT-59	駐車場	民	博多区祇園町187-226	276	6面	891107～900224	山口譲治		049-A-1
8958	上月隈遺跡	1		KTG-1	宅地造成	民	博多区大字上月隈字山浦	1,049		891120～891222	小林義彦		010-A-7
8959	博多遺跡群	60		HKT-60	ビル	民	博多区綱場町115外	730	4面	891124～900502	小畑弘己		094-A-1
8960	有田遺跡群	153		ART-153	共同住宅	民	早良区小田部五丁目70、71	263		891115～891130	山崎龍雄		082-A-1

8961	有田遺跡群	154		ART-154	店舗	民	早良区有田一丁目24-2	382		891205～900122	山崎龍雄		082-A-1
8962	博多遺跡群	61		HKT-61	共同住宅	民	博多区店屋町182-1～5	95	3面	891205～900129	菅波正人		049-A-1
8963	博多遺跡群	62		HKT-62	ホテル	民	博多区御供所町195外		5面	891218～710228	大庭康時		049-A-1
8964	藤崎遺跡群	17		FUA-17	共同住宅	民	早良区藤崎一丁目119、120	120		891215～891223	横山邦継		081-A-1
8965	有田遺跡群	155		ART-155	下水建設	公	早良区有田地内	455		890401～900331	宮井善朗・長家　伸		082-A-1
8966	原遺跡群	15		HAR-15	下水建設	公	早良区原地内	550		890401～900331	長家伸		082-A-2
8967	箱崎遺跡	3		HKZ-3	共同住宅	民	東区箱崎一丁目2731-1・4	156		900109～900221	下村　智		034
8968	影ケ浦古墳群	2		KGK-2	畑地造成	補	博多区大字金隈影ヶ浦326	1,113	2基	900120～900309	荒牧宏行		011-B-1
8969	堅粕遺跡	3		KKS-3	ビル	民	博多区千代二丁目292外	565	2面	900125～900207	山崎龍雄		035-A-2
8970	田村遺跡群	10		TMR-10	道路	公	早良区大字田字霤園840他6筆	600		900208～900331	瀧本正志		084-A-1
8971	比恵遺跡群	27		HIE-27	事業所	民	博多区博多駅南四丁目10-18	165		900208～900228	菅波正人		037-A-1
8972	相原古墳群	2		ABK-2	畑地造成	補	西区大字青木上ノ原	121	1基	900213～900313	山崎龍雄		113
8973	山ノ鼻1号墳			YHK-1	重要確認	補	西区大字徳永字山ノハナ265-1外	320	1基	900213～900331	小林義彦		120
8974	博多遺跡群	63		HKT-63	共同住宅	民	博多区冷泉町90-3外	275	3面	900213～900420	濱石哲也・菅波正人		049-A-1
8975	箱崎遺跡	4		HKZ-4	池建設	試掘	東区箱崎一丁目2761番	工事立会		890705	常松幹雄		034
8976	博多遺跡群	64		HKT-64	ビル	民	博多区博多駅前一丁目101	620	3面	900226～900731	山口譲治		036-A-1
8977	藤崎遺跡群	18		FUA-18	共同住宅	民	早良区高取一丁目59	60	2面	900301～900307	宮井善朗		081-A-1
8978	有田遺跡群	156		ART-156	専用住宅	補	早良区有田一丁目12-2	131		900306～900330	加藤良彦		082-A-1
8979	藤崎遺跡群	19		FUA-19	共同住宅	民	早良区高取一丁目455	350	2面	900308～900328	下村　智		081-A-1
8980	有田遺跡群	157		ART-157	専用住宅	補	早良区小田部五丁目131-1	128		900314～900331	山崎龍雄		082-A-1
8981	比恵遺跡群	28		HIE-28	共同住宅	民	博多区博多駅南三丁目426	405		900314～900407	荒牧宏行		037-A-1
8982	那珂遺跡群	24		NAK-24	共同住宅	民	博多区那珂一丁目35	325		890802～890803	横山邦継		037-A-3
8983	那珂遺跡群	25		NAK-25	共同住宅	民	博多区東光寺一丁目218	100		890912～890921	山口譲治		037-A-3
8984	椛の谷遺跡	1		KND-1	学校建設	公	東区青葉台三丁目438-8	100		891222～891223	山崎純男		077-A-1
8985	今津C遺跡	1		IMC-1	道路建設	公	西区大字今津723-2	120		900122～900127	佐藤一郎		118-A-4
8986	板付遺跡			ITZ	史跡整備		博多区板付二丁目地内	6,500		890415～891029	山崎純男・濱石哲也 菅波正人・二宮忠司		024-A-8

8901　板付遺跡 F-5i 調査区（ITZ-F—5i）

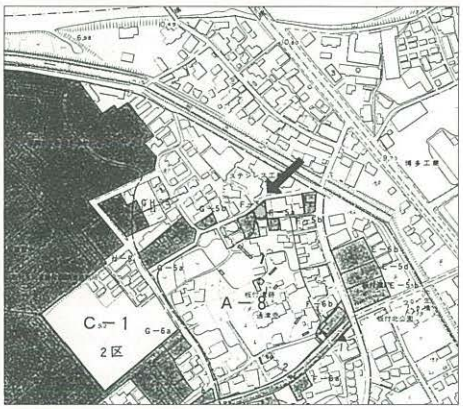
所 在 地　博多区板付二丁目12-9外
調査原因　専用住宅建設
調査期間　890408～890422
調査面積　163㎡
担 当 者　山口譲治
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は国指定史跡板付遺跡に近接する板付中央台地の北端部に立地し、標高9.8mを測る。約10～80㎝の盛り土を除去すると基盤の鳥栖ローム層となり、弥生時代、古墳時代の井戸と近世の井戸を検出した。

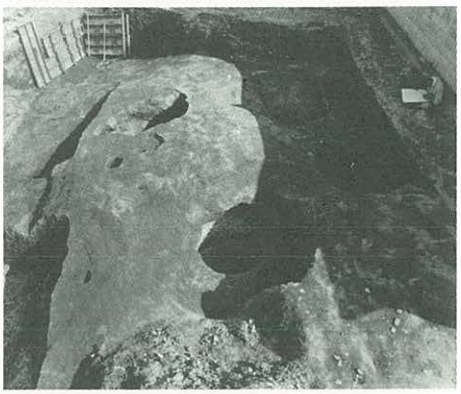
検出遺構
・弥生時代中期後半～後期：井戸２基
・古墳時代前半期（初頭）：井戸３基
・近世：溝３条

出土遺物　弥生時代中期後半から後期の遺物として、袋状口縁壺・直口壺など完形品14個を含む土器類がコンテナ５箱分と、片刃石斧などの石器が少量ある。古墳時代の遺物として、壺・甕などの完形品14個を含む土師器がコンテナ３箱分出土した。近世の遺物として、陶磁器や土師器がコンテナ３箱分出土した。

まとめ　調査地は板付中央台地の北辺部に位置し、史跡に近接している。近世に削平されており、弥生時代中期後半と後期前半の井戸２基と、古墳時代前半期の古式土師器段階の井戸３基が遺存していたのみである。どの井戸も鳥栖ローム層・八女粘土層を掘りぬき、含水層である硬砂層に達しており、硬砂層の水を利用している。湧水点を中心として、土器祭祀が行われている。この周辺部には井戸が比較的多く存在しており、史跡板付遺跡と同じ時期の生活空間を考える資料を得たといえよう。



1．調査地点の位置（024—Ａ—8．1：8000）


2．井戸分布状況

3．井戸内遺物出土状況

8902　比恵遺跡群第22次（HIE－22）

所 在 地　博多区博多駅南四丁目19-2
調査原因　倉庫建設
調査期間　890411～890422
調査面積　215㎡
担 当 者　杉山富雄
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地点は、比恵遺跡群推定範囲のほぼ中央部に位置し、河川氾濫原の低地に面した台地西縁部に立地する。

一帯の現況は、区画整理による地形の改変が著しい。

検出遺構　発掘調査は、重機により表土を除去しておこなった。

発掘区西半部は、低地につながる段落ちとなって、柱穴とみられる小穴が少数検出された。ただし、調査範囲の制限もあって、建物を復元できなかった。調査区壁の土層観察からすると、この状況は水田として利用された結果と考えられる。

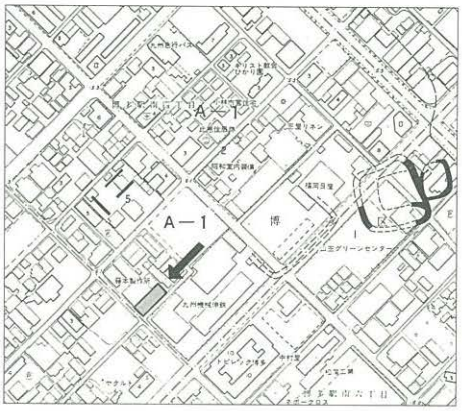
調査区東半部は、一段高く平坦である。ローム層が残されており、その面を検出面とした。遺構は、密に分布している。工場の建替え等のため、部分的に撹乱が著しい。調査したおもな遺構を以下に示す。

弥生時代中期に属すると考えられる円形および、楕円形の竪穴住居址２軒。それとは別に長方形の竪穴住居址１軒がある。部分的な遺存であるが、床面には、縁を一段高く盛った地床炉が検出された。

古墳時代前期の溝は、調査区の中央で陸橋状に途切れる。

このほかに柱穴が密集して分布している。建物として平面形を復原できたものはない。遺構の多くから弥生時代の遺物を出土する。

まとめ　比恵遺跡群内における発掘調査は20余次にわたるが、台地西縁部におけるそれは、今回が最初であり、その状況を知ることが出来たという意味で重要である。



1．調査地点の位置（037－A－1．1：8000）

2．遺跡全景（南から）

3．炉をもつ竪穴住居址

8903　博多遺跡群第46次（HKT－46）

所 在 地　博多区古門戸町1
調査原因　共同住宅建設
調査期間　890411～890520
調査面積　150m²
担 当 者　吉留秀敏
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は博多遺跡群北端に近い砂丘上に位置する。旧状は宅地で、表土下約1.2mで中世包含層である黒褐色粘質砂層に達する。

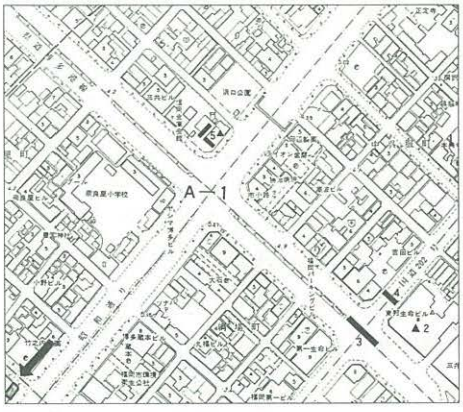
これよりGL－約4m、標高4m付近まで遺物を包含する砂質土となる。

検出遺構面は4面あり、上から1・2面は13世紀後半以降であり、3・4面は11、12世紀となる。

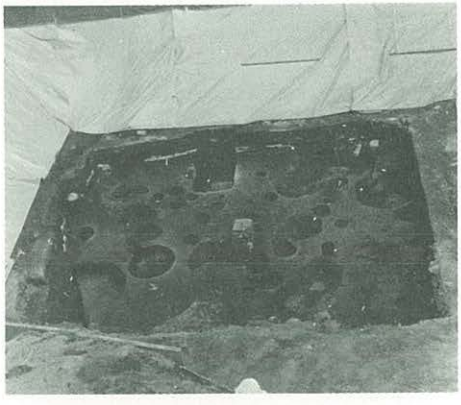
検出遺構　検出した遺構は中世の井戸7基、古代末～中世の土壙12基、柱穴多数である。土壙の中には備前焼大甕を据え置いたものがあり、内部底面から宋銭を数点検出した。

出土遺物　輸入陶磁器類、国産陶磁器類、土師器、須恵器、瓦器、瓦片、金属器類、骨片（人、獣）などがある。総量でコンテナ40箱程度である。

まとめ　調査地点は博多遺跡群最北端に位置する。この地点でも11世紀代からの集落形成が確認されたことは成果であった。



1．調査地点の位置（048－A－1．1：8000）


2．調査区第2面全景（南から）

3．備前焼大甕（14世紀）出土状況

8904　麦野Ｂ遺跡群第１次（MGB－１）

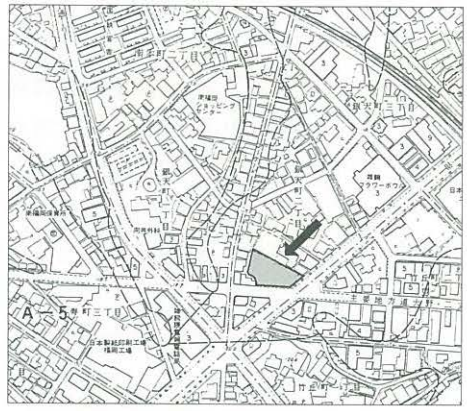
所 在 地　博多区銀天町二丁目４
調査原因　事業所建設
調査期間　890411～890412
調査面積　100㎡
担 当 者　佐藤一郎
処　　置　調査後破壊

位置・環境　麦野Ｂ遺跡は諸岡川と御笠川に挟まれた南北にのびる台地上に立地し、今回の調査地点は麦野Ｂ遺跡の南端部に位置する。調査地点の北500ｍの麦野Ａ、Ｂ遺跡群に挟まれた谷部に面した麦野Ａ遺跡の東辺部では、公園建設に伴って発掘調査（麦野Ａ遺跡第１次、調査番号8520）が行われ、７～８世紀の井戸１基、13世紀の井戸１基などが検出されている。

検出遺構　申請地は既存の建物によってそのほとんどが削平を受けており、削平を免れた約100㎡が調査の対象となり、７～８世紀の竪穴住居址が検出された。残存する壁の高さは後世の削平により10㎝を測るにとどまる。竈が設けられていたが、基底部が残るのみであった。建物に伴う柱穴は検出されなかった。

出土遺物　出土遺物は竪穴住居址覆土、竈基底部から細片が出土したのみである。

まとめ　調査地点の南西に拡がる南八幡遺跡群では、６世紀後半から８世紀前半にかけての竪穴住居址、掘立柱建物から構成される集落が検出されており、今回の調査で竪穴住居址が１棟ながら検出されたことで、集落の拡がりを追うことができた。



１．調査地点の位置（012－Ａ－３．１：8000）

２．竪穴住居址検出状況

8905　有田遺跡群第149次（ART－149）

所 在 地　早良区有田一丁目21-3
調査原因　分譲住宅建設
調査期間　890413～890501
調査面積　145㎡
担 当 者　山崎龍雄
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は八手状に北へ延びる有田・小田部台地の最高所部分よりやや下った台地斜面上に立地し、標高は11～12mを測る。調査区周辺は有田・小田部台地で最も広い平坦面をもち、かつ最もよく調査が行われている地域である。周辺の調査例では、1979年に南側の第19次調査区、1981年に北側の第61次調査区の調査が実施されており、古墳時代前期の竪穴住居址や、中世末期の濠などが検出されている。

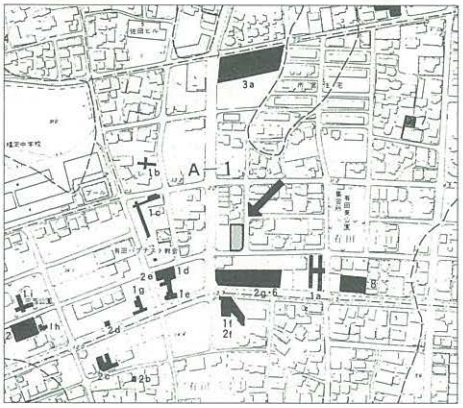
検出遺構　主な検出遺構は以下のとおり。

・古墳時代：前期竪穴住居址１棟、土壙５基
・近世：溝３条

他にピット群を検出したが、調査区が狭いため建物としてまとめられなかった。

出土遺物　古墳時代の住居址から、甕・高杯・鉢・壺・器台などの土師器が出土した。中世の土壙（SK-04）からは板碑の破片とともに外底部に墨書が残る同安窯系の青磁碗片が出土した。遺物の総量はコンテナ８箱分である。

まとめ　竪穴住居址 SC 05 は第19次調査区で検出した住居址と主軸の方向が同一であり、出土遺物から見てもほぼ同時期と考えられる。また第19次および第61次調査区で検出された東西方向の濠は、今回の調査区では検出されなかった。



1．調査地点の位置（081－Ａ－3．1：8000）

2．調査区全景（南から）

3．SC-05 遺物出土状況（南から）

8906　那珂遺跡群第20次（NAK－20）

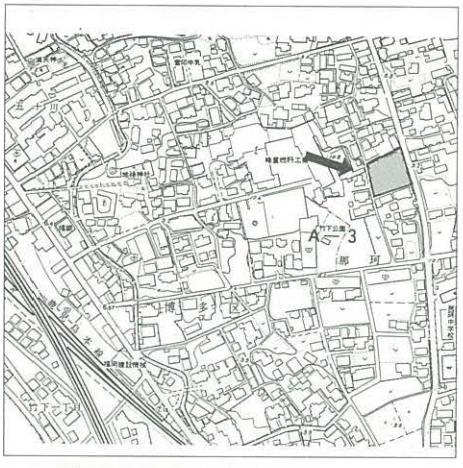
所 在 地　博多区那珂二丁目257外
調査原因　共同住宅建設
調査期間　890417～890624
調査面積　750㎡
担 当 者　下村　智・荒牧宏行
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地点は、那珂遺跡群の拡がる那珂台地中央部に位置し、標高は９ｍ。北200ｍの地点は、三角縁神獣鏡を出土した那珂八幡古墳がある。

検出遺構
・弥生時代中期後半～後期前半：大溝（環濠）１、掘立柱建物２、井戸址１
・古墳時代初頭：井戸址１
・古墳時代後期：竪穴住居址11、掘立柱建物１、土壙４
・奈良時代：竪穴住居址１、掘立柱建物３、土壙１、溝１、井戸址３
・中世：土壙４、溝５、井戸址２

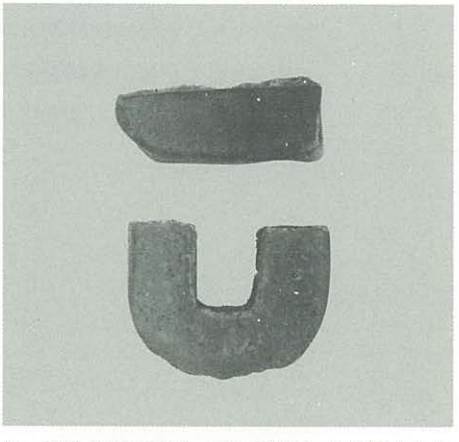
出土遺物　各時期の遺構から遺物が多く出土しているが、最も多く出土したのは弥生時代の大溝からである。円塗りの筒形器台、甕、壺などが数百個体分ある。それと共に、中広銅戈の鋳型（幅８㎝、長さ３㎝、厚さ2.6㎝）や「U」字形をした青銅製鋤先（幅8.5㎝、長さ6.5㎝）も出土している。遺物総量はコンテナにして336箱分に相当する。

まとめ　弥生時代の大溝は幅2.7ｍ、深さ1.5ｍの逆台形状で東西に延びている。やや弧を描いて連続しており、環濠の一部か台地を区切る溝であろう。古墳時代の竪穴住居址や掘立柱建物は６世紀後半代のものである。また、奈良時代の掘立柱建物は東西棟で、２×３間、２×４間、２×５間があり、磁北をとる幅１ｍの溝と井戸址が伴う。官衙との関連を検討する必要がある。



1．調査地点の位置（038－Ａ－3．1：8000）

2．調査区全景（東から）


3．弥生時代中期の大溝（環濠）から出土した銅戈鋳型と青銅製鋤先

8907　板付遺跡Ｆ－９・10調査区（ITZ－Ｆ－９・10）

所 在 地　博多区板付四丁目９－２
調査原因　共同住宅建設
調査期間　890417～890610
調査面積　720㎡
担 当 者　山口譲治
処　　置　調査後破壊

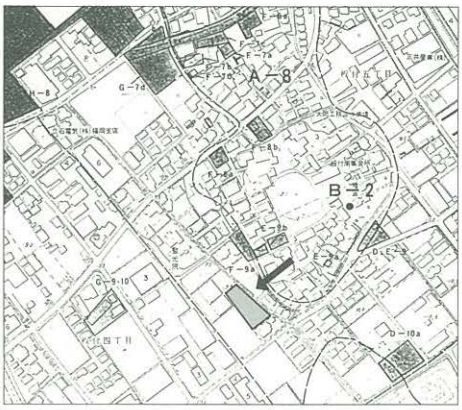
位置・環境　調査地は国指定史跡板付遺跡の南西部に当たる板付南台地の西辺部に立地し、標高は9.5ｍ前後である。旧状は水田であったが、20～30㎝の耕作土を除去すると基盤の鳥栖ローム層と暗褐色粘質土混じりローム・ローム混じり暗灰色土の整地層となっており、古代の遺構が検出できた。

検出遺構
・弥生時代中期後半～後期：住居址１、土壙３、柱穴群
・古代：堀立柱建物９以上、柱穴群

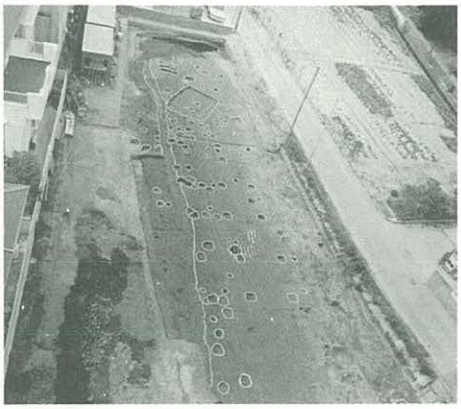
出土遺物　弥生時代中期から後期前半の土器類がコンテナ20箱分、投弾・紡錘車などの土製品、石庖丁などの石器が少量出土。古墳時代初頭の土師器がコンテナ３箱分、古代の須恵器や土師器がコンテナ５箱分と、瓦、塼、馬の頭骨などがある。

まとめ　調査地は調査例が少ない板付南台地上に位置しており、今回の調査で板付南台地が西側に張り出していることが分かった。本調査区の北側で検出された弥生時代中期後半の溝は、台地を北東方向に直に切っており、環濠となるものか。また、西側では弥生時代後期前半の包含層が検出された。

板付遺跡の古式土師器の時期の遺構は、板付北・中央・南台地の周辺部で検出されており、今回の調査地でも竪穴住居址と祭祀土壙が検出された。古代の建物は、１×２間・２×２間と規模は小さいが、南北方向に並列していること、礎板をもち規格性があることなどから、同時期の集落を考えるうえで参考となろう。



1．調査地点の位置（024－Ｃ－1．1：8000）


2．調査区全景（南から）

3．掘立柱建物分布状態

8908　原遺跡群第14次（HAR－14）

所 在 地　早良区原六丁目21-35
調査原因　給油所建設
調査期間　890418～890527
調査面積　550㎡
担 当 者　瀧本正志
処　　置　調査後破壊

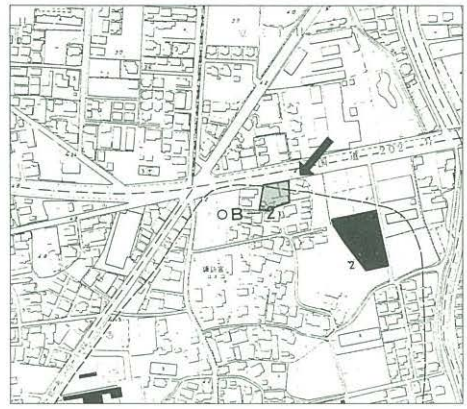
位置・環境　本調査地は、早良平野の東部、室見川の支流である金屑川と稲塚川とにはさまれた標高６ｍ前後の低位段丘上に展開する原遺跡群の北端部に位置する。本遺跡群ではこれまでに13次の調査が行われ、縄文時代晩期から近世にいたる各時代の遺構、遺物が検出されている。

検出遺構
・弥生時代中期：竪穴住居址１　溝１
・奈良時代：柱穴　小穴
・古代：溝１
・中世：掘立柱建物６、溝１、井戸２

竪穴住居址は2.9ｍ×2.6ｍを測る方形の平面形を呈し、南北に長軸をとる。壁は20㎝前後残存し、壁際には幅10㎝程の溝が巡る。奈良時代の遺構は、柱穴・小穴であるが、建物規模は不明である。古代の溝は、調査区の北辺に位置する東西溝で、幅員5.2ｍを測る。この溝は、当調査地から西300ｍに位置する第10次調査においても確認されている。中世遺構の掘立柱建物は、その柱筋の方向を同じくしない。調査区東辺部に位置する掘立柱建物は四面庇をもつ。梁行四間、桁行五間以上の規模である。

出土遺物　遺物は、弥生時代中期の甕、奈良時代の土師器（甕）、中世の土師器（杯・甕・鉢）、磁器（碗・皿）、石鍋などコンテナ10箱分が出土している。

まとめ　今回の調査では、原遺跡群北辺部における古代から中世における様相を明らかにした。その一つに、古代に開削されたと考えられる東西溝の性格が土地区画に深く係わるとの確証を得た。



1．調査地点の位置（082－Ａ－2．1：8000）

2．調査区全景（西から）

3．庇付掘立柱建物検出状況（北から）

8909　比恵遺跡群第23次調査（HIE－23）

所 在 地　博多区博多駅南五丁目40－1
調査原因　事業所建設
調査期間　890418～890423
調査面積　88㎡
担 当 者　小林義彦
処　　置　調査後破壊

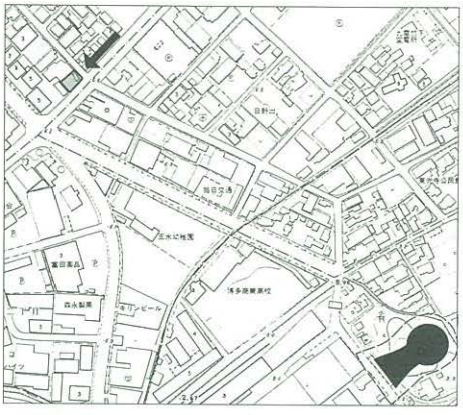
位置・環境　比恵遺跡群は、須玖から那珂・比恵へとつづく低丘陵の最北端に位置する弥生時代から古墳時代・古代にかけての大複合遺跡であり、台地の中央部には細形銅剣を副葬した弥生時代の墳墓群や官衙的色彩の濃い古墳時代の大形建物群が立地する。本調査区は、この比恵台地の南西緩斜面上に立地し、北東には第22次調査区が隣接している。

現状は住宅化しているが、客土下には水田面があり、地表下約80cmで遺構検出面に達する。遺構面上に10～15cmの遺物包含層が堆積しているが、混入する遺物の量は少ない。調査地は台地の縁辺にあたり、標高約５ｍの台地が西側の谷へむかって緩傾斜する地形をなす。遺構面は谷が開口していた時期の台地面と、谷が台地上まで埋没した時期の２面があり、井戸址と溝状遺構を検出した。

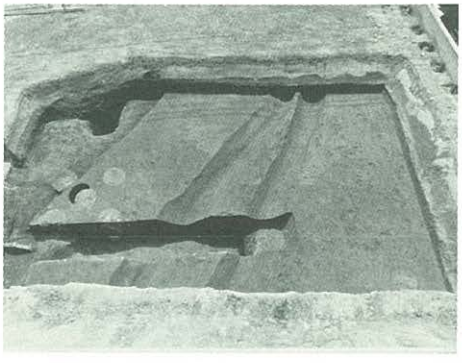
検出遺構　・弥生時代：溝１条
・古墳時代～古代：井戸址１基、溝２条

出土遺物　遺物は、井戸址と溝から弥生式土器（コンテナ１箱）のほか、須恵器と土師器（コンテナ１箱）が出土したが調査区が狭いため量的には少ない。

まとめ　今回の調査で検出した遺構は、井戸址１と溝３のみで少ないが、これは狭小な調査区に起因するものである。遺構面が２面検出されたことは谷部および台地縁辺の活用が継続的に行われたことを示すものである。殊に２面で検出した弥生時代中期後半の溝は、台地の落ちぎわに沿って位置し、台地上に展開する集落群の拡がりを考える上で貴重なものとなろう。



1．調査地点の位置（037－Ａ－1．1：8000）



2．調査区全景（北から）

3．第１号井戸完掘状況

8910　筑紫館・鴻臚館第５次（KRE－５）

所 在 地　中央区城内
調査原因　範囲確認
調査期間　890420～891207
調査面積　1.200㎡
担 当 者　山崎純男・吉武学
処　　置　調査後埋め戻し保存

昭和62年度に遺構発見。翌63年から鴻臚館跡調査研究指導委員会を設置し継続調査を実施しており、本年度はその２年目にあたる。

位置・環境　鴻臚館跡に比定されている平和台野球場周辺は福岡城三の丸にあたり、城外との比高差約６ｍの低台地上にある。本年度の調査区は野球場南側のテニスコート西半分と、その南側の福岡城土塁部分である。

検出遺構　①テニスコート部分

前年度検出した南北棟の礎石建物２棟（現在履屋を設置して一般公開中）が南側に伸びることを確認し、新たにこれと直角に接する東西棟の礎石建物１棟を検出した。この建物は南側が近世に破壊されているが、おそらく基壇幅30尺、梁行２間の建物と推定される。また、礎石建物に先行する布掘りの掘立柱建物の一部を検出した。

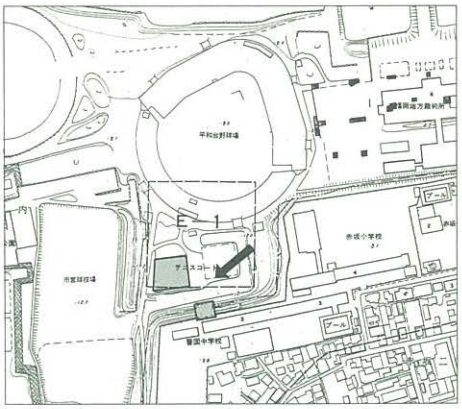
他に古代の土壙・瓦溜多数・近世の堀（家老屋敷に伴うもの）・土壙等を検出した。

②福岡城土塁部分

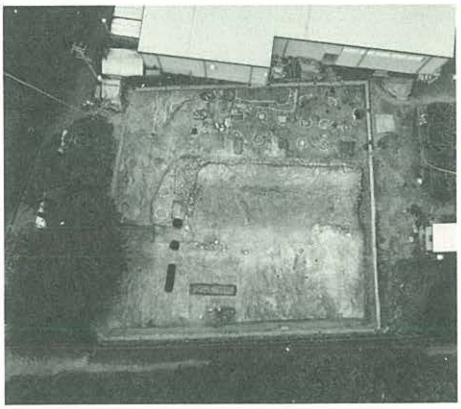
検出した遺構は近世石積（土塁の裏込）およびその下層の基壇跡である。基壇は東西21ｍ、南北12ｍ程の規模のものと思われ、鴻臚館の南門跡である可能性があるが、樹木のため全面調査できず明確でない。

出土遺物　総量コンテナ約300箱で大半が瓦類。越州窯青磁を中心とする中国産陶磁器、新羅土器、イスラム陶器等が多種多量に出土した。

まとめ　遺構は大まかに３時期に分かれる。９世紀末を下限とする瓦葺きの礎石建物３棟、それ以前の布掘りの掘立柱建物、それ以後の土壙・瓦溜からなる時期である。



1．調査地点の位置（060－Ｅ－1．1：8000）


2．テニスコート部分全景（上方が北）

3．南門跡と想定される基壇跡（南から）

8911　博多遺跡群第47次（HKT－47）

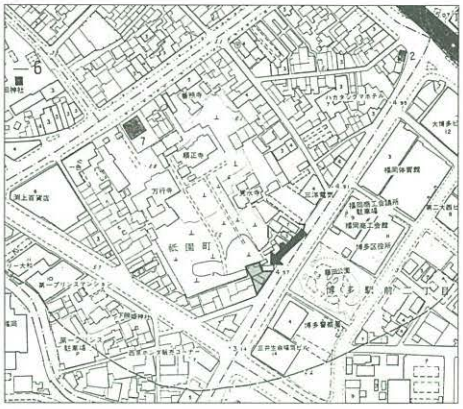
所 在 地　博多区祇園町390-2、393
調査原因　ビル建設
調査期間　890425
調査面積　工事立会
担 当 者　常松幹雄
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は博多遺跡群の南西隅にあたる。この周辺ではこれまでの埋蔵文化財の調査は行われていないが、西側に接する道路は旧河川を埋め立てたものなので、16世紀に掘られた博多防衛のための房州堀も河川の流路に近いものではないかと推定される。

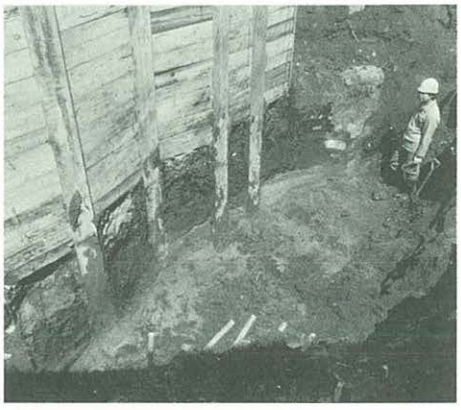
検出遺構　1988年12月に試掘調査を行ったがトレンチの設定個所に制約があり、考古学的な成果を上げることができなかったので、杭打ち後の根切りの段階で再度確認調査を実施することになった。開発予定地の西隅を中心に房州堀の検出を行った結果、西側の土層に北側から南側へ落ちる緩やかな傾斜面を確認した。

出土遺物　埋土である黒色粘質土層には弥生土器片から中世の青磁片・近世の陶磁器片までの遺物が混在している。また粘質土中には植物の茎が多く含まれていたことから、近世には葦類が群生していたものと思われる。（遺物はコンテナ１箱分）。

まとめ　『筑前国続風土記』によると、房州堀は幅20間（36ｍ）程度の東西方向の溝と言われている。江戸時代に農地となったとされ、奥村玉蘭の『筑前名所図会』によると作出町（現在の博多駅前１丁目）に畑を耕す様子が描かれている。そのすぐ承天寺寄りには土手が見える。明治13年の博多の地図には、博多と福岡をつなぐ矢倉門も名残をとどめていたようである。今回の調査は、房州堀に関連する掘り込みの北側の落ち際を確認したとされよう。



1．調査地点の位置（049－Ａ－1．1：8000）


2．房州堀と推定される土層断面

3．調査区北面の近世石垣検出状況

8912　有田遺跡群第150次（ART－150）

所 在 地　早良区小田部三丁目163
調査原因　共同住宅建設
調査期間　890510～890707
調査面積　1,087㎡
担 当 者　山崎龍雄
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は八手状に北へ拡がる有田・小田部台地の中で、北西に延びる台地の先端に立地し、標高は約７ｍを測る。調査前の現況は畑であった。調査区周辺はほとんど調査が行なわれていないが、南側に隣接する第59次・60次地点では弥生時代前期末頃の甕棺墓、中期頃の住居址、炭化米を伴った土壙、15～16世紀の屋敷地の区画と考えられる溝などが検出されている。

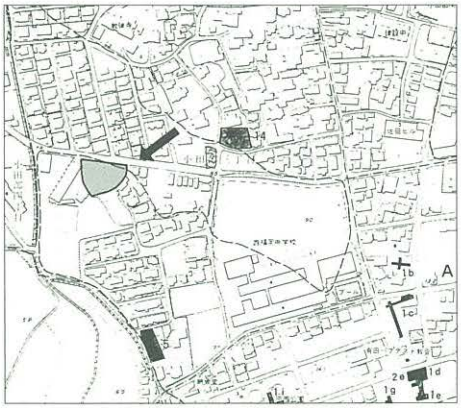
検出遺構　西側は過去の削平で残り不良であったが、東側は斜面ということもあって、包含層が残り、遺構の残りは良好であった。検出した遺構は以下のとおり。

・弥生時代：竪穴住居址１棟、貯蔵穴７基
・古墳時代：竪穴住居址５棟、掘立柱建物４棟、溝２条
・中世・溝１条

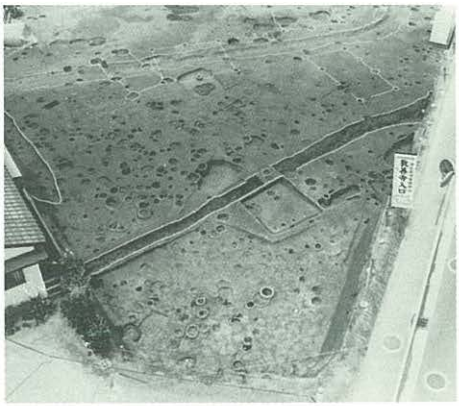
古墳時代の溝は６世紀後半代のものである。

出土遺物　弥生時代から古墳時代、中世、近世の各時代の遺物を出土しているが、出土量としてはコンテナ10箱程度で、それ程多くない。

まとめ　今回の調査では南側の第59次地点で検出できなかった古墳時代の集落を検出し、当時の集落が台地全域に拡がっている事を確認しえた。しかし弥生時代の墓地については当地点で検出できなかった。



１．調査地点の位置（182－Ａ－1．１：8000）



２．調査区東側遺構検出状況

３．調査区西側遺構検出状況

8913　重留古墳群第４次（STK－D－１）

所 在 地　早良区大字重留字後谷362－12
調査原因　防災工事
調査期間　890513～890701
調査面積　249㎡
担 当 者　荒牧宏行
処　　置　調査後破壊

位置・環境　早良平野の奥部、油山丘陵から北西に派生してくる丘陵斜面に立地する。４基の古墳から構成される支群の中では尾根線近くの高所に位置する。標高63ｍ。現状は山林。

検出遺構　検出できた遺構は古墳１基、焼壁土壙１基、小竪穴式石室１基である。

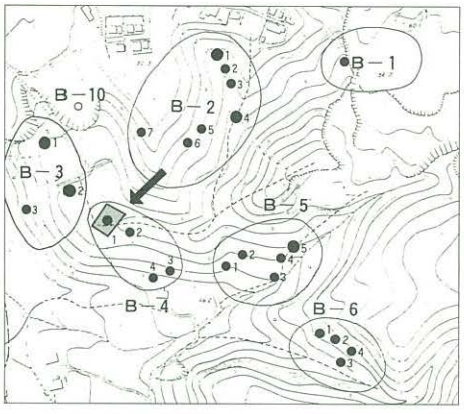
調査時には古墳間際まで造成され、一部墳丘が削られていた。古墳は径8.4ｍを測る円墳である。盛土中にわずかな列石が検出された。周溝は流失していた。内部主体は両袖単室構造の横穴式石室で腰石が２段目まで遺存していた。玄室の幅が奥壁側で182㎝、羨門側で190㎝を測る。玄室長は161㎝で、長さに対して幅の比率が大きいプランを呈す。閉塞石の遺存は良好で天井石が落ちかかっていた。焼壁土壙は墳丘裾付近で検出された。

また、調査区一帯に明黄褐色砂質土の堆積が認められ、若干の縄文土器（前期の可能性がある）が出土した。この土を埋土にする不整形の窪みも検出されたが、明確な遺構としてはとらえられない。

出土遺物　古墳の羨道部に鉄滓が供献されていた他は遺物の出土をみなかった。上記の縄文土器も含めコンテナ１箱分。

まとめ　古墳の築造時期は遺物が無いため明確でないが、その石室形態は終末的な様相を呈す。

既往の調査、今回の調査でも古墳群の有機的な関係は未だ把握されていない。以後、継続的に調査が行われ、明らかにされていく必要がある。



1．調査地点の位置（084．1：8000）

2．D－１号墳墳丘遺存状況

3．D－１号墳石室全景（南から）

8914　飯倉H遺跡第1次（IKR－H－1）

所 在 地　城南区梅林五丁目176外　　**調査面積**　1,700㎡
調査原因　市営住宅建設　　**担 当 者**　濱石哲也・菅波正人
調査期間　890510～890819　　**処　　置**　梅林古墳は保存、整備。他は破壊。

位置・環境　本遺跡は早良平野の東縁、油山から派生する丘陵尾根上の眺望の良い地点にある。標高27～30m。試掘時に初めて遺跡の所在が知れ、新たに飯倉H遺跡、またその中の古墳は単独墳であることから梅林古墳と命名した。

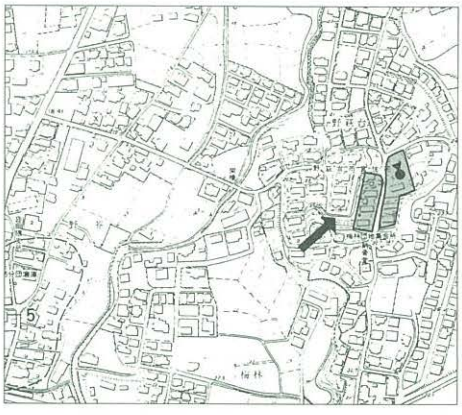
検出遺構　調査にあたって尾根東側（A区）、西側（B区）、尾根北側先端部（C区）の3区に分けた。

・A区：弥生時代中期甕棺墓3基、古墳時代竪穴住居址1軒、他にピット多数
・B区：時期不詳土壙2基
・C区：梅林古墳

梅林古墳は全長27m、後円部径15.5m、高さ約3mの前方後円墳である。墳丘は盛土の二段築成で、葺石や埴輪は認められなかった。主体部は横穴式石室で、入口を西側くびれ部に向けて築く。玄室は長さ3.9m、奥幅2.0m、前幅1.4mの羽子板状をなし、前面に短い墓道が付く。5世紀後半の築造で追葬が行なわれている。

出土遺物　古墳からは須恵器、土師器、鉄鏃、鏃、刀子、鞍金具、鉸具、留金具などの馬具、玉類が出土した。他に弥生土器、土師器、須恵器石庖丁などがあり、あわせてコンテナ20箱分である。

まとめ　梅林古墳は早良平野で拝塚古墳につぐ2例目の前方後円墳で、小型ながらもこの地の首長墓の変遷に大きな手がかりを与えるものと考えられる。なお本古墳は当初の計画を変更し、公園として復元、整備された。



1．調査地点の位置（083．1：8000）

2．梅林古墳全景

3．玄室内遺物出土状況

8915　博多遺跡群第48次（HKT－48）

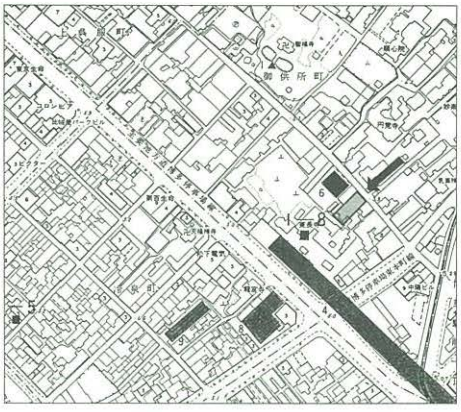
所 在 地　博多区御供所町40外
調査原因　共同住宅建設
調査期間　890516～890801
調査面積　263㎡
担 当 者　小畑弘己
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本地点は、博多浜の最頂部から南へ300mほどの地点で、博多浜の南側の砂丘上にあたる。標高は、現地表面で5.0mである。周辺の調査は、調査区のすぐ北の博多30次、西隣の東長寺境内の１・８次調査がある。

検出遺構
・弥生時代中期：竪穴住居址２軒
・古代：溝１条、土壙10数基、井戸２基、瓦破棄穴１基
・中世：溝２条、土壙13基、井戸11基、土師皿破棄穴13基、掘立柱建物１基、貼り床遺構（土間？）６基、鍛治炉１基
・近世：石組遺構２基、埋甕遺構４基、井戸１基

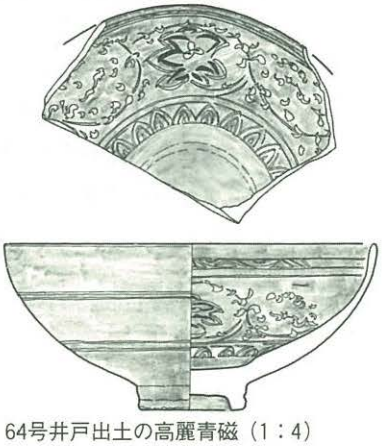
出土遺物　出土遺物には、各種の輸入陶磁器の他、国産陶磁器、鉄製品（小刀、紡錘車）、銅製品（鈴、飾り金具、笄、銭）、石製品（硯、錘）などがある。12世紀後半～13世紀初頭の溝からは多数の墨書土器が出土している。総数はコンテナ154箱。

まとめ　今回の調査では地割を示す溝を検出している。M23号溝は16世紀末に掘られた溝で、博多古図（文政６年〈1823〉山笠巡路博多古図）に見られる東長寺の南境の溝である可能性が高い。またM300号溝は北東－南西方向の断面台形の溝で、博多第１次調査（東長寺境内）で検出されている溝に連なるものであろう（12世紀後半～13世紀初頭）。



1．調査地点の位置（049－Ａ－1．1：8000）

2．第Ⅱ面遺構検出状況（東から）



3．64号井戸出土の高麗青磁（1：4）

8916　博多遺跡群第49次（HKT－49）

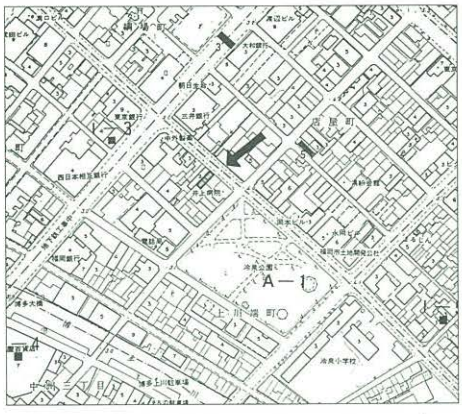
所 在 地　博多区上川端町272・273
調査原因　立体駐車場建設
調査期間　890518～890531
調査面積　90㎡
担 当 者　加藤良彦
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査区は博多遺跡群内の南部の砂丘北西部にあり、中世時の海岸線に比較的近い位置にあたる。現地表で標高約４ｍ。現状は宅地で、地表下約２ｍで中世の遺構面に達し、2.5ｍで基盤の砂層に達する。

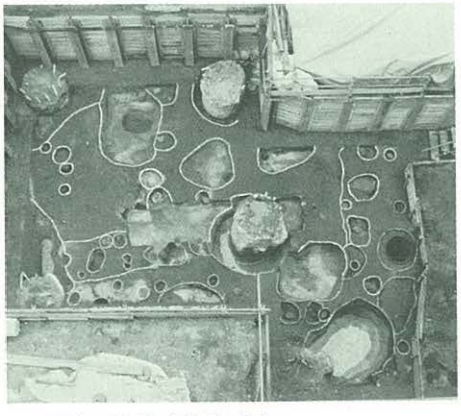
検出構
・平安時代末～中世初：土壙１
・中世：土壙８、井戸１、溝１条、銅溶解炉１
・近世：土壙６、井戸２

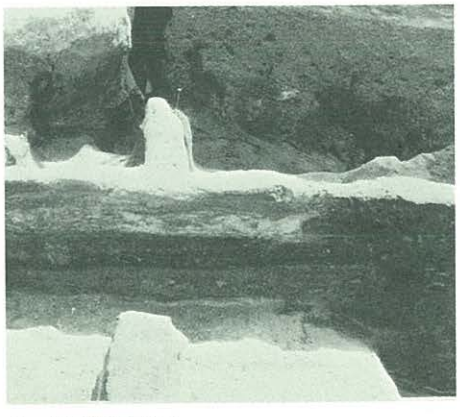
出土遺物　遺物は包含層及び遺構内から、殊に14世紀前半代で、鋳型（菊座飾・鍋・鰐口）、鞴羽口・坩堝・銅製品（轡・小皿・飾金具・スタンプ）・銅滓などの鋳銅関係の遺物が目立ち、他に土師器、中国産陶磁器、瓦、肥前系陶磁器、高取焼、滑石線刻画（人物）などを検出している。総量でコンテナ18箱。

まとめ　炉床は３×1.5ｍの長方形プランで、深さ30㎝程の掘方内に２～５㎝幅で焼土と砂を交互に敷き詰め満たしている。砂からの防湿のための施設と思われる。試掘ではこのさらに40㎝程上方で焼土と多量のスラグ塊が検出されており、炉本体は床面から１ｍ近く上方に設けられた思われる。この炉床の北西隅から北へ直角方向に幅1.5ｍの溝が切られ、内部より多量のスラグ・鋳型片が検出されており、廃滓用の溝と思われる。博多遺跡群内ではまだ数少ない生産遺構である。



1．調査地点の位置（049－Ａ－1．1：8000）


2．調査区全景（南西から）


3．炉床断面土層

8917　比恵遺跡群第24次（HIE－24）

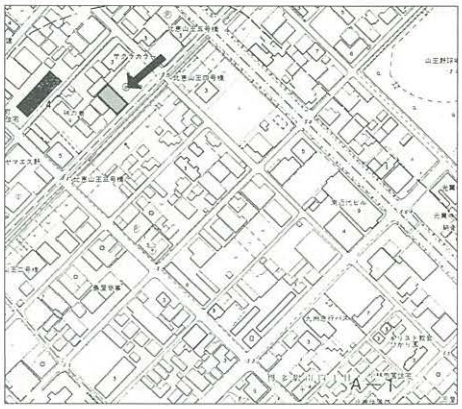
所 在 地　博多区博多駅南三丁目317
調査原因　共同住宅建設
調査期間　890523～890619
調査面積　340m²
担 当 者　吉留秀敏
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は比恵遺跡群の北部にあり、樹枝状に入り込む谷部にあたる。旧状は駐車場であり、表土下2.4mで谷底部の八女粘土層に達する。この上面に遺構があり、また包含層が形成されている。

検出遺構　検出した遺構は土壙4、不明遺構1、柱穴多数がある。不明遺構は谷頭部にあり、ほぼ東西に主軸をとる浅い土壙状のものである。その規模は幅6～7m、長さ10m以上の隅丸長方形であり、深さは0.2～0.4mである。内部から、弥生時代中期初頭の多量の土器や石器、木器が出土した。土壙には完形の小型壺を出土するものがある。

出土遺物　包含層からは弥生時代前期～中期の多量の遺物が出土した。各種の土器類、石器（石斧、柱状石斧、石庖丁、砥石、石匙、石鏃、剝片、石核など）、土製品（紡錘車、円盤、投弾、土錘など）、石製品（紡錘車、滑石製有孔円盤など）、木器などコンテナ60箱程度である。

まとめ　比恵遺跡群の北端地域の調査であり、隣接する25次、26次調査区の成果と合わせ、この地域の弥生時代の土地利用状況について多くの知見を得ることができた。



1．調査地点の位置（037－A－1．1：8000）

2．調査区全景（南から）

3．弥生時代前期土壙検出状況

8918　博多遺跡群第50次（HKT－50）

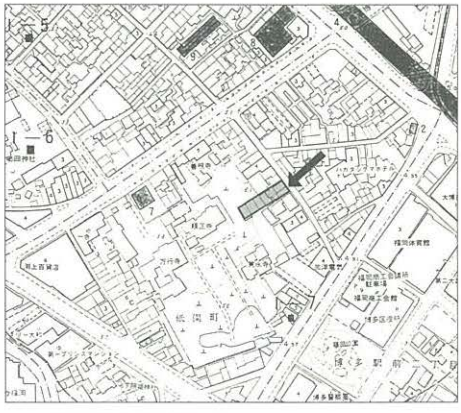
所 在 地　博多区祇園町317,318番
調査原因　共同住宅建設
調査期間　890602～891014
調査面積　730㎡
担 当 者　大庭康時
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査区は、博多遺跡群の基盤となる２列の砂丘のうち、内陸側砂丘の高所に位置する。現地表下1.3ｍまでを重機で剝ぎ取ったのち調査にはいり、１面～４面までの調査を行った。

検出遺構　本調査区では、西側を中心に近世以降の撹乱が多く、特に改葬後の墓壙が顕著であった。これらの近世以後のものを除けば、古墳時代の竪穴住居址・奈良時代の井戸の他、古代から中世前半期の溝・井戸・柱穴・土壙などが検出された。

出土遺物　遺物は、土師器・輸入陶磁器などがコンテナ193箱、石製品がコンテナ２箱、銅銭・刀子などの金属製品がコンテナ２箱分出土した。また、東海系Ｓ字状口縁甕の破片が出土し、注目される。

まとめ　本調査地点はでは、弥生時代前期末から中期初めの金海式甕棺片が出土しており、周辺に当該期の甕棺墓群が存在した可能性がある。博多遺跡群では、弥生時代中期中頃以前の遺構は未だ検出されておらず、今後の調査が期待される。古墳時代前期の竪穴住居址からは、布留式系・山陰系を含む古式土師器の一括資料が出土している。この竪穴住居址は、周辺の既往の調査で検出されている竪穴住居址とともに一連の集落を形成しているもので、多様な出土遺物は、この集落の性格を考える上で重要である。中世では、13世紀代の２面において検出した、青磁の短頸壺を倒置させた遺構が注目される。これは、円形の土壙に埋め込まれたもので、壺の中には、木の棒が立てられていた。何らかの宗教的な習俗にかかわるものと思われる。



1．調査地点の位置（049－Ａ－1．1：8000）

2．調査区第４面全景（東より）

3．土壙内遺物出土状況（12世紀前半代）

8919　有田遺跡群第151次（ART－151）

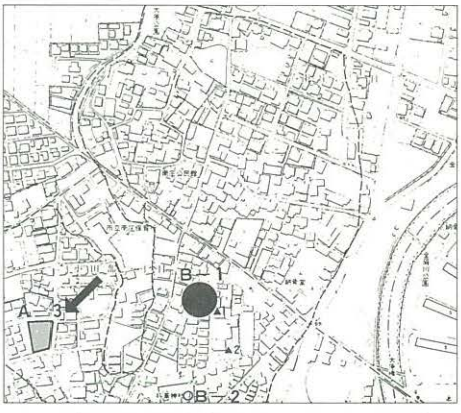
所 在 地　早良区小田部一丁目203外
調査原因　分譲住宅建設
調査期間　890602～890607
調査面積　70㎡
担 当 者　加藤良彦
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は小田部地区中央丘陵の西側に位置する。周辺は、これまで第26、73、138次調査が行われている。旧状は畑地で、客土を施して３戸分の分譲住宅とするため、削平される車庫部分のみの調査となり、１区41.49㎡、２区16.5㎡、３区18.0㎡を調査した。東隣の138次調査区より70㎝ほど低く、かなり削平されており、遺構の残存は悪く表土下20～30㎝で黄褐色ロームの地山に達する。

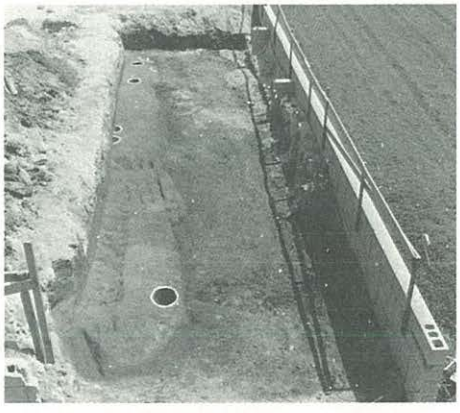
検出遺構　削平が著しく、遺構は少ない。
・１区…柱穴７
・２区…柱穴１
・３区…柱穴８、溝１、近世整地層

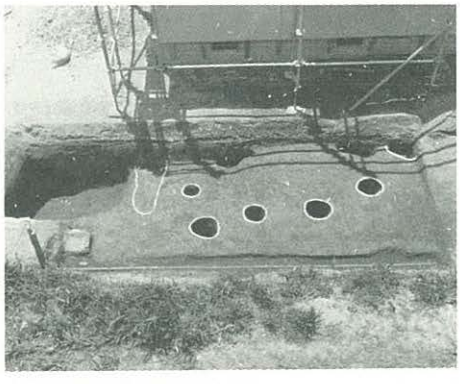
出土遺物　遺物の量はきわめて少なく、弥生土器、土師器片と伊万里焼などの近世陶磁器とを合わせて10数片である。

まとめ　調査範囲が狭小なことと調査区が分散しているために、遺構の関連を把握することができなかった。東隣の第138次調査区の成果からすると、弥生～古墳時代の遺構が拡がっていると考えられる。



1．調査地点の位置（082－Ａ－1．1：8000）


2．１区全景（南から）


3．３区全景（東から）

8920　蓮町遺跡第１次（HMC－１）

所 在 地　西区大字飯氏字蓮町
調査原因　道路建設
調査期間　890401～890615
調査面積　2,297㎡
担 当 者　松村道博・宮井善朗
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査区は、高祖山塊から北へのびる丘陵と、その間隙に開削された谷に立地する。丘陵頂部を境に東をⅠ区、西をⅡ区とした。

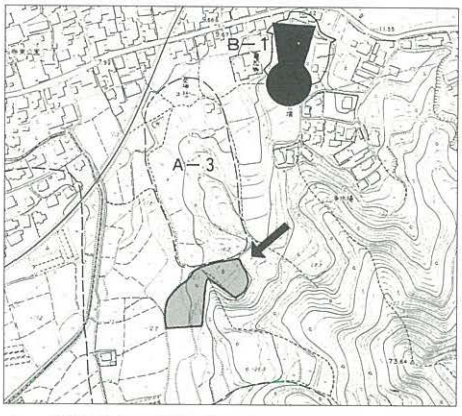
検出遺構　Ⅰ区
・第一面：中世土壙１基、溝、ピット、包含層
・第二面　ピット　溝
Ⅱ区
・第一面：中世井戸１基、溝３条、ピット
・第二面：古墳時代溝４条、焼土壙１基、ピット、包含層

第Ⅰ面の井戸は、須恵質の大甕の上半部を底に据え、その上に曲げ物の井戸枠を有する。

出土遺物　Ⅰ区Ⅰ面の中世土壙からは、完形の口禿の白磁碗、Ⅱ区Ⅰ面の井戸からは糸切り底の土師皿が出土した。

Ⅰ区の包含層は、大きく４層に分れる。それぞれ古代（１層）、古墳時代後期（2、3層）、弥生時代終末～古墳時代初頭（４層）の遺物が大量に出土した。特徴的な遺物としては、碧玉製の管玉（１層）、多量の管状土錘（３層）などがある。

Ⅱ区の包含層は、大きく２層に分れる。上層は古墳時代後期、下層は弥生時代終末～古墳時代初頭の遺物が多量に出土した。下層の遺物の遺存は良好で、下面から甕、器台などが、ほぼ完形で出土した。
遺物総量は、コンテナ18箱である。



1．調査地点の位置（120－Ａ－3．1：8000）

2．中世井戸検出状況

3．中世土壙墓検出状況

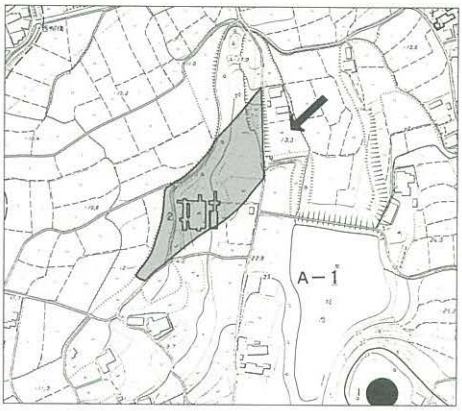
8921　飯氏遺跡群第３次（IIJ－３）

所 在 地　西区大字飯氏字鏡原・馬場
調査原因　道路建設
調査期間　890615～900331
調査面積　13,500㎡
担 当 者　松村道博・宮井善明
処　　置　調査後破壊

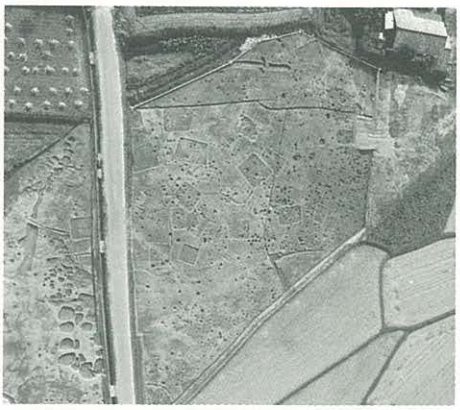
位置・環境　飯氏遺跡は、対象面積17,000㎡におよぶ広大な遺跡で、谷部をさかいに三区に分けて調査を行った。89年度はⅠ区（字井尻町、川原毛屋）、Ⅲ区（字鏡原）の調査を行った。Ⅰ区は丘陵北端裾にのびる沖積微高地上に立地し、Ⅲ区は丘陵頂部とその西側斜面に立地する。

検出遺構　Ⅰ区では縄文時代後晩期土壙・埋甕、弥生時代中期土壙・貯蔵穴、弥生時代後期の甕棺墓・溝、古墳時代初頭頃の住居址・土壙、中世の井戸などを検出した。遺構の主体をなすのは古墳時代初頭頃の住居址で、37基検出した。２棟を単位に溝で囲むものがある。Ⅲ区では弥生時代の甕棺墓・土壙墓・木棺墓・祭祀遺構・掘立柱建物、古墳時代の住居址、古代の溝、中世の井戸などを検出した。甕棺墓は、65基が２列埋葬の形で検出された。祭祀遺構もこれに伴うものである。

出土遺物　Ⅰ区では土壙と住居址から多量の土器が出土し、微高地周辺からも出土している。Ⅲ区では各遺構から多量の土器が出土している。古墳時代後期の住居址からは完形の須恵器高杯がまとまって出土した。このほか、遺構には伴わないが、細石刃、細石核が後世の埋土中から出土している。遺物総量はコンテナ520箱である。



1．調査地点の位置（121－Ａ－1．1：8000）


2．Ⅰ区全景

3．Ⅲ区甕棺墓列埋葬状態

8922　藤崎遺跡群第15次（FUA－15）

所 在 地　早良区藤崎一丁目11－1
調査原因　共同住宅建設
調査期間　890610～890620
調査面積　204㎡
担 当 者　加藤良彦
処　　置　調査後破壊

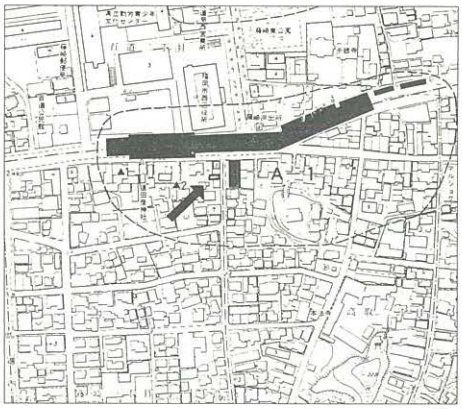
位置・環境　本調査区は東西方向に延びる藤崎砂丘南側後背地の緩斜面で、弥生時代中期の甕棺墓19基を検出した第７次調査区の南隣に位置する。表土下１ｍ程で基盤の砂層に達する。

検出遺構　検出した遺構は次のとおり。

・弥生時代：箱式石棺墓１
・古墳時代：竪穴住居址１、土壙９
・古墳時代～古代：掘立柱建物１
・古代：土壙１、溝１
・中世：土壙１、溝１

出土遺物　遺物は弥生時代前期から近世の肥前系陶磁器にわたる各時期のものが出土した（総量はコンテナ２箱）。古墳時代後期の遺構からの管状土錘の出土が目立つ。なお、撹乱層から土師質土製猿の頭部が出土した。胎土は中世のものに似る。

まとめ　箱式石棺は長軸を南北方向にとり、内法は1.50×0.55ｍ、20～30㎝程の円礫５～６個で側辺を構成する。遺物は認められなかった。竪穴住居址は長軸を南北方向にとる６×4.5ｍの長方形で、東壁の中央に竈を設けている。Ⅳ期の須恵器と管状土錘が出土。古代の溝は箱式石棺を切っている。中世の溝は幅1.5ｍ、深さ0.5ｍ程の断面逆台形を呈しており、調査区南東隅をかすめてＮ－100°－Ｗの方向に延び、その後調査された南隣の第18次調査区に直角に曲がっている。18次調査区では、溝の内側に柵列が検出されており、居館の区画の可能性が考えられる。



1．調査地点の位置（081－Ａ－1．1：8000）

2．調査区全景（北から）

3．竪穴住居址 SC-01 検出状況（南から）

8923　那珂遺跡群第21次（NAK－21）

所 在 地　博多区竹下三丁目１－１
調査原因　工場建設
調査期間　890608～890916
調査面積　1,988㎡
担 当 者　山口譲治
処　　置　調査後破壊

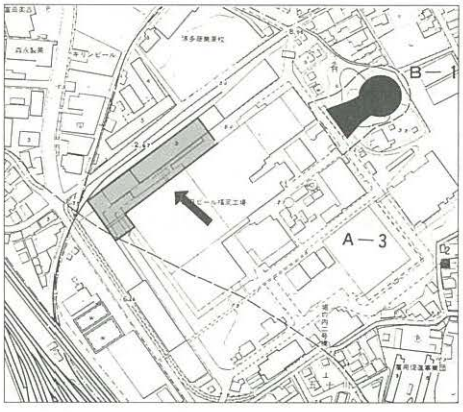
位置・環境　調査地は、那珂遺跡群が所在する那珂台地の西北部でⅠ区は標高約８ｍ、Ⅱ区は標高8.6ｍに位置している。調査前は工場敷地で、Ⅰ区はレンガ造りの建物があり、Ⅱ区はアスファルト舗装が行なわれていた。Ⅰ・Ⅱ区とも舗装・盛土除去をすると、鳥栖ローム層を基盤とする遺構が検出された。

検出遺構
・弥生時代：貯蔵穴13、甕棺墓36、土壙墓６、祭祀土壙２、土壙２
・古墳時代：竪穴住居址12、土壙２、柱穴群
・古代：井戸３、溝２、掘立柱建物、柱穴群
・中世～近世：溝４、柱穴群

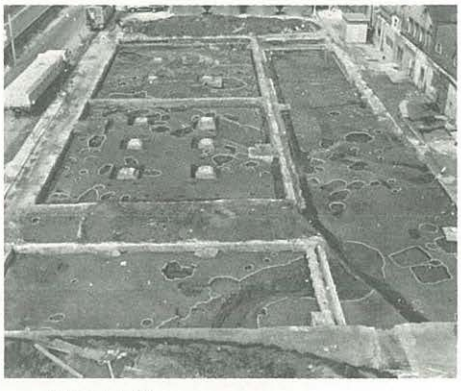
出土遺物　出土遺物としては各時期のものがある。弥生時代のものは、前期後半の土器・石器、中期後半を主とする甕棺、中期後半から後期前半の土器・石器、土製品、終末期の土器・青銅製鋤先などがある。古墳時代のものは、古式土師器・須恵器・鉄器・玉類がある。古代のものは、須恵器・土師器・硯・木器・鉄器がある。

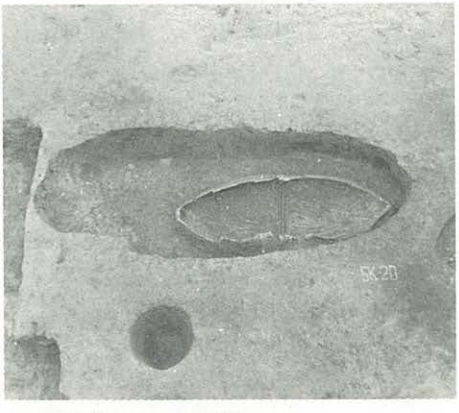
まとめ　本調査地では、弥生時代前期後半の貯蔵穴群、中期から後期前半の甕棺墓を主体とする墓地（祭祀土壙を伴う）、終末期から古墳時代前期の住居址群、古代の掘立柱建物・井戸が検出された。

甕棺墓は20ｍ前後の方形に配置されており、東側に祭祀土壙が付設された墳丘墓か。２基の祭祀土壙は、それぞれ３ヶ所に遺物集中がみられた。集中遺物は、筒形器台・高杯・各種壺・鉢・甕からなり、いずれも丹塗りである。古式土師器には搬入品があり、古代の硯には獣脚硯がある。



1．調査地点の位置（037－Ａ－3．1：8000）


2．調査区全景



3．甕棺墓 SK20 出土状況

8924　比恵遺跡群第25次（HIE－25）

所 在 地　博多区博多駅南３丁目１－１
調査原因　事業所建設
調査期間　890619～890904
調査面積　400㎡
担 当 者　横山邦継・田崎博之
処　　置　調査後破壊

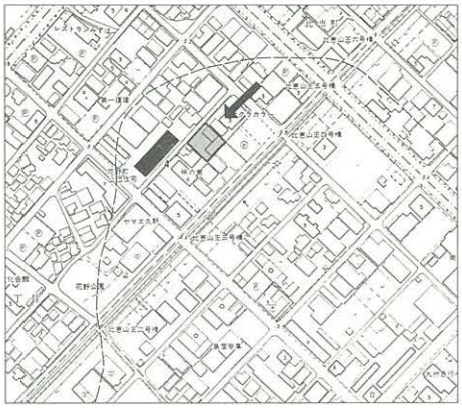
位置・環境　調査地は比恵遺跡群の北端部にあたる。周辺は現在と異なり、昭和初期までは浅い谷が複雑に入り込み、凹凸のある地形であった。今回の調査でも、西半部で台地、東半部で谷を検出した。

検出遺構　検出した遺構は次のとおりである。

・弥生時代前期：貯木土壙４基
・弥生時代前期～中期：竪穴住居址２棟

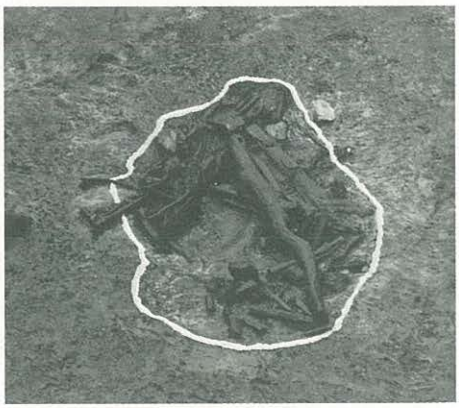
出土遺物　土壙内からは、伐採された樹木、板材や農工具の未製品などが水漬けされた状態で出土した。さらに調査区中央部から、破損した土器、石器、木製品や、イノシシの歯牙などが投棄された状態で多数出土した。遺物の総量はコンテナ150箱をこえる。

まとめ　出土遺物の中で、木器は時期を弥生時代前期に限定できる良好な資料である。鋤、鍬、エブリ、竪杵などの農具類、斧の柄、横槌、機織の緯打具、ハケメ原体などの工具類、高杯・脚付き杯・椀・皿などの容器類がある。多種類におよぶ木製品は、当時の生活用具一式を知る貴重な資料である。また、長さ40cmほどの木剣も出土した。青銅製の短剣を模倣したもので、現在知られている限りでは最古の資料である。土器製作時に用いる板状工具のハケメ原体も、日本最初の出土例である。また、脚付き杯は黒漆を下地に塗り、赤漆で模様を描いた優品である。さらに、土器の中には少量ながら下関市周辺や近畿地方の壺と酷似したものがある。比恵遺跡が、弥生時代以来、列島内の交流の基点の一つであったことを示す資料である。



1．調査地点の位置（037－Ａ－1．1：8000）

2．調査区全景（北西から）



3．SK-15 木器出土状況

8925　博多遺跡群第51次（HKT－51）

所 在 地　博多区祇園町154－1・2　　**調査面積**　200㎡
調査原因　共同住宅建設　　**担 当 者**　瀧本正志
調査期間　890619～890715　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本調査地は、博多遺跡群の中央部に位置し、標高5.8mを測る。地表下3mに遺跡基盤層である黄色砂層が認められ、この間において古墳時代から近世にいたる各種の遺構・包含層がある。

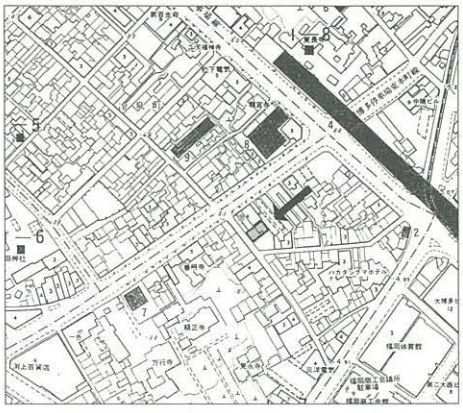
調査では、古墳時代から近世に属する6面の遺構面を調査した。

検出遺構
・古墳時代後期：柱穴
・奈良時代：柱穴
・中世：柱穴
・近世：建物基礎

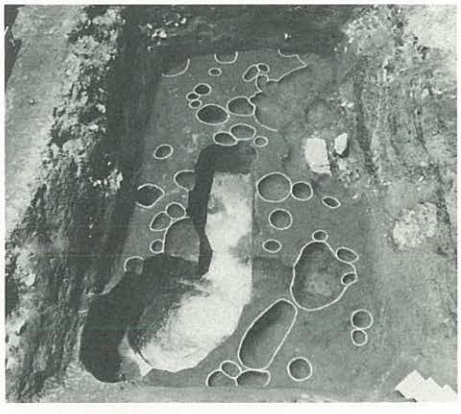
各層において掘立柱建物の柱穴と考えられる遺構を検出したが、調査区範囲が狭いために、建物規模を明らかにすることはできなかった。

出土遺物　遺物は、各層から出土しており、コンテナ10箱を数える。主な遺物は、古代では須恵器（杯）、土師器（杯・皿）、平安時代以降では磁器（碗・皿）、土師器（杯・皿）、瓦が出土している。また、中世前半期の層からは土製型造りの仏像が出土している。

まとめ　今回の調査では、部分的ではあるが博多遺跡群の様相を明らかにすることができた。そのひとつに、型造りの土製仏像の出土がある。これまで、本調査地周辺の中世前半期における性格が不明であったが、仏像の出土は一時期の性格付けを果たすものと思われる。



1．調査地点の位置（049－A－1．1：8000）



2．第3面遺構検出状況

3．第4面遺構検出状況

8926　井相田C遺跡群第3次（ISC－3）

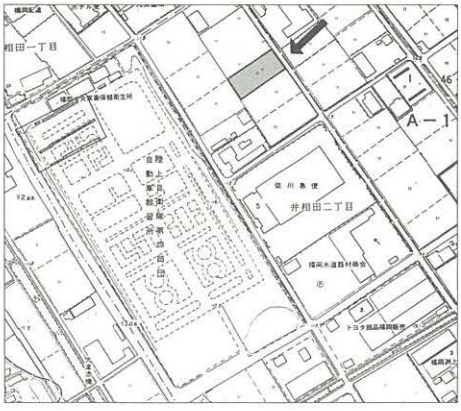
所 在 地　博多区井相田二丁目２－６
調査原因　共同住宅建設
調査期間　890623～890915
調査面積　650㎡
担 当 者　吉留秀敏
処　　置　調査後破壊

位置・環境　御笠川西岸の沖積地に立地する。標高約11ｍである。本調査区の100ｍ西側の第１、２次調査では奈良～平安期の建物群や井戸址が検出され、木簡、墨書土器、韓式土器などが出土している。また、東南300ｍの大野城市仲島遺跡群では弥生時代から古代まで連続した集落が形成されている。特殊な遺物として貨布や古代の人面墨書土器がある。

検出遺構
・弥生時代前期：竪穴式住居址２、土壙４
・古墳時代後期：竪穴式住居址10、掘立柱建物５、溝６
・奈良～平安期：不明土壙３

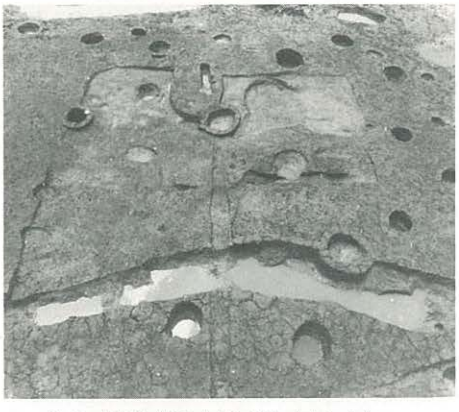
出土遺物　コンテナ10箱程度。弥生時代の土器類、石器（柱状片刃石斧、蛤刃石斧、石鏃、剥片他）古墳時代後期の須恵器、土師器など。この他に先土器時代の台形石器、剥片などが出土している。基盤の黄灰色粘土層を調査したが、ブロックなどは未検出であった。

まとめ　当初予測していた古代の遺構はほとんど検出されず、先行する弥生、古墳時代の集落址となった。弥生時代前期の遺構は北方400ｍにおける夜臼式土器の出土地点（大野城市）に次ぐ時期のものである。古墳時代の集落は出土した須恵器からみて６世紀中葉～末葉であり、住居の切り合などからさらに３小期に区分される。また、溝により２～３群に分離される。該期の「イエ」と「世帯共同体」の関係を検討する資料となろう。この時期は東の仲島遺跡群でも集落が確認されており、この地域での集落の変遷の解明も今後の課題となろう。



1．調査地点の位置（012－Ａ－1．1：8000）

2．調査区全景（東から）


3．弥生時代前期竪穴住居址（東から）

8927　拾六町平田遺跡第１次調査（JRH－１）

所 在 地　西区大字拾六町字平田86
調査原因　共同住宅建設
調査期間　890626～890810
調査面積　1,168㎡
担 当 者　小林義彦
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本遺跡は、早良区の西部、飯盛山から叶岳へとつづく小山塊の東側の山裾に位置し、室見川の左岸地帯に拡がる沖積地上に立地する。本調査区の西には飯盛山を源とする十郎川が今津湾にむかって北流し、この十郎川の東岸には中国陶磁器や高麗青磁を出土した「石丸・古川遺跡」がある。

検出遺構　発掘調査は、建造物の範囲について実施した。その結果、弥生時代から古墳時代の水田面を３面検出した。

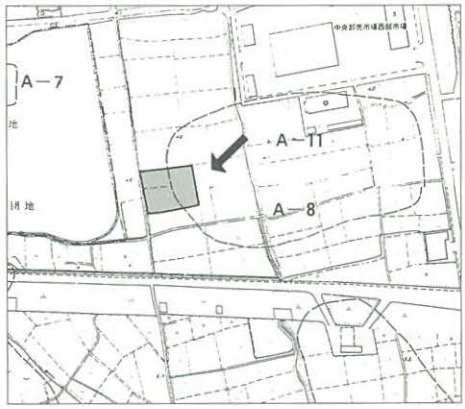
第１・２面：弥生時代中期の水田址と水路
第３面：古墳時代の水田址と水路

出土遺物　遺物は、遺構が水田址のために少ないが、弥生式土器（コンテナ１箱）と土師器（コンテナ１箱）のほか、鍬や槽などの木製品７点と石鏃２点が出土した。このほかに畦畔の護岸等に使用したと思われる杭が90本出土した。

まとめ　本調査区で検出した水田面のうち、第１面では調査区北西部で幅50～80㎝の東西方向の水路を検出した。この水路の周辺には多数の足跡が残っていたが、畦畔は検出できず、水田の大きさ等は明らかでない。

第２面では、調査区東側に幅50～100㎝の水路が北流し、その西側に水路に並行した畦畔をもつ14枚の水田面を検出した。畦畔は幅40～70㎝で、その一端を切り開いて水口としている。水口周辺からは弥生時代中期の丹塗り土器片が検出された。水田はほぼ方形に区画され、１枚の面積は40㎡～70㎡である。

第３面は、畦畔の一部を検出したのみで遺存状況は悪い。畦畔は第２面と同方向に走り、水口等は確認できなかった。水田１枚の面積は30㎡～50㎡と推定される。



1．調査地点の位置（091－A－8．1：8000）

2．第２面水田址全景（西から）

3．木器出土状況（西から）

8928　瀬戸口古墳群第２次（SGK－２）

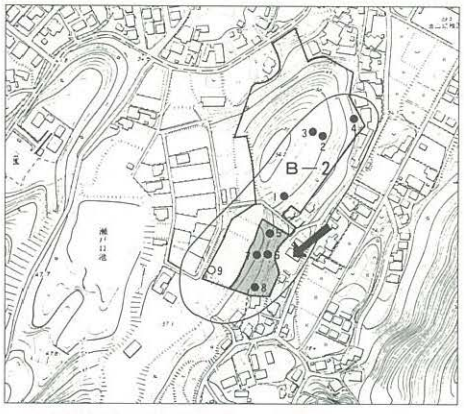
所 在 地　城南区東油山字瀬戸口442－2外
調査原因　宅地造成
調査期間　890626～890808
調査面積　1,168㎡（古墳１基）
担 当 者　加藤良彦
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は油山から北に派生した小丘陵の東斜面に位置し、1974年の第１次調査区（１～３号墳）の南側に当たる。現況は山林、表土下30～150㎝程で基盤の花崗岩バイラン土に達する。

検出遺構
・縄文時代：落とし穴状土壙２
・古墳時代：円墳１
・古墳～奈良時代：焼壁土壙１、土壙３

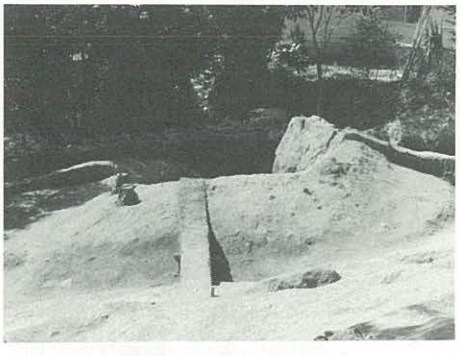
出土遺物　遺物は全て古墳から出土し、須恵器（Ⅲｂ・Ⅳ期）、土師器、ガラス小玉、耳環４（金環２・銀環２）、鉄鏃、肥前系陶磁器、寛永通宝、旧日本軍小銃弾などを検出した。

まとめ　８号墳は古墳の墳丘径15.4ｍ、周溝の径17.4ｍ、墳丘の高さ約３ｍで、横穴式石室が南に開口する。石材は戦時中に全て抜き去られているが、抜き跡と床面の敷石より推定すると、玄室は3.5×2.2ｍ、羨道は2.4×プラスα×0.6～1.1ｍの内法と思われる。羨道部左側墳丘内に供献土器（須恵器甕３・杯蓋６他）があり、杯の一つには魚骨が残存していた。落し穴状土壙は、斜面裾部と円墳下の緩斜面にある。1.5×1.0ｍほどの隅丸方形プランを呈し、深さ1.3ｍを測る。床面からさらに２段に深さ10～20㎝ほど掘り下げ、直径８～10㎝程のピットを１～５個配置している。周りには、灰白色粘土が詰められており、逆さ杭が植え込まれていたと考えられる。



1．調査地点の位置（064－Ａ－1．1：8000）

2．調査区２区全景（東から）


3．８号墳墳丘検出状況（北東から）

8929　博多（はかた）遺跡群第52次（HKT－52）

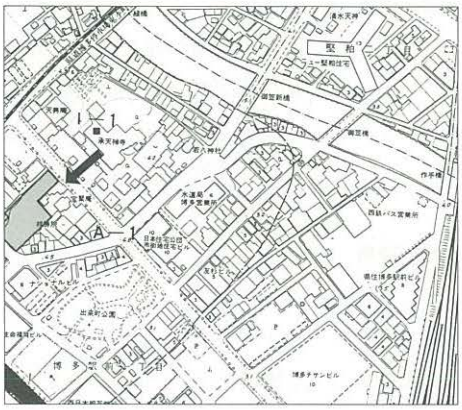
所 在 地　博多区博多駅前一丁目155－1
調査原因　防火水槽建設
調査期間　890626～890704
調査面積　29㎡
担 当 者　常松幹雄・佐藤一郎
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査地は、博多遺跡群の中、博多部の南東にあたる承天寺境内にある。承天寺は、仁治三年（1242）、博多綱首であった謝国明の建立とされる。同寺の開山、聖一国師（円爾）は鎌倉期における宋文化移入の代表的禅僧で、後に東福寺の開山となった。今回の調査は、仏殿等の建立に付随する防火水槽の埋設工事に伴うもので、木造の建築物を火災から守るうえで必要不可欠の施設であることから、発掘調査を実施することになった。

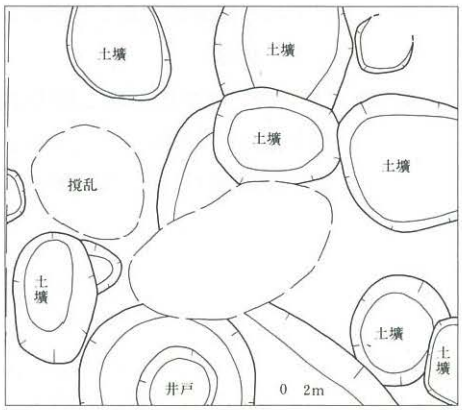
検出遺構　古代末～中世の土壙７基と井戸１基を検出した。

出土遺物　遺構に伴う遺物は、青磁・白磁・土師器・石鍋・瓦片が主体をなしている。遺物量はコンテナ８箱程度である。

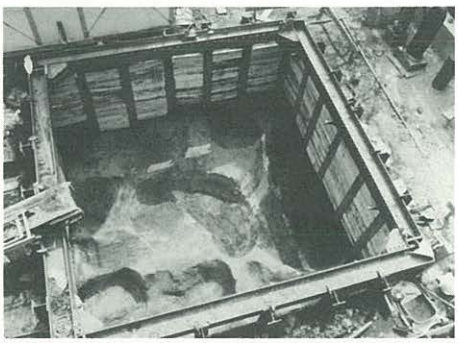
まとめ　狭小な面積の調査で、遺構の性格を十分把握できなかったが、出土した遺物から、日宋貿易を背景にした博多綱首の活動の一端を窺えたといえよう。



1．調査地点の位置（036－Ａ－1．1：8000）



2．調査区遺構配置図



3．調査区全景

8930　博多遺跡群第53次（HKT－53）

所 在 地　博多区中呉服町154外
調査原因　給油所建設
調査期間　890627～890705
調査面積　190㎡
担 当 者　横山邦継
処　　置　調査後破壊

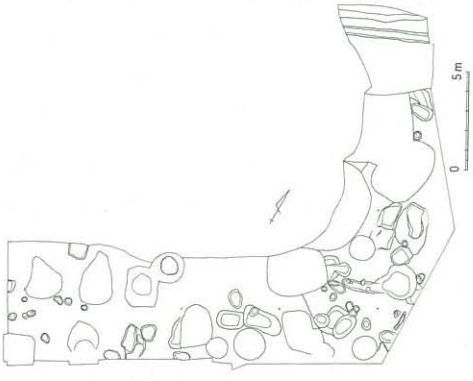
位置・環境　本調査区は博多遺跡群の北部に位置し、標高５ｍ強を測る砂丘上に立地する。対象地は以前の石油タンクや関連施設によって破壊部分が著しく、調査は南及び東側の縁辺部に限定された。遺構は中世～近世の２時期のものが検出された。

検出遺構
・中世：土壙５、溝状遺構２、土壙墓１、ピット群
・近世：土壙13、井戸２

出土遺物　遺物は土壙、ピット群より主に出土した。中世のものは土師器皿・明代青磁器など、近世では有田焼磁器類などが多量にあった（コンテナ10箱）。

まとめ　本調査区で検出された遺構は多くはないが、博多遺跡群北側砂丘での都市遺跡の拡がりと実態を把握する上で成果があった。

1．調査地点の位置（048－Ａ－1．1：8000）



2．調査区全体図

3．発掘調査状況

8931　岩本遺跡群第３次（IRB－３）

所 在 地　早良区大字入部地内
調査原因　圃場整備
調査期間　890801～900321
調査面積　37,500㎡
担 当 者　井澤洋一・野村俊之
処　　置　調査後破壊

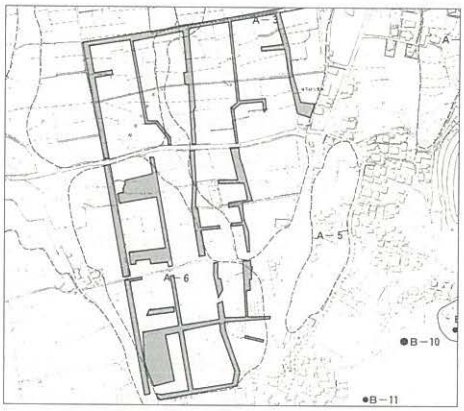
位置・環境　調査地は早良平野の南側狭隘地にあって室見川右岸の油山山麓に位置している。遺跡は沖積地の堆積土の上面に認められ、１～３面の文化層が存在する。現状は水田である。第２次調査は重留遺跡群が対象であったが、今回の調査対象地には、重留遺跡群、四箇船石遺跡群、岩本遺跡群が分布している。

検出遺構　縄文時代晩期　溝１

・弥生時代前期～後期：住居址７、土壙墓10、甕棺墓104、土壙16、溝15、掘立柱建物６、土器溜１、河川跡２
・古墳時代：竪穴住居址24、方形周溝状遺構１、玉作工房址３、掘立柱建物４、土壙墓１
・奈良・平安時代：土壙墓２、道路状遺構１、溝状遺構10、掘立柱建物12、井戸２、土壙24、製鉄関連遺構９
・鎌倉～室町時代：木棺墓１、土壙墓１、溝状遺構14、土壙39、井戸４、焼土壙５
・江戸時代：溝４、掘立柱建物３

弥生時代前期の集落は２ヶ所確認した。又、前期前半の甕棺墓も９基ある。前期の溝は断面がＹ字形を呈し、４条検出した。古墳時代の集落は４～５世紀に比定できる。

出土遺物　縄文時代の遺構は明らかではないが、包含層より晩期の深鉢、浅鉢等が出土している。弥生時代は前期板付Ⅰ式併行期から亀の甲式の土器が出土、甕棺は後期まで存在する。古墳時代は土師器の他、須恵器壺、杯身、蓋、鉄製刀子がある。又、平安時代の土壙墓から漆箱、八稜鏡２面、青銅製鈴１、毛抜き、越州窯系青磁が、鎌倉時代の土壙、木棺墓から、鉄製刀子の他、漆箱、土師器、龍泉窯系青磁等が出土している。



1．調査地点の位置（085－A2・A3・A6）

2．入部地区圃場整備予定地全景

3．第15地点甕棺墓群（東から）

8932　谷口遺跡第１次（TNG－１）

所 在 地　早良区大字脇山字谷口地内
調査原因　圃場整備
調査期間　890701～900228
調査面積　22,931㎡
担 当 者　井澤洋一・野村俊之
処　　置　調査後破壊

位置・環境　早良平野の最深部は河川の開析による狭隘な谷地形を形成しているが、調査地は背振山の東麓にあって椎原川によって開かれた小谷に位置する。標高約123.6ｍを測り、現状は水田で、急傾斜のため棚田である。調査対象地の中央を樋の溝（推定）が貫流しており、谷口地区の開発起源に関連づけられる十二所神社や熊野比丘尼の墓が周辺に存在する。熊野比丘尼が樋の溝、釣溝を開削したのは貞観年間といわれているが、比丘尼の墓は宝篋印塔や、五輪塔の一部が組合わさって安置されている。15世紀になるとこの地域は「窪名」の領域に入っている。

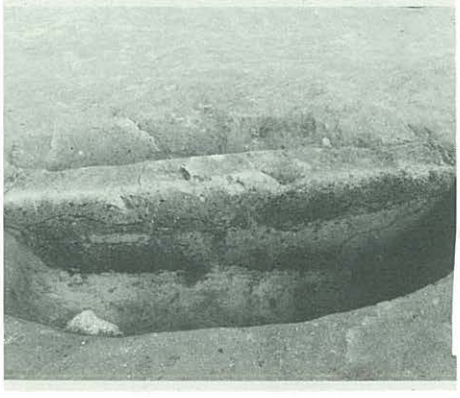
検出遺構
・弥生時代後期：甕埋納遺構１
・鎌倉～室町時代：焼土壙18、土壙50
・室町～江戸時代：溝１条、石垣

出土遺物　縄文時代の遺物は阿高式土器片や、後・晩期の土器の他、石鏃や石斧が出土。試掘調査では６世紀代の杯身のほか、須恵器の破片が出土している。奈良時代の遺物は見当らないが、平安時代の終りから鎌倉時代では土師器や滑石石鍋、白磁、龍泉窯系青磁碗、皿などが出土している。また、室町時代の後半期になると石鍋のほか、硯、スタンプ、明代の青磁碗、盤、備前焼の摺鉢、波状壺、土師器摺鉢、鍋などが出土し、前代に比べると量的に多い。鍋の中には16世紀後半に比定できる肥前系の土器がある。焼土壙の数ヶ所から土師器糸切り底の皿片が出土しており、焼土壙の時期を示唆している。

まとめ　平安時代の終りには開発が始まったが、焼土壙の分布からみて、水田化するのは、室町時代以降と考えられる。15世紀代の遺物は「窪名」と関連付けられるものであろう。

１．調査地点の位置（018－Ａ－７）

２．旧道、樋の溝全景



３．焼土壙土層断面

8933　脇山Ａ遺跡群第４次（WKA－４）

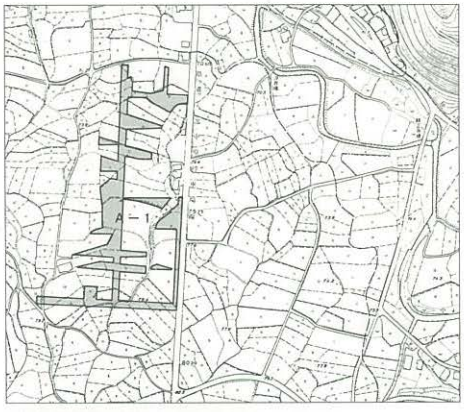
所 在 地　早良区大字脇山字会田地内
調査原因　圃場整備
調査期間　891030～900203
調査面積　13,359㎡
担 当 者　井澤洋一・野村俊之
処　　置　調査後破壊

位置・環境　早良平野の南側は、背振山麓を開析してできた狭隘な谷地形を形成している。脇山Ａ遺跡は背振山東側の山麓に位置し、椎原川と小笠木川に挟まれた、標高約78ｍ～70ｍに立地する。遺跡の東側に小笠木川が流下している。従来の調査では、縄文時代後晩期の土器や、中世鎌倉時代の青磁などが出土している。現状は水田である。道路や水路などの半永久構造物や、地下げが行われる水田部分について調査を行った。

検出遺構
・縄文時代晩期：土壙11基、ピット群
・鎌倉時代：土壙墓１基、土壙11基、竪穴状土壙４基、河川址１、製鉄遺構１、鍛治炉９、掘立柱建物９、溝状遺構
・鎌倉～室町時代：焼土壙204基、土壙70基
・時代不詳：塚１

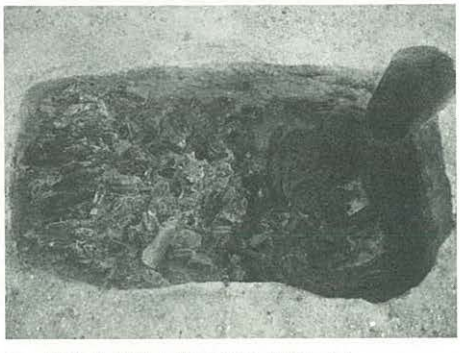
出土遺物　中世の遺物が多く、特に第12地点に集中した。12世紀後半から13世紀前半代の遺物である。龍泉窯系青磁碗、白磁碗、水注、褐釉陶器、東播系模倣鉢、滑石製石鍋、土師質鉢、土師器皿、杯、瓦器椀、鉄製刀子、硯、鉄滓がある。その他、縄文時代晩期初頭から前半までの深鉢、浅鉢片が出土している。弥生時代は中期の土器片が出土している。

まとめ　第12地点の中世遺構は、12世紀後半代に比定できるが、掘立柱建物３棟、竪穴状土壙、鍛治炉、土壙墓などで構成されており、且つ、旧河川（水路）に沿って北側に展開している。開発領主の屋敷地と見るべきであろう。また、焼土壙は木炭が重なって出土したことなどから、炭焼きを想定することが可能で、山間部の初期の開発の様子を窺い知ることができる。



1．調査地点の位置（018－Ａ－５）

2．第12地点全景


3．第３地点焼土壙 SX 04（南から）

8934　田村遺跡群第９次（TMR－９）

所 在 地　早良区大字田字鶴園835－１
調査原因　公民館建設
調査期間　890705～890816
調査面積　540㎡
担 当 者　濱石哲也・瀧本正志
処　　置　調査後破壊

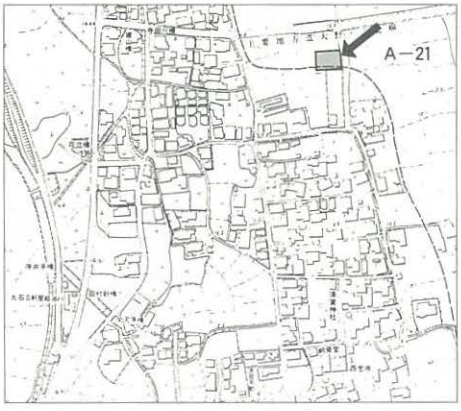
位置・環境　調査地は室見川などによって形成された沖積平野である早良平野のほぼ中央に位置し、標高14～15ｍ前後を測る。調査区内の現況は水田である。調査地を含む周辺地域には、条里制の土地区画を示す地形が坪単位ごとによく残っている。本調査地の東約150ｍで行った第５次調査では、中世の集落が確認されている。

検出遺構　・中世：土壙、溝、柱穴

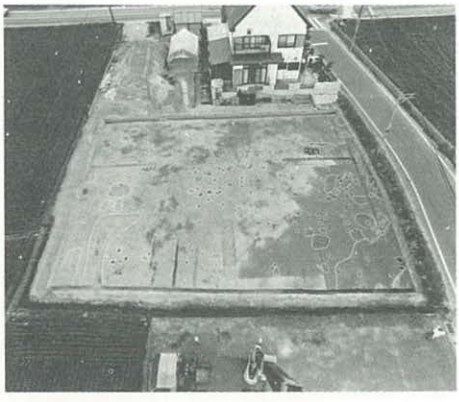
土壙は調査区中央部に位置し、長軸1.7ｍ、短軸1.1ｍを測る楕円形の平面形を呈する。溝は幅20～30㎝を測り、南北方向に開削されている。柱穴は大半が調査区東半部で検出したが、建物としてはまとまらない。

出土遺物　遺物はコンテナ３箱程が出土したが、主として土壙から出土している。主な遺物は土師器（甕・杯）、磁器（碗・皿）で、13～14世紀のものである。

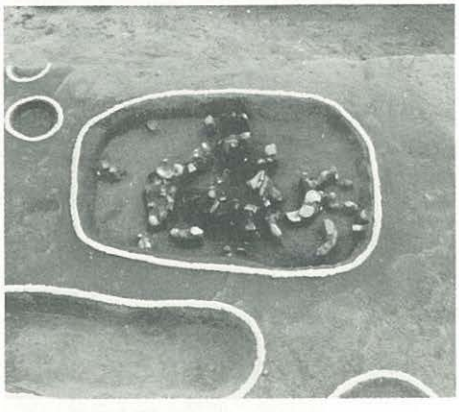
まとめ　今回の調査の視点は、坪境を示す遺構の確認と集落の範囲確認とにあった。しかし、調査の結果、本調査区内においては坪境を示す遺構は検出されなかった。これは、遺構が調査区外に位置するものか、第５・８次調査で検出した溝が特異な性格を有するものかについては今後の調査結果を待つ必要がある。同様に、集落の範囲確認もその必要がある。



１．調査地点の位置（093－Ａ－１．１：8000）



２．調査区全景（南から）



３．土壙検出状況（北から）

8935　那珂遺跡群第22次（NAK－22）

所 在 地　博多区竹下五丁目420
調査原因　共同住宅建設
調査期間　890707～890822
調査面積　516㎡
担 当 者　荒牧宏行
処　　置　調査後破壊

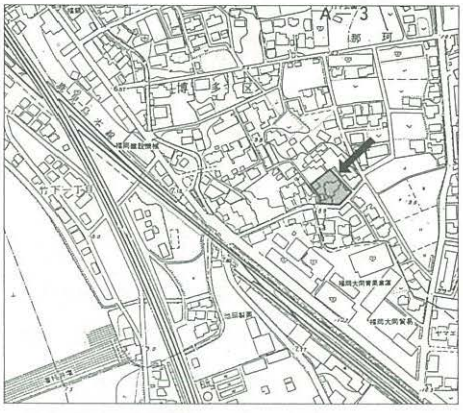
位置・環境　本調査区は西側が那珂川の氾濫原である那珂台地の南西縁に位置する。旧状は標高10.1ｍの平坦な宅地であった。遺構検出面のローム層は標高9.50～9.90ｍの比高差で南側に緩やかに落ちている。このローム層上面は調査区北半では赤褐色のいわゆる鳥栖ロームであるが、南半では上層の黒色土に汚染され褐色味を帯びた灰白色を呈す。

検出遺構
・古墳時代：土壙１基
・古代～中世：溝２条、土壙６基（馬埋葬１基を含む）炉址１基、井戸１基、柱穴多数
・近代以降：溝（水路）１条、土壙５基、井戸１基

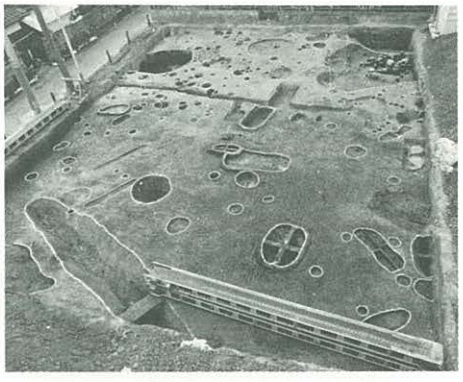
出土遺物　包含層、遺構からコンテナ47箱分の遺物が出土した。特筆すべきものとして、７世紀を前後する時期の土壙（SX 04）から軒丸瓦２個体が完形に近い形で出土した。類例として太宰府市の神ノ前窯跡出土のものがある。この土壙からは他に平瓦片、ほぼ完形品の大甕２個体を含む多量の遺物が出土した。

まとめ　検出された遺構は７～８世紀代のものが中心を占め、弥生時代の遺構は検出されなかった。従って、弥生時代の集落は中期末の環濠が検出された北側の20次、23次の調査地点から以後、当調査地点の台地縁辺に及ぶまでは拡がりがない。

上記のように居住空間として当地が利用されるのは古墳時代以降である。７世紀代になると那珂台地部で東西、南北方向に整然と走る溝が既往の調査で検出され、瓦の出土と絡んで那珂郡衙との関連が想起されつつある。なお、本調査では東西方向に走る溝が検出された。また、初期瓦の出土はこれらの時期を遡り、その性格の再考をうながす。



1．調査地点の位置（037－Ａ－３．１：8000）


2．調査区全景（南から）

3．SX 04遺物出土状況（南から）

8936　那珂遺跡群第23次（NAK－23）

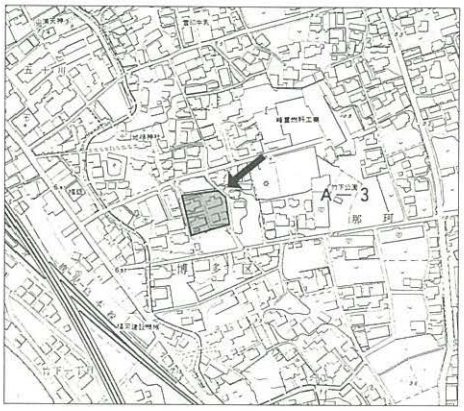
所 在 地　博多区竹下五丁目282・283
調査原因　市立保育所建設
調査期間　890710～900104
調査面積　1,428m²
担 当 者　下村智・荒牧宏行
処　　置　調査後南半部のみ埋戻保存

位置・環境　調査地点は、那珂遺跡群の西側部分にあたり、那珂川を望む標高10mの台地上に位置する。東200mには弥生時代中期後半に属する大溝（環濠）が検出された第20次調査地点、南100mには初期瓦を出土する土壙が検出された第22次調査地点がある。

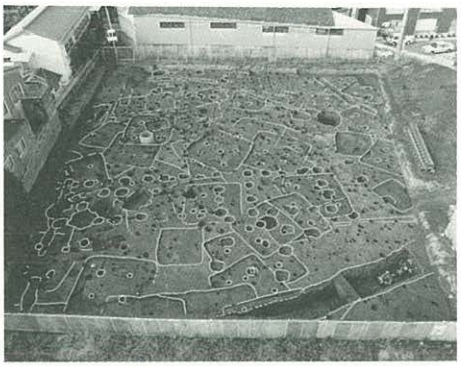
検出遺構　弥生時代前期末～中期初頭の貯蔵穴、中期後半の貯蔵穴・掘立柱建物・大溝（環濠）、後期の井戸址、古墳時代中期～後期の竪穴住居址・掘立柱建物・溝、終末期の大形掘立柱建物・溝、中世の竪穴状遺構・井戸址・溝などがある。

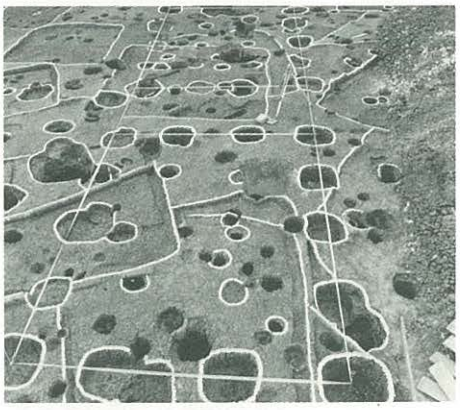
出土遺物　弥生時代の大溝から筒形器台、壺、甕、高杯・器台など丹塗り土器も含めて、多量の土器が出土している。それと共に中細銅戈の鋳型（最大長13cm）が3点ある。中世の遺構からは混入した状態で弥生時代の青銅製鋤先と鏡片も出土。古墳時代から中世にかけての遺物量は同様に多いが、注目されるのは神ノ前及び月ノ浦窯跡出土と同タイプの初期瓦の出土である。遺物総量はコンテナ310箱分。

まとめ　弥生時代の大溝は第20次調査の大溝と一連のものと推測される。古墳時代の竪穴住居址は6世紀代を中心とするもので、50軒を越え切り合いが激しい。7世紀になると、桁行6.3m（4間）、梁行4.8m（3間）の大形掘立柱建物が登場する。3棟が東西方向に並び桁をつなげた倉庫ではないかと考えられる。東側には幅2mの南北溝が走り境界をなす。郡衙前身の公的施設の存在が想起される。



1．調査地点の位置（038－A－3．1：8000）


2．調査区全景（南から）


3．倉庫群全景（東から）

8937　飯倉C遺跡第1次（IKR－C－1）

所 在 地　城南区七隈三丁目77－6外
調査原因　共同住宅建設
調査期間　890717～891018
調査面積　2,412㎡
担 当 者　山崎龍雄
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査区は油山山塊から北へ細長く延びる飯倉・干隈丘陵の東側斜面上に立地し、当地区の標高は16～22mと東に向って低くなっている。調査区の現況は山林であった。

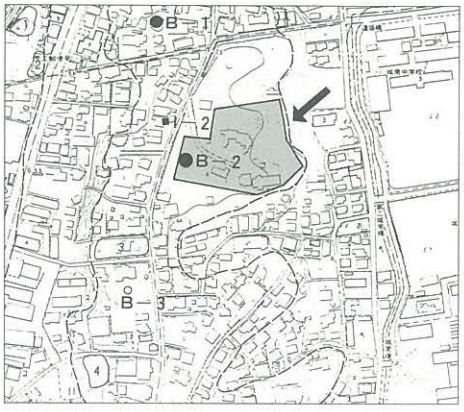
調査区周辺は比較的早い段階から宅地化が進んだため、あまり調査が行われていないが、調査区の西側にある飯倉原遺跡では、昭和38年の調査で、弥生時代前期末から中期にかけての甕棺墓群から細形銅剣1本が出土している。また、南側の干隈遺跡では昭和54年に主体部が石棺の前期古墳が1基調査されている。

検出遺構
・弥生時代後期後半：溝状遺構1条
・古墳時代後期：竪穴住居址1棟、土壙墓1基、焼土壙2基
・古墳時代～中世：掘立柱建物10棟
・中世：溝1条
・近世以降：井戸1基、石組遺構1基

当初飯倉6号墳としていたものは、調査の結果江戸時代後期以降の石組遺構と判明した。

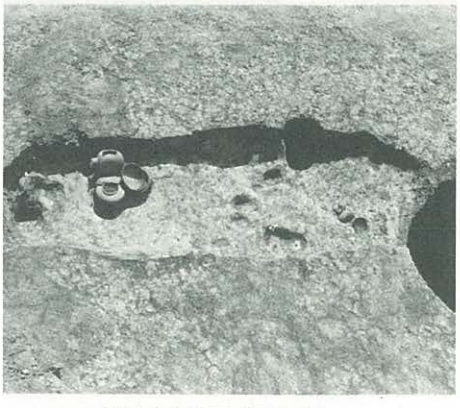
出土遺物　弥生時代から近現代迄の遺物を含めてコンテナ20箱程出土した。弥生時代の溝からは後期後半代の土器が多量に出土しており、また古墳時代後期の土壙墓からは6世紀後半代の須恵器が出土している。このほか縄文時代の石鏃が数点、包含層からは越州窯系青磁の碗の底部片が1点出土している。

まとめ　今回の調査では弥生時代後期から中世にかけての遺構が検出された。弥生時代の遺構は溝だけであるが、調査区外の周辺には住居址などが存在する可能性がある。周辺は宅地化がかなり進んでいるが、遺構面は0.2～1.3mとかなり深く、木造家屋など基礎の浅い建物の場合、遺構が残存している可能性がある。



1．調査地点の位置（037－A－3．1：8000）

2．調査区全景（北西から）


3．SK 09遺物出土状況（西から）

8938　愛宕山古墳第１次（ATG－１）

所 在 地　西区愛宕三丁目4278－４外
調査原因　宅地造成
調査期間　890703～890929
調査面積　300㎡（古墳１基）
担 当 者　（佐田茂）
処　　置　調査後移築復元

位置・環境　本古墳は、博多湾を見おろす標高約40ｍの愛宕山の東頂部に位置する。この低丘陵は、通称姪浜石の砂岩からなる。現在、沖積地とつながっているが、古墳時代ころは海岸線から離れた島であったと思われる。この愛宕山には、本古墳と瓦経埋納遺跡のほか、埋蔵文化財包蔵地は知られていない。『筑前国続風土記』には「筑前探題跡」があったと記されているが、はっきりした遺構はわからない。

検出遺構　円墳？　１基

古墳は、丘陵頂部からやや下がった尾根線上につくられている。以前の分布調査では未確認のため、表土（５～10㎝）下は直接、砂岩の地山があらわれ、墳丘外周を区画する溝も確認されなかったため、正確な墳形や墳丘規模を推定することは難しいが、おそらく直径８～10ｍ程度の円墳であろう。

埋葬施設は、南に開口する単室構造の横穴式石室。羨道部を構成する石材はすべて取り除かれ、玄室の周壁下部を残すのみである。玄室規模は、幅1.7ｍ、長さ2.1ｍ、高さは1.2ｍあまり、使用石材は地山の砂岩転石。

出土遺物　玄室内からの副葬品の出土はなく、墳丘外から須恵器（甕）が数個体分発見された（コンテナ１箱）。

まとめ　出土した須恵器や石室構造から、本古墳は６世紀末葉から７世紀初めころの造営と考えられる。周辺に古墳がなく、単独墳的様相がつよい。

１．調査地点の位置（080－Ｂ．１：8000）

２．古墳遠景

３．石室検出状況

8939　比恵遺跡群第26次（HIE－26）

所 在 地　博多区博多駅南三丁目58
調査原因　駐車場建設
調査期間　890807～890923
調査面積　482㎡
担 当 者　小畑弘己
処　　置　調査後破壊

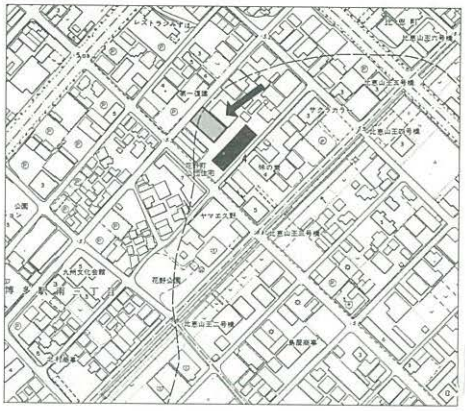
位置・環境　調査地点は、比恵台地の西北端にあたり、標高は現地表面で5.5～6.0mである。調査区内には台地とその西側に広がる谷部の遺物包含層が認められた。この谷部には多量の遺物を含む層とその斜面途上に木器の集積などの遺構が認められたが、時間的制約によりその一部を調査したに過ぎない。周辺の調査は、4・24・25次調査がある。

検出遺構
・弥生時代前期末～中期初頭：竪穴住居址3基、貯蔵穴3基、溝2条
・弥生時代後期？：水溜状遺構
・中世初頭：溝1条

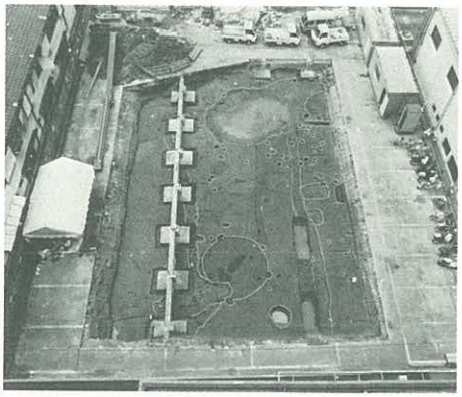
谷部には、弥生時代前期末から中期初頭にかけての包含層があり、この中から多量の遺物が出土した。粘土層の下面には、完形の竪杵を含む石囲いの木材貯蔵用のピットがあった。

出土遺物　各遺構より、壺・甕を中心とした土器、黒曜石片、石斧、紡錘車、投弾などが出土した。特記すべきものとして、水溜状遺構の最下層の粘土中より出土した銅鏃と笊がある。笊は破損しているものの、植物繊維で編んだ径25cm程のもので、弥生時代の出土例としては貴重なものである。遺物総数コンテナ60箱。

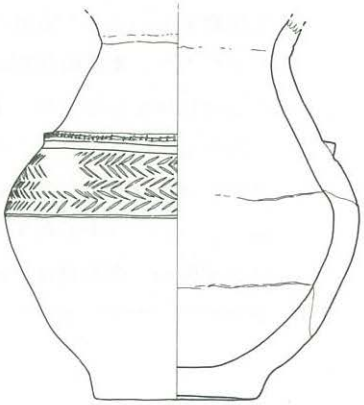
まとめ　今回の調査では、谷部において包含層を層位的に区別して把握することはできなかったが、周辺での調査成果ともあわせて、弥生時代前期末から中期初頭にかけての集落構造をおおまかに把握できたことは大きな成果であった。また、松菊里型の住居の発見も貴重な資料を提供した。



1．調査地点の位置（037－A－1．1：8000）



2．調査区全景（南から）



3．谷部包含層出土の丹塗り小壺（1：2）

8940　飯倉F遺跡第1次（IKR－F－1）

所 在 地　城南区梅林三丁目地内
調査原因　公園建設
調査期間　890817～891021
調査面積　1,000㎡
担 当 者　瀧本正志
処　　置　調査後破壊

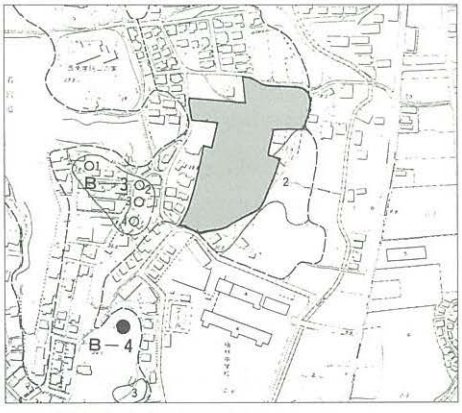
位置・環境　福岡平野の西南部に位置する独立山塊の油山から北へ派生する舌状の丘陵上には、縄文時代から古墳時代に至る多くの遺跡が存在している。本調査地は、この丘陵の東斜面に位置し、標高10～20mを測る。現況は、丘陵で残り少ない山林である。

検出遺構
・弥生時代中期末：竪穴住居址3軒、溝4条
・弥生時代後期：甕棺墓1基
・古墳時代後期：竪穴住居址1軒、溝1条
・奈良時代：溝1条、柱穴

調査地北辺部に小さな谷が認められ、この谷を挟む丘陵の緩斜面や平坦部に弥生・古墳時代の住居が築造されている。弥生時代の住居址は、方形もしくは長方形の平面形を呈し、二本柱の構造である。床面の一方にはベッド状遺構が認められる。甕棺墓は小児用の単式甕棺墓である。

出土遺物　遺物は、弥生時代中期末から後期の土器（甕・高杯・器台）、古墳時代の須恵器（瓮・土師器（甕・高杯・鉢）、砥石などがコンテナ30箱程出土している。

まとめ　今回の調査では、飯倉丘陵における弥生時代後期を中心とした集落の存在を確認することができた。集落の詳細は次年度の調査を待たなければならないが、遺物の大半が谷部から出土していることや、その出土量の多さは、後期にはかなりの集落が谷を挟む丘陵上に展開していたことを示唆するものである。弥生時代集落の生産基盤は、油山から派生した丘陵間の谷部水田に求めることができよう。



1．調査地点の位置（074－A－3．1：8000）

2．Ⅱ区全景（南から）

3．Ⅲ区全景（西から）

8941　博多遺跡群第54次（HKT－54）

所 在 地　博多区冷泉町二丁目128－2
調査原因　店舗付住宅建設
調査期間　890710～890711
調査面積　99㎡
担 当 者　常松幹雄・横山邦継
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は博多遺跡群の南西部、櫛田神社の参道に面している。付近は大通りから外れているため、まとまった面積の開発が少なく、埋蔵文化財の調査データが少ない箇所である。

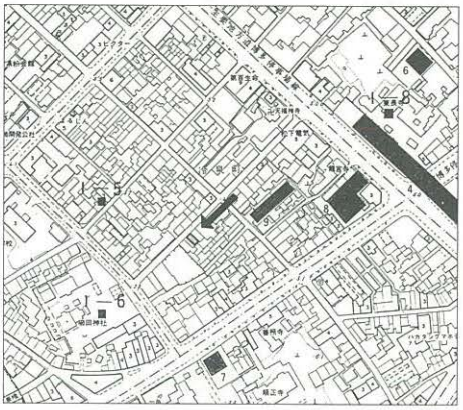
検出遺構　開発予定地が事前調査を行なうには狭小なため、杭打後の根切りにあわせて立会調査の運びとなった。

根切りは現地表下250cmが予定されており、遺物の取り上げに合わせて掘削を進めるよう依頼した。その結果、地表下130～150cm程で白磁碗が多量に出土した。また南西の隅では板碑がまとまって見つかった。

根切りが終了した段階で東西の土層を観察したところ、幅3m程のU字溝の断面を確認することができた。この溝は東西方向に伸びる可能性があり、今後、近隣での再開発の機会を捉えて方向や時期を検討する必要がある。

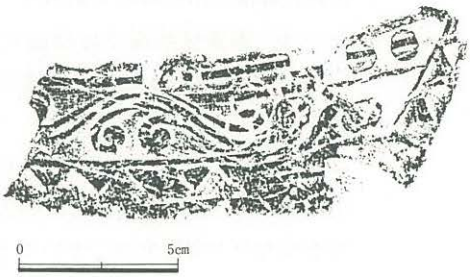
出土遺物　出土遺物は老司式軒平瓦破片、白磁碗、板碑などコンテナ3箱分である。

まとめ　出土した板碑は11基、材質は砂岩、うち2基が連碑である。折損のため縦の法量は不明だが、平均して幅15.7cm、厚6.5cm（連碑は幅23.8cm、厚6.4cm）を測り小形の板碑に属す。このうち、地蔵菩薩の種子と寶善・妙金の二人の供養者（或は被供養者）の法名を刻む1基の連碑には、その側面に文明八年（1476）の紀年銘を残す。現在同種の板碑の造立年代については、米一丸地蔵堂（東区箱崎六丁目）境内の永享五年（1433）銘のものが知られるだけであったので、本例及び出土した板碑は市域における小形板碑の造立年代を考える上で重要な指標となるものである。



1．調査地点の位置（048－A－1．1：8000）

2．U字溝の土層断面



3．出土古瓦拓影

8942　博多遺跡群第55次（HKT－55）

所 在 地　博多区奈良屋町61－1
調査原因　事業所建設
調査期間　890811～890921
調査面積　128m²
担 当 者　小林義彦
処　　置　調査後破壊

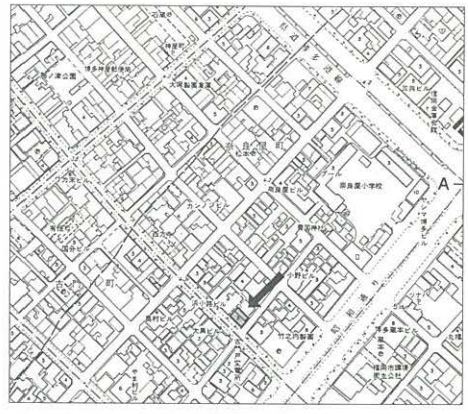
位置・環境　博多遺跡群は、博多川と石堂川に挟まれた砂丘上に立地する弥生時代から近世までの大複合遺跡である。とに、古代から中世にかけては貿易都市として繁栄をきわめている。本調査区は、この博多遺跡群が立地するふたつの砂丘のうち博多湾に面した「息の濱」と云われる古砂丘の西端に位置する。

検出遺構　調査の結果、約1.7ｍの撹乱層を除去すると厚さ20㎝の遺物包含層に達し、その下層は標高３ｍの基盤となる黄灰色砂層になる。遺構は、遺物包含層上と基盤上の２面で検出した。

・第１面：掘立柱建物址、井戸址、土壙、炉跡
・第２面：掘立柱建物址、井戸址、土壙、炉跡、溝

出土遺物　遺物は、井戸址や土壙などから龍泉窯系の輸入陶磁器（コンテナ５箱）や土師器（コンテナ15箱）のほか銅銭（24点）・鉄製品（36点）・土製品（５点）などが出土している。遺物包含層からの出土量は少ない。

まとめ　本調査区で検出した掘立柱建物址は、柱穴内に礎石を敷くもので、砂丘上に立地する構造物の特性を示すものであろう。また、第２面では、調査区西端でほぼ磁北に沿った幅1.7ｍの溝を検出した。中世博多の町割りの溝の一部であろう。いずれにしても本調査区は、古代末に埋め立てによって造られた都市空間であり、貿易都市としての博多の発展と都市拡大の方向性を示しているといえよう。



1．調査地点の位置（048－Ａ－1．1：8000）

2．調査区２面全景（西から）

3．土壙 SK 104遺物出土状況

8943　博多遺跡群第56次（HKT－56）

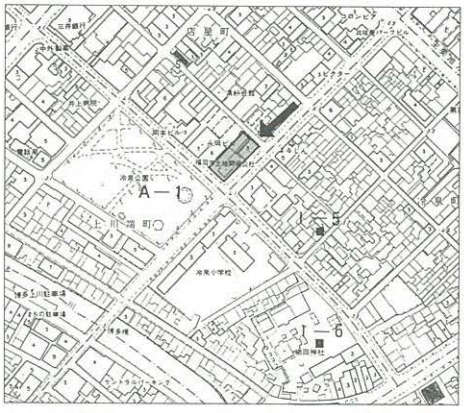
所 在 地　博多区店屋町４－１外
調査原因　国際交流会館等建設
調査期間　890905～900203
調査面積　476㎡
担 当 者　濱石哲也・菅波正人
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査地点は博多遺跡群中央西側の旧博多浜の西北縁に位置する。現地表の標高4.1ｍ、基盤砂層面で2.0～2.7ｍである。道路をはさんで南側に万行寺、西側に櫛田神社がある。調査は排土の関係からＡ・Ｂ２区に分けて行なった。Ａ区は３面、Ｂ区は基盤層が浅くなり、なおかつ上部の撹乱が著しかったため最下層１面だけの調査となった。

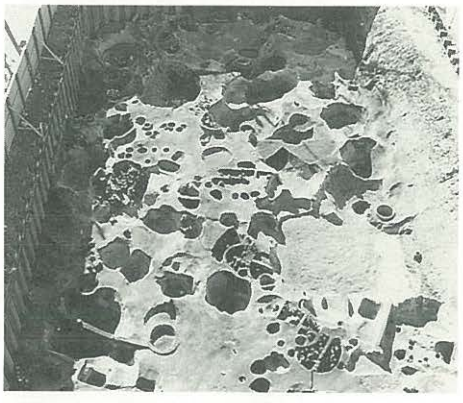
検出遺構
・古墳時代：住居址
・古代：住居址、土壙、井戸、柱穴
・中世：井戸、土壙、柱穴、溝など
・近世：製鉄遺構、井戸、溝、石組遺構など
・近現代：製鉄遺構、地下室など

出土異物　総出土量はコンテナ600箱におよぶ。主な遺物として、弥生土器、古墳時代の須恵器・土師器、奈良時代の須恵器・土師器、奈良時代の須恵器・土師器、平安・鎌倉・室町時代の輸入陶磁器（白磁・青磁など）・国産陶磁器（備前焼ほか）・土師器・黒色土器・金製品・銅銭など、江戸時代以降の国産陶磁器（伊万里焼ほか）・土師器・坩堝、羽口鋳型・鉄滓などがある。

まとめ　今回の調査では奈良時代以降から近現代までの博多浜西縁部での生活の営みを確認することができた。遺構としては井戸がきわめて多いことが特徴的である。また11～12世紀代の輸入陶磁器の出土量の多さは目をみはるものがあった。すぐ北の第14次調査でも白磁溜りが検出されており、遺物の検討のみならず貿易形態や流通の実態にも大きな手懸りを与えるものと考えられる。



1．調査地点の位置（049－Ａ－１．１：8000）


2．Ａ区３面全景（東から）

3．輸入陶磁器廃棄土壙

8944　大塚遺跡群第７次（OTK－７）

所 在 地　西区今宿町大塚334－１
調査原因　分譲住宅建設
調査期間　890830～890926
調査面積　134㎡
担 当 者　加藤良彦
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査区は大塚古墳北東側15ｍに位置する。遺構面の標高9.5ｍをはかる。

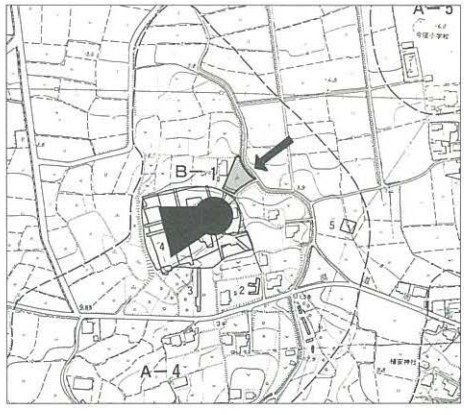
現状は畑地で、表土下30～50㎝で赤褐色粘土の遺構面に達する。今回は４戸分の分譲住宅造成のため、削平を受ける車庫部分の調査に限定し、南側を１区（77.2㎡）、北側を２区（56.5㎡）とした。

検出遺構
・弥生時代～中世：柱穴群
・古墳時代～中世：掘立柱建物４、溝１
・中世　：土壙１、井戸１、溝３、柵列４

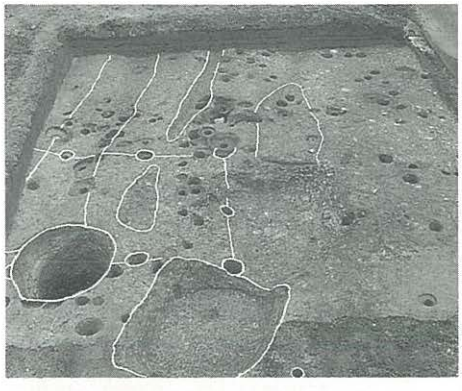
出土遺物　遺物は井戸、溝、柱穴、土壙から検出され、縄文時代の石鏃、弥生式土器、土師器、円筒埴輪片、15～16世紀代の中国産陶磁器などが出土した（コンテナ１箱分）。

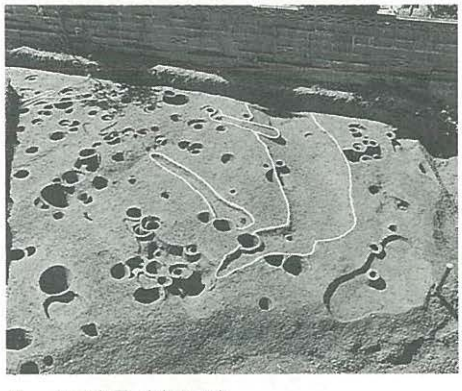
まとめ　掘立柱建物は１・２区で３棟検出し、中世末以前のものである。土壙は径1.5ｍの方形で龍泉窯系青磁器を出土した。また溝は平行する東西溝３条（１区）、東端部で屈曲する１条（２区）があり、15～16世紀代の中国産陶磁器を出土し、柵列及び石組みの井側をもった井戸とともに同一時期にとらえうるものである。

なお井戸内からは曲物や径3.5㎝の独楽形木製品が出土した。



１．調査地点の位置（112－Ａ－４．１：8000）


２．１区全景（西から）


３．２区全景（東から）

8945　鋤崎古墳群第２次（SKK－２）

所 在 地　西区大字今宿青木字鋤崎
調査原因　ガス基地建設
調査期間　890925～891118
調査面積　480㎡（古墳５基）
担 当 者　小林義彦
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本古墳群は福岡・糸島両平野に挟まれた狭長な今宿平野の東端部に位置し、飯盛山から叶岳・長垂山とつづく山塊の西麓から西北方向に放射状に派生した標高30ｍの舌状丘陵上に立地する古墳時代後期の群集墳である。

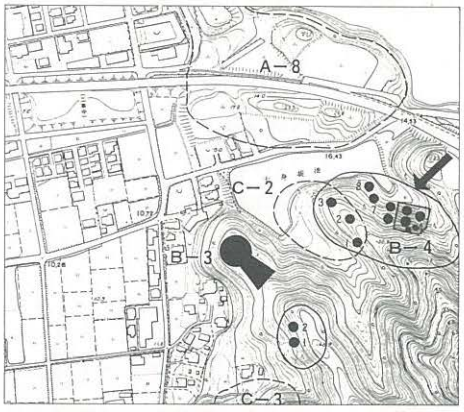
現況は山林で、本古墳群と谷を挟んだ西側の丘陵上には、丘尾切断によって前方部を造り出す全長62ｍの前方後円墳である鋤崎古墳が立地する。

検出遺構　今回調査対象となったのは、丘陵の東斜面最奥に立地する２基（４・５号墳）であるが、西側斜面上から３基の小円墳（11～13号墳）が発見され、５基を調査した。

・弥生時代：土壙１基
・古墳時代：円墳５基、石棺墓２基、焼土壙７基

出土遺物　遺物は、墳丘より供献された須恵器（コンテナ９箱）と土師器（コンテナ１箱）が出土したほか、紡錘車・磨製石鏃・打製石鏃が各１点出土した。また、４号墳の墳丘下の土壙から弥生時代の大型甕が１個体分（コンテナ１箱）出土した。

まとめ　今回調査した５基のうち、４号墳は墳径７ｍ、５号墳は墳径９ｍの円墳で、石室は両袖型の単室横穴式石室である。古墳は、西斜面を馬蹄形に地山整形して造り出し、馬蹄形溝内に多数の土器を供献していた。11～13号墳は墳径４～５ｍの小円墳で、石棺系の小石室を内部主体とする。６世紀後半～７世紀代にかけて造営・追葬が行なわれたものと考えられる。本古墳群は10数基の円墳からなり、占地、築造順位、形態変化など群集墳の形成過程を検討するうえで貴重な資料となろう。



1．調査地点の位置（112－Ｂ－４．１：8000）

2．調査区全景（北東から）

3．４号墳全景（北から）

8946　藤崎遺跡群第16次（FUA－16）

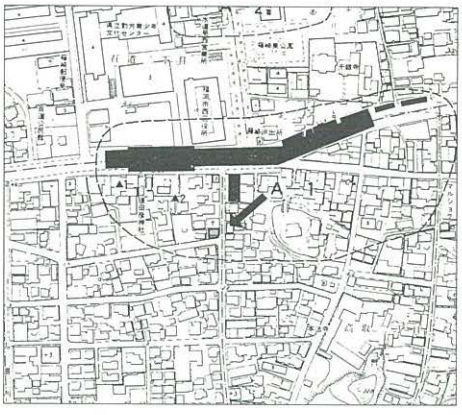
所 在 地　早良区藤崎一丁目１－60
調査原因　共同住宅建設
調査期間　890907～890920
調査面積　70㎡
担 当 者　長家伸・池田祐司
処　　置　調査後破壊

位置・環境　藤崎遺跡は博多湾西部に面する古砂丘上に立地し、甕棺墓、方形周溝墓の調査など多くの成果をあげている。

検出遺構　遺構は上下２面に検出された。上面は、地表下1.0ｍほどで溝２条、土壙１基、ピット数個が検出された。溝は２条が並行してほぼ南北方向に走っている。溝 SD 01は溝 SD 02の西壁を切りながら走っており、土層観察の結果から溝の掘り直しと考えられる。埋土中より８世紀前半代の須恵器の高台付椀が出土している。溝相互には明確な時期差は認められなかった。

上面より20㎝ほど掘り下げた下面では、ピット20数個が検出された。建物としてはまとまらなかったが、配列状況から調査区外に延びるものと思われる。古墳時代後期頃に位置づけられよう。

出土遺物　遺物の量は少なかったが、その中で土錘が30個以上出土したことは注目される（コンテナ３箱分出土）。



1．調査地点の位置（081－Ａ－１．１：8000）

2．調査区上面全景（南から）

3．調査区下面全景（南から）

8947　博多遺跡群第57次（HKT－57）

所 在 地　博多区祇園町557
調査原因　ビル建設
調査期間　891003～891005
調査面積　184㎡
担 当 者　小畑弘己
処　　置　調査後破壊

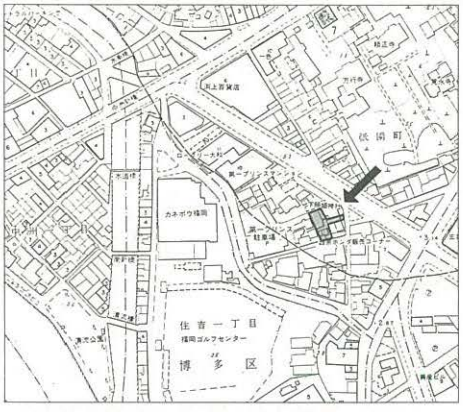
位置・環境　調査地点は、博多遺跡群の南西隅にあたり、房州堀推定地内に含まれる。房州堀とは、16世紀末に大友氏の家臣臼杵安房守鑑賡が掘らせたと伝えられる博多の南境を巡る堀で、博多の南側の要害である。今回の調査地点はこの堀の中にあたり、堀の検出を主目的として調査を実施した。

検出遺構　調査区を横切るようにトレンチを３個所設定して調査を行った。その結果、調査区内には近現代の埋立の客土が厚く堆積しており、その下部に厚さ20㎝前後の暗灰青色の粘質土があった。この層の下は河川による砂の堆積で、上層と同じ覆土を持つ幅20㎝の平行する溝状の遺構が掘り込まれていた。

出土遺物　粘質土層を中心として18世紀～19世紀代の遺物がコンテナ３箱出土している。肥前系の陶磁器、李朝青磁、各種の国産土器、瓦などがある。

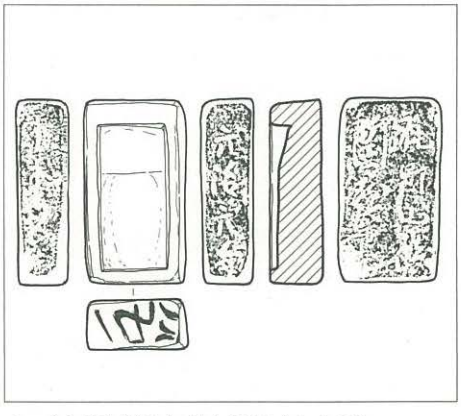
興味あるものに、『元治元年（1864）、瓦町陶屋山崎馬志、すずりい志』と書いた土製の小型の硯がある。この人物は黒田藩の御用瓦師のひとつであった山崎家の末裔であろう。

まとめ　今回の調査では、堀の立ち上がりを検出することはできず、むしろ堀の中という様相であった。最下層で検出した溝状遺構は、水田に伴う暗渠か、畝の跡と考えられ、17世紀中頃には水田化していたという文献上の記述と一致する。



1．調査地点の位置（049－Ａ－１．１：8000）

2．第１トレンチ土層断面（東から）



3．『山崎』銘のある土製硯（１：２）

8948　博多遺跡群第58次（HKT－58）

所 在 地　博多区綱場町20・20－１、21－２　**調査面積**　70㎡
調査原因　ビル建設　**担 当 者**　山口譲治
調査期間　891006～891016　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　本調査地は、博多遺跡群の北部にあたり、「息の濱」と呼ばれる砂丘の内陸側の谷部の現標高4.2ｍに位置している。約2.8ｍの現代盛土を重機によって除去すると、中世の遺物包含層が確認された。

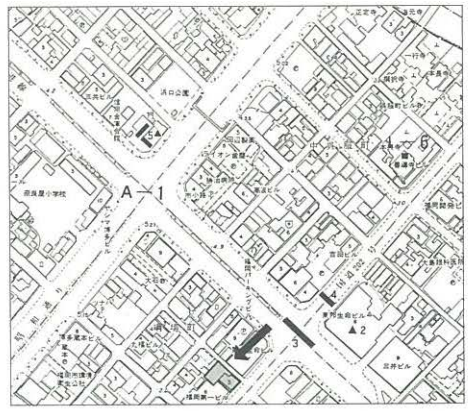
標高1.2ｍ前後で、海砂による整地層を基盤とした中世の遺構を検出した。

検出遺構　・平安時代：護岸状遺構
・中世：土壙・溝・柱穴

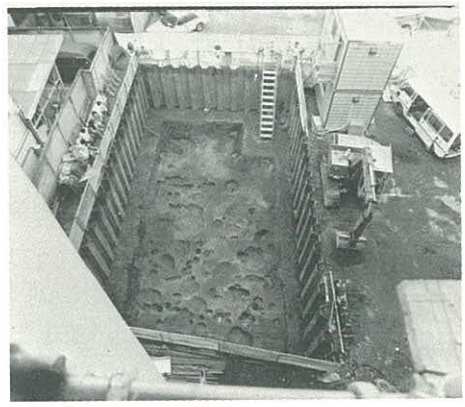
出土遺物　包含層・遺構から土器がコンテナ１箱、木器が２箱、獣骨（人骨を含む）１箱が出土した。

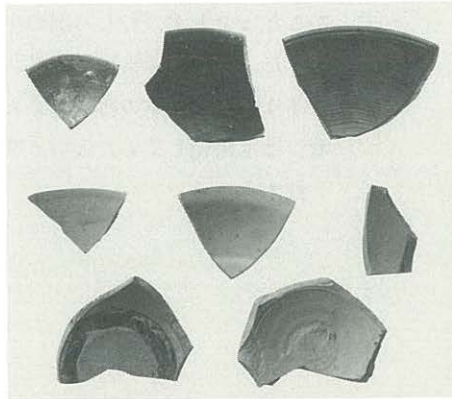
土器は土師器が多く、少量の中国製陶磁器があり、木器は、板草履や箸などがある。人の頭骨・獣骨・海獣骨が出土した。

まとめ　本調査は、博多遺跡群のなかで調査例が少ない「息の濱」砂丘周辺部の調査である。その結果、標高1.2ｍ前後で12世紀前後の面があり、調査区中央部で西側に約0.9ｍ直に落ち、壁には護岸と考えられる木杭が柵状に施されている。



1．調査地点の位置（049－Ａ－１．１：8000）


2．調査区全景


3．黒灰色粗砂層出土黒色土器と輸入陶磁器

8949　麦野C遺跡群第1次（MGC－1）

現 在 地　博多区麦野六丁目11－4
調査原因　ビル建設
調査期間　891011～891118
調査面積　633㎡
担 当 者　小畑弘己
処　　置　調査後破壊

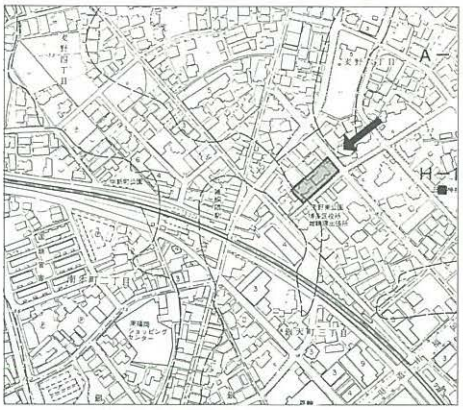
位置・環境　調査地点は、春日丘陵から那珂・比恵台地に連なる洪積世台地の上にある。解析された谷に挟まれた幅100m前後の台地最頂部にあたり、標高14～16mである。調査地点は東西に緩く傾斜しており、それぞれの斜面に遺構が存在する。

検出遺構　・奈良時代：竪穴住居址23軒、土壙3基、柱穴多数。

出土遺物　出土遺物には、各種須恵器・土師器のほか瓦、鉄斧などの鉄製品、紡錘車・砥石などの石製品などがある。特記すべきものに第22号住居址東の柱穴より出土した半裁された須恵器の高台付杯がある。穴の中位からまとまって出土しており、鎮壇のための祭祀行為を示すものであろうか。遺物総数コンテナ12箱。

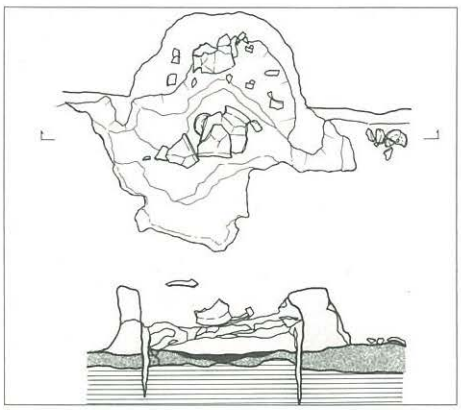
まとめ　今回の調査では8世紀中ごろから後半にかけての23軒の竪穴住居址を検出したが、そのすべてが固定式の竈をもつている。住居址は3回の切り合いが認められ、竈の方向ともあわせ3時期の建替えを想定できる。

出土遺物には、弥生時代の扁平片刃石斧、旧石器時代の黒曜石とサヌカイト製の石刃、剥片があり、トレンチを設定して地山を掘り下げたが、この時期の包含層は検出できなかった。



1．調査地点の位置（012－A－4．1：8000）

2．調査区全景（西から）


3．1号住居址竈（1：40）

8950　福岡城肥前堀第４次（HZB－４）

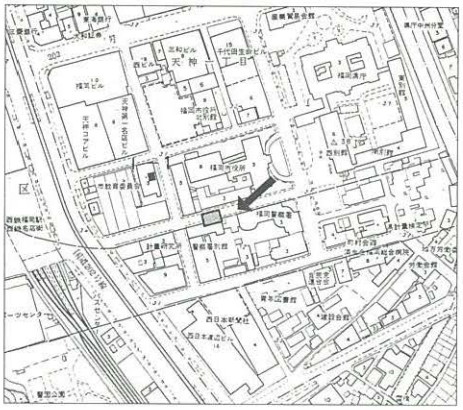
現 在 地　中央区天神一丁目８－１
調査原因　市庁舎地下駐車場建設
調査期間　891011～891021
調査面積　700㎡
担 当 者　菅波正人
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査地は、福岡城内堀と那珂川を結ぶ肥前堀内にあたり、第２次調査地点と第３次調査地点の中間に位置する。調査は堀の北側の肩の確認を主目的とした。堀の肩は地表下30cm、標高約2.5ｍで確認できた。

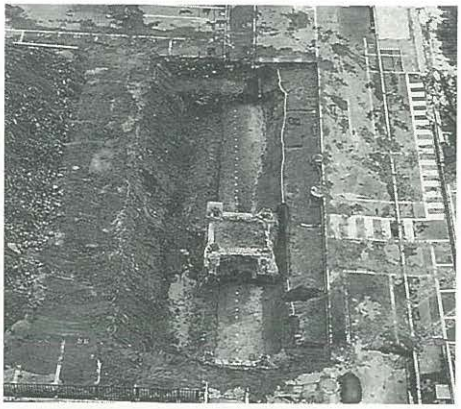
検出遺構　調査は湧水による崩落などの危険を考慮して、地表下約3.0ｍまでとした。堀の構造は今までの調査で確認されている素掘りの二段掘りである。今回の調査でもそのことは確認できた。また、二段目の肩で、約50cm間隔に並ぶ護岸の杭列を検出した。

出土遺物　遺物は二段目の肩の底に溜まった黒色砂質土からコンテナ10箱が出土した。遺物には近世陶磁器、瓦、土師器皿などがある。また、中世の中国製陶磁器、奈良時代の須恵器、弥生土器も出土した。

まとめ　今回の調査では従来の調査で確認されていた堀の構造などを追認できた。今後の課題としては堀の南端の確認が残されている重要なものである。



１．調査地点の位置（049－Ｅ－１．１：8000）



２．調査区全景（東から）

３．調査区西壁断面土層（東から）

8951　草場古墳群第２次（KSK－２）

所 在 地　西区下山門大谷1709－２外
調査原因　宅地造成
調査期間　891012～900303
調査面積　2,575㎡
担 当 者　加藤良彦
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査区は叶岳から長垂山へと延びる山塊から北東へ派出する小支丘上にあり、古墳群は谷を挟んで向き合った二つの小支丘の斜面及び稜線上に６基ずつ分布している。

現状は山林。表土下50～150㎝程の赤褐色の流土層があり、以下20～30㎝の暗褐色の包含層を挟んで基盤層となる。

検出遺構
・古墳時代後期：古墳８基、竪穴住居址１
・古墳時代後期～奈良時代：焼土壙１、土壙４

出土遺物　遺物は各古墳・住居址・包含層からⅢＡ～Ⅵ期の須恵器・土師器・耳環・玉類・鉄刀・鉄鏃などを検出。とくに６号墳からは銅製馬鈴１点・鉄鉾２点を検出。ほかに包含層中から縄文時代早期の条痕文土器数点・石鏃を検出した。遺物は総量でコンテナ26箱。

まとめ　**５号墳**は周溝外径で8.6ｍを測る方墳で、主体部は内法2.3～1.2ｍの横穴式石室の技法で築かれた竪穴状石室。削平が著しく、腰石とその上の一・二石しか残っていない。

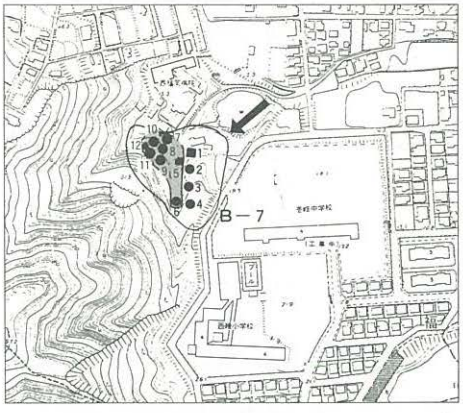
６号墳は周溝外径で12ｍを測る馬蹄形の墳丘で、西に開口する両袖の横穴式石室を主体とする。玄室は2.3×2.1ｍ、羨道は2.7×1.0ｍを測る。二面の床面がある。

７号墳は径15ｍの馬蹄形墳で、南西に開口する横穴式石室を主体とする。玄室は北半を欠失するが２×２ｍ、羨道は2.9×0.8ｍを測る。

８号墳は径10.5ｍの馬蹄形墳で、東に開口する横穴式石室を主体とする。玄室は1.7×1.1ｍ、羨道は2.1×0.6ｍを測る。

９号墳は長径18ｍ・短径10ｍの楕円形を呈し、南東に開口する横穴石室を主体とする。

10～12号墳も横穴石室を主体とする。



１．調査地点の位置（103－Ｂ－７．１：8000）

２．７・８号墳遠景（南東から）

３．８号墳玄室（北から）

8952　四箇遺跡群第24次（SIK－24）

所 在 地　早良区大字重留1096外
調査原因　宅地造成
調査期間　891016～900120
調査面積　1,712㎡
担 当 者　常松幹雄
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は四箇遺跡群の東部、23次調査区の北側及び西側に位置する。調査区は公道によって２分されており、東側を１区、西側をさらに南北に区別して２区、３区と呼ぶことにした。調査を行ったのは、住宅の取り付け道路にあたる部分で、幅５ｍ前後で遺構検出を行った。

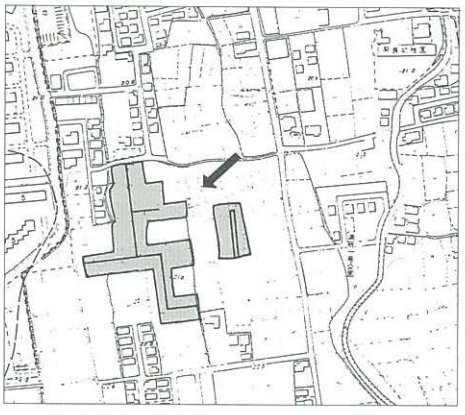
検出遺構　遺構は全て河川の流路と考えられる。出土遺物や位置関係から判断すると、河川は１区で１条、２区で３条、３区で３条の計７条と考えられる。

出土遺物　弥生土器片、石器片などコンテナ７箱分のほかに、木製品３点がある。

まとめ　１区の河川は弥生時代中期前半の土器を主体とし、護岸状の杭列などが認められた。

２区の３条の河川は共伴遺物が少なく、時期の比定が難しい。砂質土中から「ネズミ返し」がほぼ完全な姿で出土した。

３区の５号河川は、突帯文土器を主体とするもので、弥生時代前期の古段階に位置づけられる。共伴遺物に、漆塗りの木製椀の一部がある。ほかに焼成後にベンガラを塗布した土器片なども出土しており、この時期の赤色顔料の使用法を考えるうえで興味深い。



１．調査地点の位置（084－Ａ－２．１：8000）

２．１区１号河川（北から）

３．３区５号河川（南から）

8953　有田遺跡群第152次（ART－152）

所 在 地　早良区小田部五丁目48・49
調査原因　店舗建設
調査期間　891023～891121
調査面積　770㎡
担 当 者　山崎龍雄
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査区は北へ八手状に広がる有田・小田部台地の西から２番目の台地の西側斜面上に立地する。標高７～８ｍを測り、南西部に向かって若干傾斜して行く。調査前の現況は畑地であった。

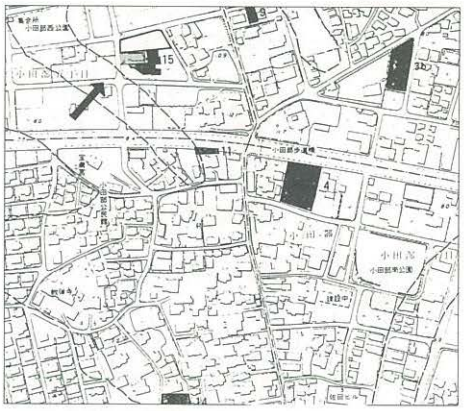
調査区周辺は比較的調査が行われており、南側は第15次・114次調査、東側は第98次調査、北側は第22次調査が行われており、弥生時代中期の円形竪穴住居址や、古墳時代前期から後期にかけての竪穴住居址、古代から中世にかけての掘立柱建物などが多数確認されている。

検出遺構　本調査区の遺構面は地表下20～80㎝と南西側に向かって深くなり、南西側には遺物包含層も若干残っていた。遺構は近世以降の撹乱が多い東側では少なく、包含層の残る西側で多かった。検出した主な遺構は以下のとおりである。

・弥生時代：中期竪穴住居址１棟
・古墳時代：中期竪穴住居址１棟、後期竪穴住居址３棟、掘立柱建物３棟、焼土壙１基

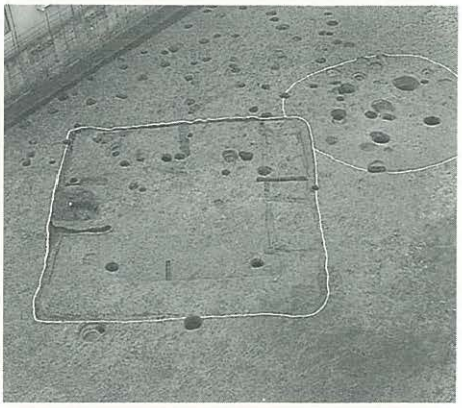
出土遺物　出土遺物は少なく、コンテナ２箱程である。弥生時代から古墳時代の土器類のほか、滑石製臼玉が２点ある。

まとめ　今回の調査では、本調査区や南側の第114次、15次地点を中心とする地域に弥生時代中期および古墳時代全時期にわたる集落が存在することが判明した。また、古墳時代中期の住居址は6.2×6.5ｍと比較的大きく、形態はほぼ方形、主柱穴は４本であるが、この住居址は建て替え、拡張されたようである。古い段階では５×5.2ｍ、主柱は２本で、住居址の形態が２本柱から４本柱へ移行していくものとして、注意深いものである。



1．調査地点の位置（082－Ａ－１．１：8000）

2．調査区全景（西から）



3．竪穴住居址 SC 05・SC 06（北東から）

8954　拾六町亀田遺跡第１次（JRK－１）

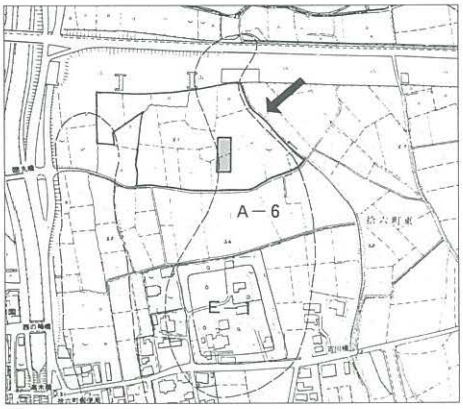
所 在 地　西区拾六町二丁目325－１外　　**調査面積**　363㎡
調査原因　店舗建設　　**担 当 者**　大庭康時
調査期間　891023～891102　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　拾六町亀田遺跡は、早良平野を北流する十郎川の右岸を、南から北に伸びる舌状の微高地上に立地する。調査地点は、この微高地が東側に落ち込む肩部に当っている。拾六町亀田遺跡の南方には、１町四方に土塁を巡らす一丁屋敷遺跡があり、中世の館跡と考えられる。

検出遺構　井戸４基、溝１条、柱穴多数が検出された。１号井戸は、円形の掘方に楕円形に石を積んで井側を作る。14世紀前半頃。２号井戸は、方形の掘方の内側に細竹を立てて井側とするもので、四隅に杭を立てて、杭相互には横桁を渡して、竹を固定している。13世紀。３号井戸は、円形の掘方中央に曲物を据えていた。曲物は、長径１ｍ短径0.7ｍの楕円形を呈する大型品で、遺存状態は、極めて良い。13世紀。４号井戸は、円形の掘方に方形の井側をもつものである。井側は、板を並べて方形に作るもので、裏込めに礫を充填している。13世紀。溝は、調査区の北西隅を斜めによぎるもので、規模は明かではない。

出土遺物　遺物は、土師器・輸入陶磁器などコンテナ４箱が出土したにとどまる。そのほか、３号井戸の曲げ物、２号井戸・３号井戸に用いられていた板材などを取り上げている（大型コンテナ３箱分）。

まとめ　遺構の時期は、概ね13～14世紀前半に収まるものと思われる。遺跡の中心は、調査区の西側にあると予想されるが、調査の結果、東側の落ち込み部分にも微高地が続いていたものと考えられるので、本来はより拡がりをもっていたものと推測される。



１．調査地点の位置（091－Ａ－６．１：8000）

２．調査区全景（南から）

３．２号井戸出土状況

8955　羽根戸古墳群Q群第1次（HDK－Q－1）

所 在 地　西区大字羽根戸字佛尾871－3外
調査原因　墓園建設
調査期間　891023～900205
調査面積　440㎡（古墳3基）
担 当 者　瀧本正志
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査地は、早良平野の西辺を画す山塊の一つである飯盛山から西へ派生する丘陵上に位置する。古墳群は、周辺の古墳群の内で最も標高の高い丘陵南斜面（標高90m）に築造されている。本調査は、5基の古墳からなる古墳群のうち、3基が対象となった。

検出遺構　・古墳時代終末期：円墳3基、土壙6

3号墳　墳径10m
主体部　両袖型横穴式石室
玄室規模
1.9m（幅）×2.1m（長）×2m（高）

4号墳　墳径6m
主体部　両袖型横穴式石室
玄室規模
0.9m（幅）×0.9m（長）×－（高）

5号墳　墳径12m　副室有り
主体部　両袖型横穴式石室
玄室規模
1.8m（幅）×2.2（長）×2m（高）
副室規模
1.3（幅）×1.1m（長）×1.5m（高）

土壙は、平面形が方形および楕円形を呈する。5号墳の周辺に位置し、全て壁が焼けている。

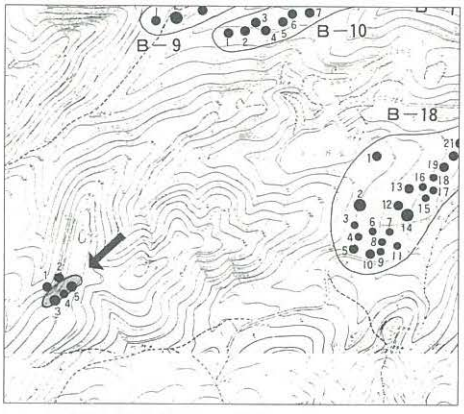
出土遺物　遺物は、主に墳丘土および石室内から出土し、総量はコンテナ20箱を数える。

3号墳　須恵器（杯・高杯）、装身具（耳環）

4号墳　須恵器（杯・蓋・平瓶）、鉄製農耕具（鋤先）

5号墳　須恵器（杯・蓋・高杯・甕・平瓶・短頸壺）、装身具（耳環・ガラス小玉）、鉄製武具（鉄鏃）、鉄製農耕具（鋤先）

土壙　須恵器（杯・蓋）



1．調査地点の位置（105．1：8000）

2．調査区全景（南から）

3．石室検出状況（東から）

8956　野多目A遺跡群第3次（NMA－3）

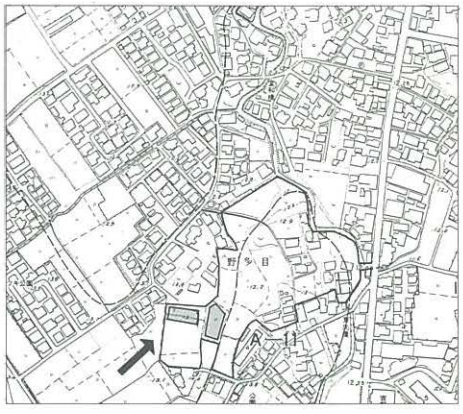
所 在 地　南区野多目一丁目外
調査原因　宅地造成
調査期間　891107～891218
調査面積　1,740㎡
担 当 者　大庭康時
処　　置　調査後破壊

位置・環境　野多目A遺跡は、福岡平野を縦断して北流する那珂川左岸に形成された、中位段丘上に位置している。本調査地点は、この段丘の東斜面にあたり、段丘上の1区と段丘直下の2区に分けて調査を実施した。

検出遺構　1区では、溝・柱穴を検出した。溝は、3条検出している。そのうちの2条は、方位をほぼ南北にとり、1.8mの間隔で並行している。旧地表そのものが、後の水田化によって大きく削られているため断定できないが、この2条の溝は、道路側溝である可能性が高い。溝の埋土から、白磁の皿が出土しており、おそらく13世紀以降の溝と考えられる。柱穴は、道路に伴うと思われる溝の西側に集中している。ただし、この部分では、柱穴の重複のため、掘立柱建物址の復元は困難である。道路推定部分から東側にかけては柱穴の重複が少なく、建物址の推定が比較的容易であり、2×3間の側柱建物が3棟、1×3間が1棟、1×1が2棟認められる。出土遺物のほとんどが、縄文時代晩期の土器片で、時期比定が困難である。ただし、柱穴の規模からみて、遺構のほとんどが中世に属するものと考えられる。

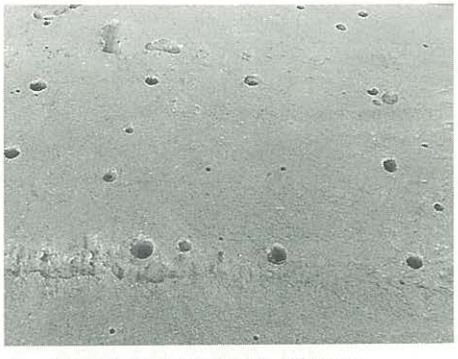
2区では、その西端で段丘裾の一部がみられたほかは、幾重にも重複して河川流路が検出された。流路からは、中世以前の遺物が出土しており、この地点が開田されたのは、近世以後のことであろう。

出土遺物　全ての遺構を通じて、遺物の出土が少なく、土器・陶磁器類、及び石器類がコンテナ3箱が出土したにとどまる。



1．調査地点の位置（039－A－11．1：8000）

2．I区全景（南から）


3．掘立柱建物（2×3間）検出状況

8957　博多遺跡群第59次（HKT－59）

所 在 地　博多区祇園町187－226
調査原因　駐車場ビル建設
調査期間　891107～900224
調査面積　276㎡
担 当 者　山口譲治
処　　置　調査後破壊

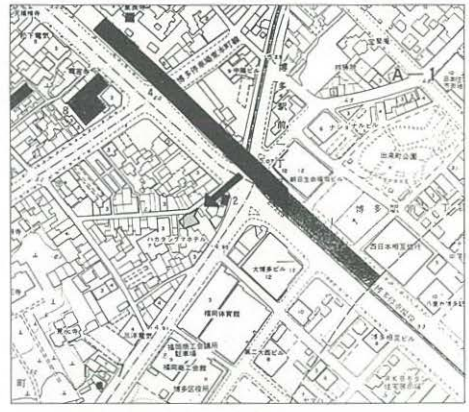
位置・環境　本調査地は、博多遺跡群のほぼ中央部南側に位置している。調査前は駐車場となっており、アスファルト舗装が行われていた。標高は5.65m。調査は、約1.35mの現代・近世の撹乱層を除去することから始めた。その結果、砂質土を基盤とした古墳時代と古代・中世の遺構と包含層を検出した。

検出遺構
・奈良時代：竪穴住居址、柱穴
・奈良時代：包含層
・平安時代～鎌倉時代：土壙、井戸、柱穴

出土遺物　古墳時代の遺物は、初頭の古式土師器・鉄器・鉄素材・敲石があり、後半期のものに須恵器・土師器・鉄器・金環・玉・銅鏃がある。奈良時代の遺物には、土師器・須恵器・和銅開珎などがある。平安時代から鎌倉時代の遺物には、土師器・瓦器・白磁・鉄器・北宋銭・獣骨などがある。このほか、中世から近世の陶磁器や混じり込みと考えられる半両銭などがある。

まとめ　古墳時代初頭の８軒の竪穴住居址は、主柱穴が２本のものと４本のものがあり、ベッドをもつものもある。この時期の住居址からは畿内からの搬入土器が出土したほか、碗形滓などの鉄滓・鉄素材・敲打器など鉄器製作遺物が出土している。後半期の住居址は主柱穴が４本で、竈の付設がある。

中世では12世紀末までの遺構があり、13世紀から16世紀までの遺構は検出できなかった。12世紀の遺構は５面に分けて調査を行なった。１２世紀前半の４本の主柱穴からなる方形の土壙３基などが検出できた。また、同時期の柱穴は多数あり、掘立柱建物群を想定できる。今後、建物を含めた井戸・土壙の配置を検討していく必要があろう。



1．調査地点の位置（049－Ａ－１．１：8000）

2．調査区全景（東から）

3．住居址遺物出土状況

8958　上月隈遺跡第１次（KTG－1）

所 在 地　博多区大字上月隈字山浦170－１
調査原因　宅地造成
調査期間　891120～891222
調査面積　1,049㎡
担 当 者　小林義彦
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本遺跡は、福岡平野の東部、粕屋平野との境を画す月隈丘陵上に立地する。この月隈から金隈へとつづく小山塊からは幾筋もの舌状丘陵が派生し、甕棺墓地をはじめとする多くの遺跡が立地している。本遺跡の北には内行花文鏡を出土した宝満尾遺跡があり、南には弥生時代の代表的甕棺墓遺跡である国史跡の金隈遺跡がある。

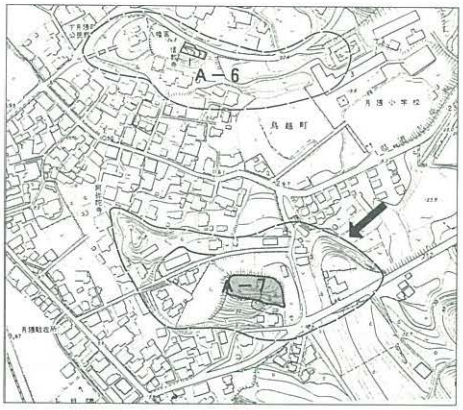
検出遺構　調査地は、江戸時代後期いらい共同墓地として使用されていたが、改葬によって大きく削平されている。

・弥生時代：甕棺墓20基、土壙６基、土壙３基
・江戸～明治：近世墓182基

出土遺物　遺物は、弥生式土器（コンテナ50箱）と近世の大型甕の外、近世墓に副葬された紅皿・キセル・数珠・銅銭（寛永通宝）等がある。

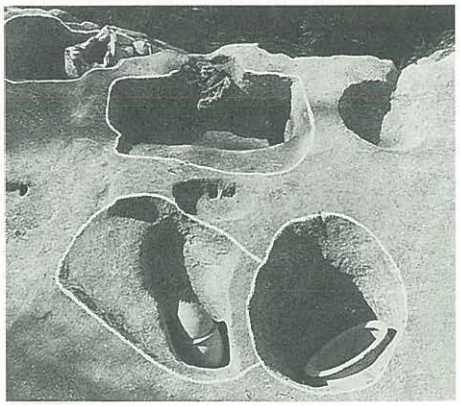
まとめ　弥生時代の墳墓群は、甕棺墓と土壙墓からなる。このうち、甕棺墓は弥生時代中期中葉から後期初頭の成人墓18基、小児墓２基からなり、調査区西側に集中して分布する。本来は丘陵が西へのびており、この尾根筋に沿って広く分布していたものと思われる。土壙墓は６基のうち２基が木棺墓である。副葬遺物がないため時期は明確でないが、３号土壙墓が甕棺墓より古いことから、甕棺墓群造営以前と思われる。

近世墓は江戸時代後半～明治時代のもので、座棺と寝棺に大別され、座棺には甕と木桶を用いている。また、182基中90基から人骨が検出され、副葬された遺物とともに当時の民俗・葬送儀礼を知るうえで貴重な資料となる。



1．調査地点の位置（010－Ａ－7．1：8000）

2．甕棺墓群分布状況（東から）


3．甕棺墓・土壙墓検出状況

8959　博多遺跡群第60次（HKT－60）

所 在 地　博多区綱場町115外
調査原因　ビル建設
調査期間　891124～900502
調査面積　730㎡
担 当 者　小畑弘己
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本地点は、息の浜の最頂部から博多浜の境をなす旧湾部にかけて傾斜する南斜面上に位置する。標高は、現地表面で5.5～5.0m前後である。息の浜での既往の調査は本調査を含めて８地点と少なく、隣接する42次調査と並んで本格的な調査は今度が２回目である。

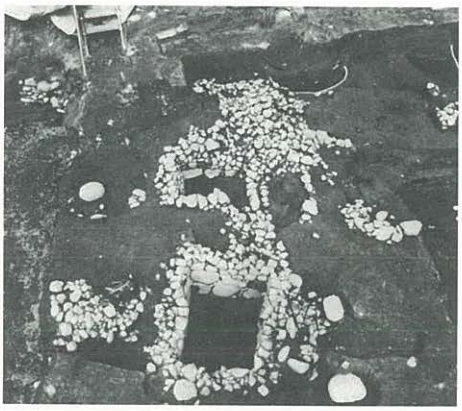
検出遺構　最も古い遺構は11世紀中頃で、それ以降近代まで連綿と生活の痕跡が認められる。この中でも中心をなすのは14世紀初頭から16世紀代末までの遺構群であ ｝。遺構の種類には、溝、石組溝、集石遺構、土壙、井戸、墓、掘立柱建物、建物地業遺構（基壇）、鍛治遺構などがある。

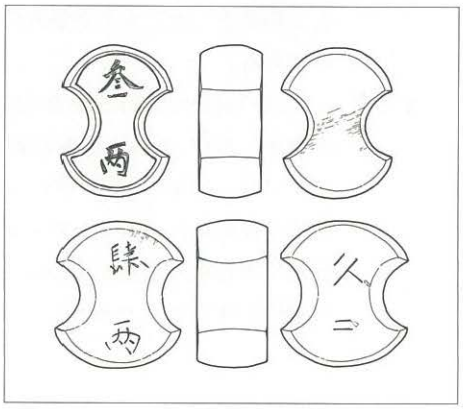
出土遺物　出土遺物には、各時期の輸入陶磁器（染付、色絵、青磁、白磁）や国産陶 磁器、土製・陶製人形、瓦、銅製品（笄、紅皿、銭、煙管、各種飾り金具）、鉄製品（刀、釘）、石製品（硯、石鍋、漁網錘、温石、茶臼、板碑）などがある。珍しいものでは、懸仏、瓦経、麻布、鞘付の短刀がある。総数コンテナ525箱。

まとめ　今回の調査では調査区全面に焼土を含む層を確認し、遺構（構造物）との関係で把握できたことは重要な成果であった。とくに調査区南東側では15世紀後半から16世紀末にかけての焼土層が３枚認められ、これに伴なって石組施設や石敷溝（倉庫用の基壇と考えられる）が三時期にわたって検出されている。

また、16世紀中頃の木棺墓から出土した明代の分銅、タイやベトナムの陶磁器や華南三彩などは、室町後期における博多の商業都市としての重要性を雄弁に物語っている。

1．調査地点の位置（094－Ａ－1．1：8000）


2．Ⅱ区第Ⅱ面検出の石組遺構（西から）


3．368号墓出土の分銅（1/2）

8960　有田遺跡群第153次（ART－153）

所 在 地　早良区小田部五丁目70・71
調査原因　共同住宅建設
調査期間　891115～891130
調査面積　263㎡
担 当 者　山崎龍雄
処　　置　調査後破壊

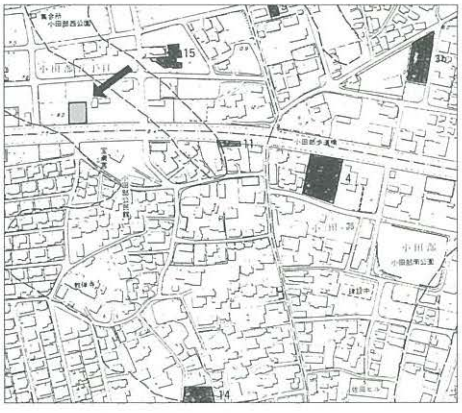
位置・環境　調査区は北へ八手状に延びる有田・小田部台地の最西端の台地基部近くに立地し、現標高は７～８ｍを測り、北側は一段深くなっている。調査前の状況は荒地であった。

調査区周辺は小田部地区で最も調査が行われている地域であり、現在13ヶ所程度調査が行われている。それらの調査で弥生時代前期末から後期初頭の甕棺墓群や住居址・貯蔵穴を伴った集落、奈良から平安時代にかけての柵と掘立柱建物群、中世末頃の溝・井戸などが検出されており、非常に遺構密度の濃い地域である。

検出遺構　今回の調査では、遺構は北側を中心に確認された。主な遺構は溝２条、竪穴住居址１棟である。竪穴住居址は古墳時代前期の布留期のもので、中から木炭片が出土していることから焼失家屋かもしれない。溝のひとつは近世のもので、区画整理以前の道路状遺構の下で検出した。遺物から見て江戸時代以降のものであろう。この溝は調査期間の都合上完掘できなかった。

出土遺物　出土遺物は竪穴住居址と溝を中心にコンテナ２箱出土した。大半が竪穴住居址出土のものである。

まとめ　今回の調査で北側に古墳時代前期の住居址を検出したが、これは北側の第64・35・106・125・142・143次調査で検出されている古墳時代の住居址に連なるものである。西側地区台地では台地の東側を中心に住居が分布する可能性が強いようである。



1．調査地点の位置（082－Ａ-1．1：8000）

2．調査区全景（北から）

3．竪穴住居址検出状況（南から）

8961　有田遺跡群第154次（ART－154）

所 在 地　早良区有田一丁目24－2
調査原因　店舗建設
調査期間　891205～900122
調査面積　382㎡
担 当 者　山崎龍雄
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は八手状に北へ延びる有田・小田部台地の中央部、西方向と北東方向から谷が入り込み、台地が北側の小田部地区と南側の有田地区に分かれる地点に立地する。標高は約11ｍを測り、調査前の状況は駐車場であった。

調査区周辺は調査が多く行われており、北側の３次・124次調査区では、条里の区画と思われる大溝が検出されている。さらに同じ３次調査区や東側の51次調査区では弥生時代の集落跡、東側の第40次・108次調査区では中世末頃の濠状遺構が検出されている。

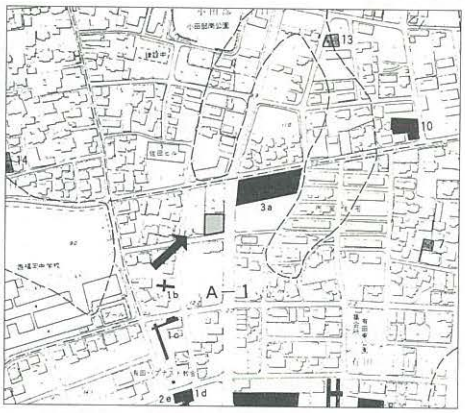
検出遺構　主な検出遺構は以下のとおり。

・弥生時代：中期土壙１基
・古墳時代：後期住居址２棟、掘立柱建物４棟、溝２条
・平安時代：井戸１基
・中世：木棺墓１基、溝３条

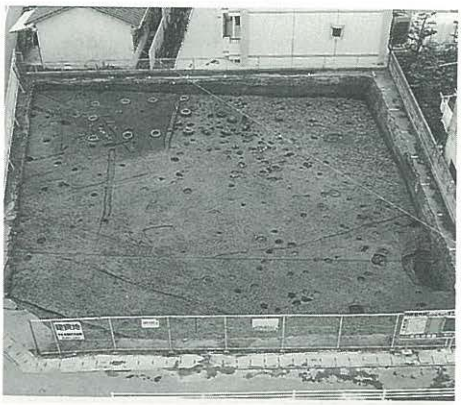
中世の木棺墓には白磁碗が１個体副葬されていた。また遺構面から旧石器時代のナイフ型石器が出土した。

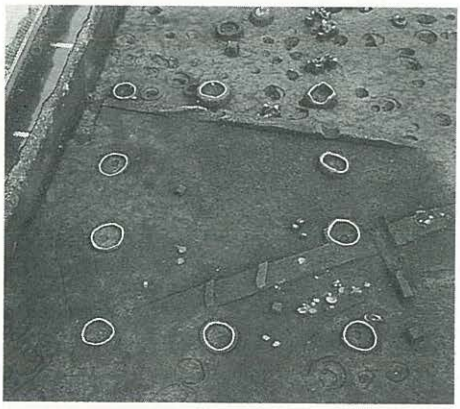
出土遺物　包含層を中心にコンテナ20箱出土した。弥生時代から近世までの遺物を含むが、総量としては弥生時代の遺物が多い。特筆すべき遺物として、古墳時代の土製杓子や、赤色顔料を塗布した土製品などがある。

まとめ　今回の調査では旧石器が１点出土したが、周辺では第131次・19次・77次・107次調査区などで検出されている。平安時代の井戸は西側の第124次調査区でも検出されており、周辺に平安時代の集落が存在する可能性がある。



1．調査地点の位置（082－Ａ－1．1：8000）


2．調査区全景（東から）


3．掘立柱建物検出状況

8962　博多遺跡群第61次（HKT－61）

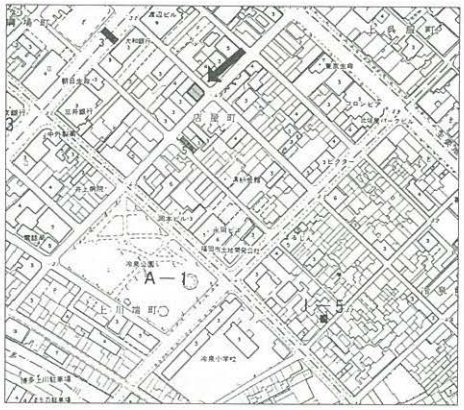
所 在 地　博多区店屋町182－1～5
調査原因　共同住宅建設
調査期間　891205～900129
調査面積　95㎡
担 当 者　菅波正人
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査地は、博多遺跡群が立地する砂丘のうちで、「博多濱」と呼ばれる砂丘の西北部にあたる。この地点は砂丘が海側に落ち込んでいく湿地である。遺構は湿地を埋め立てた面に形成されている。調査は現地表から約2.5mの客土を除去した後に、順次、整地層を掘り下げた。標高約2.5mを第1面として、4面の調査を行った（最終面標高0.9～0.3m）。

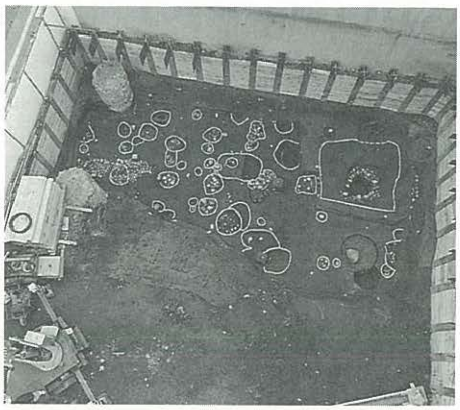
検出遺構
- 第1面（16世紀後半～17世紀）：井戸、土壙、礎石、柱穴
- 第2面（15世紀～16世紀）：建物址、井戸、土壙、柱穴
- 第3面（13世紀後半～14世紀）：井戸、土壙、柱穴、敷石遺構、鋳造関連遺構
- 第4面（～13世紀前半）：埋め立て以前の面

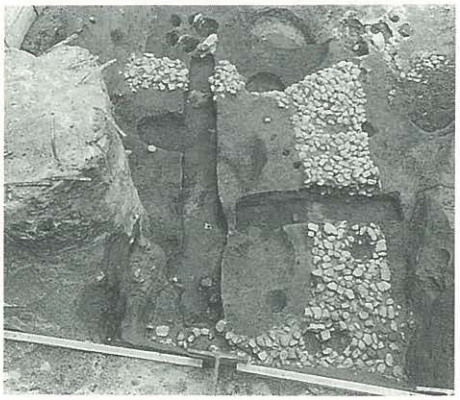
出土遺物　遺物は遺構・包含層からコンテナ30箱出土。遺物には土師器、国産陶磁器（備前、常滑など）、中国製陶磁器、朝鮮製陶磁器、銅製品、鉄製品、木製品、鋳型などがある。特筆すべき遺物としては、花押を墨書した木簡や将棋の駒などがある。また、中国製（元代）と考えられる銅印も出土した。

まとめ　今回の調査では13世紀後半から16世紀後半にかけての遺構を検出した。この地点の生活面の形成は13世紀前半に始まる。その後、ここは都市の一部として、連綿と生活が営まれる。なお、14世紀から16世紀後半にかけて、建物や敷石遺構などの方向が余り変化しておらず、町割りを考えるうえで興味深い。



1．調査地点の位置（049－A－1．1：8000）


2．調査区第2面全景（東から）


3．第3面敷石遺構検出状況（南から）

8963　博多遺跡群第62次（HKT62）

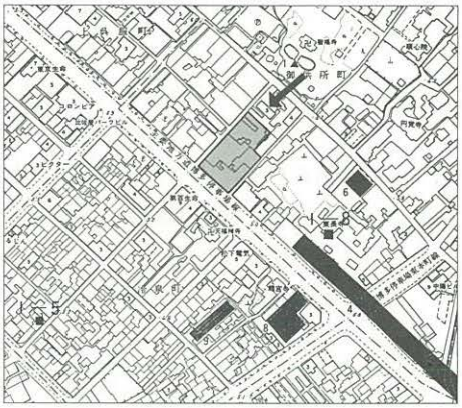
所 在 地　博多区御供所町195外
調査原因　ホテル建設
調査期間　891218～910228
調査面積　2,257m²
担 当 者　大庭康時
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査区は、博多遺跡群のほぼ中央に位置する。現地表下1.5mまでは、既存建物の基礎等によって撹乱されている。調査は、撹乱層を重機で除去した後、それ以下の包含層について行った。

検出遺構　標高2.8～3.0mの基盤砂層にいたる間で4面（一部5面）の検出面を調査し、弥生時代中期から室町時代前半に及ぶ遺構を検出した。弥生時代の遺構としては、土壙・集石などがある。集石は、石材を粗割りした剝片がたまったものである。古墳時代の遺構では、前期の土器棺が出土している。奈良時代の遺構は、竪穴住居址・井戸などである。平安時代以降の遺構は、地下室状の竪穴遺構・溝・井戸・土壙・柱穴・道路遺構などである。

出土遺物　遺物は、土師器・須恵器・輸入陶磁器などコンテナ733箱、金属製品コンテナ16箱、人骨・獣骨などコンテナ26箱が出土した。

まとめ　弥生時代の遺構は、この地点が30次調査・45次調査で検出された集落の縁辺部に当ることを示している。律令期の遺物では、包含層からの出土ではあるが、滑石製の丸鞆鋳型が注目される。他に石製巡方、「神□」・「佐」などと墨書した須恵器が出土している。中世では、銅の溶解炉が検出された。崩落した炉壁の間で出土した遺物から、12世紀後半から13世紀初頭にかかる時期が当てられる。また、13世紀後半から14世紀前半以後まで続く道路が検出された。南西から北東に伸びる道路で、路面は堅く踏みしめられている。道幅は、1間から1間半をはかる。



1．調査地点の位置（049－A－1．1：8000）

2．A区2面全景（南西から）

3．銅溶解炉検出状況

8964　藤崎遺跡群第17次（FUA－17）

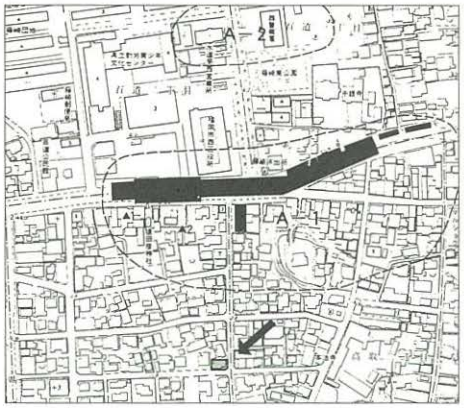
所 在 地　早良区藤崎一丁目119・120
調査原因　共同住宅建設
調査期間　891215～891223
調査面積　120㎡
担 当 者　横山邦継
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査地は、西新～藤崎へとつづく砂丘遺跡の西南部にあたり、標高２ｍ前後を測る。位置は砂丘後背地で、砂丘最高部の国道202号線からは2.5ｍ前後の比高差となる。藤崎遺跡群では、これまで明治45年箱式石棺から三角縁二神龍虎鏡などが出土して以来、弥生～古墳時代前期の墳墓と副葬品の発見が相次いだ。また、1977年より始まった地下鉄建設工事に伴う調査を契機として、この地域の本格調査が開始されて現在に至る。調査の成果から本遺跡群が弥生時代前期から古墳時代前期の大規模な集落・墳墓地、更に奈良～中世に至る継続的集落であることが解ってきている。今回の調査区の現況は宅地であり、表土下20～30㎝で遺構面に至る。

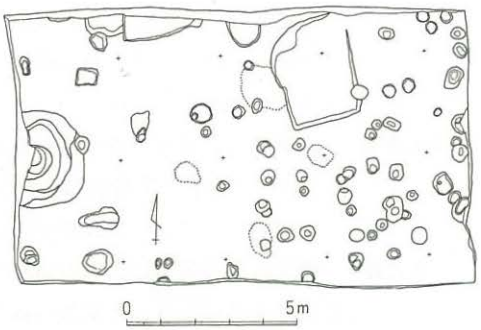
検出遺構
・古墳時代終末期：炉址４、掘立柱建物１（２×２間以上）、ピット群
・中世：井戸１基、土壙１基、ピット群
・近世：土壙１基

出土遺物　古墳時代終末期の土師器甕・須恵器杯・土錘、中世期の輸入陶磁器類などが少量出土した（コンテナ５箱）。

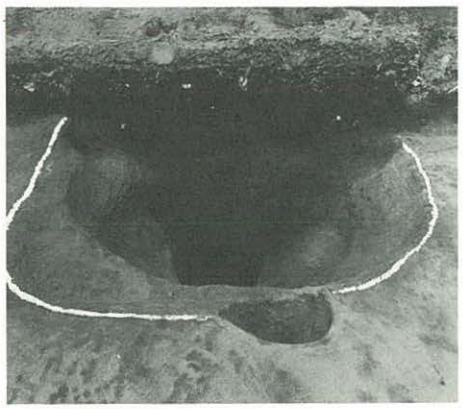
まとめ　今回の調査成果は、古墳時代終末期及び中世期（13世紀）の集落跡が藤崎砂丘遺跡の後背地に進出してきている事が判明したことと、漁労的集落の色合いが認められることである。



1．調査地点の位置（081－Ａ－1．1：8000）



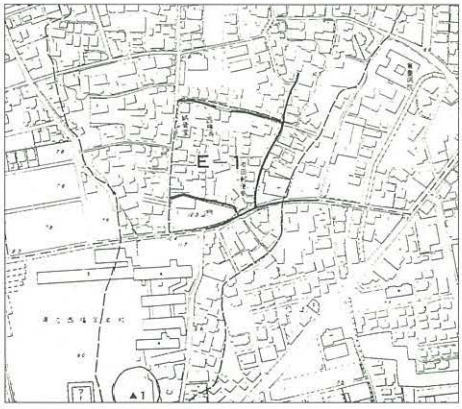
2．調査区全体図


3．井戸検出状況

8965　有田遺跡群第155次（ART－155）

所 在 地　早良区有田地内
調査原因　下水道建設
調査期間　890401～900331
調査面積　455㎡
担 当 者　宮井善朗・長家　伸
処　　置　調査後破壊

下水道建設に伴う調査である。本年度は台地の南端部、現西福岡高校北側を中心に行った。調査では過去の削平、既設管の影響からほとんど遺構は検出されなかった。唯一小田部城北側に一部東西に走る溝が検出され、城に伴うものかと考えられる。出土遺物はほとんどみられなかった。



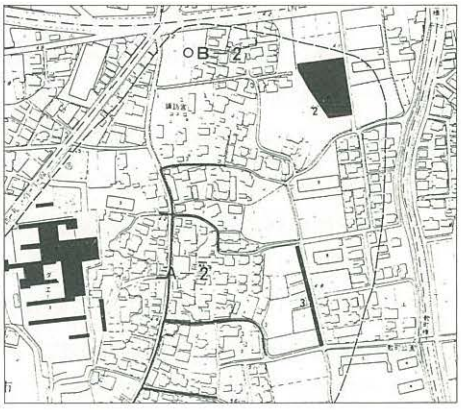
1．調査地点の位置（082－A－1）

8966　原遺跡群第15次（HAR－15）

所 在 地　早良区原地内
調査原因　下水道建設
調査期間　890401～900331
調査面積　550㎡
担 当 者　長家　伸
処　　置　調査後破壊

下水道建設に伴う調査である。主に遺跡群の東半部を中心に行ったが、既設管などによる破壊が著しい。

遺構は、第６次調査地点南側、第12次調査地点北西側で検出された。検出遺構はピットのみで遺物はいずれも土器破片のみである。遺構の時期は明確にし得なかったが、隣接する調査地点との関係でとらえることができよう。



1．調査地点の位置（082－A－2）

8967　箱崎遺跡第３次（HKZ－３）

所 在 地　東区箱崎一丁目2731－１・４
調査原因　共同住宅建設
調査期間　900109～900221
調査面積　156㎡
担 当 者　下村　智
処　　置　調査後破壊

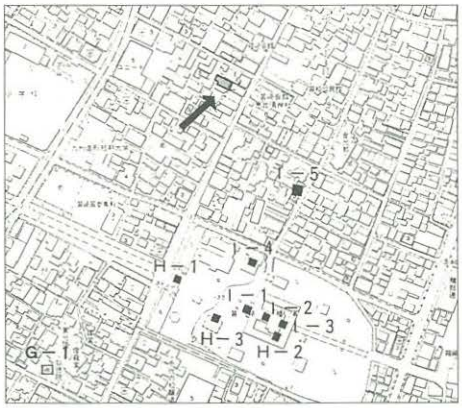
位置・環境　調査地点は、筥崎宮を中心として南北に伸びる古砂丘の北側部分に位置し、標高3.8mを測る。地表下１～1.2mで黄褐色砂層に達し遺構が検出できる。

検出遺構
・中世：土壙27基、井戸址３基
・近世：土壙５基、井戸址１基、溝１条
・中世～近世：ピット群67以上

出土遺物　遺物の多くは土壙と井戸址から出土している。ヘラ切り及び糸切りの土師皿や杯、白磁碗・皿、龍泉窯系の鎬蓮弁をもつ青磁碗、見込みに印花を施す青磁碗などがある。そのほか、滑石製の石鍋や石鍋の破損品を再利用した有溝石錘がある。近世の遺構からは、18世紀を中心とする伊万里の染付磁器が出土している。遺物総量はコンテナ18箱分である。

まとめ　今回検出した中世の遺構群は12世紀後半から15世紀に属するものである。井戸址は素掘りが１、井筒に桶を使用するものが２、石組に桶の井筒を組み合わせるものが１であった。土壙は、長径１m前後から大きいものは２mを超えるものまである。底面は皿状に窪むものが多い。18世紀に属する近世の溝は幅0.8mで南北に伸びている。また、遺構は検出できなかったが、遺物としては最下の包含層で11世紀代の土師器を検出している。

今回の調査によって、箱崎遺跡北側の集落形成は、11世紀頃から始まると考えられる。その後、12・13世紀を中心に集落が盛行し、15世紀から近世まで引き継がれる。筥崎宮との関係で、今後の検討が必要である。



1．調査地点の位置（034．1：8000）

2．調査区全景（東から）

3．井戸 SE 09検出状況（西から）

8968　影ヶ浦古墳群第２次（KGK－２）

所 在 地　博多区大字金隈影ヶ浦326
調査原因　畑地造成
調査期間　900120～900309
調査面積　1,113㎡（古墳２基）
担 当 者　荒牧宏行
処　　置　調査後破壊

位置・環境　福岡平野の東を限る月隈丘陵上に所在する群集墳の一つである。当調査区は南西に派生した丘陵先端付近に位置し、独立丘陵状の地形を呈している。従って、調査した２基の古墳は他の群集した古墳から独立し、西側の御笠川氾濫原を臨み出た景観上にある。標高36～40ｍ。地山は風化花崗岩（マサ土）。

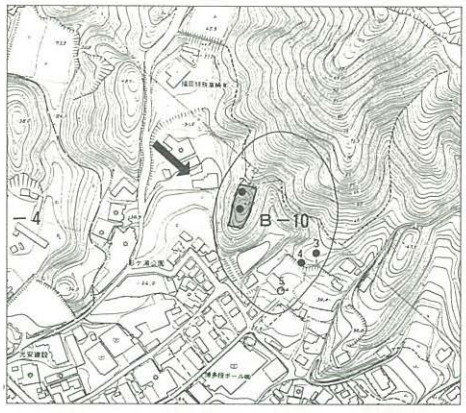
検出遺構　・弥生時代：貯蔵穴57基、土壙７基
・古墳時代：古墳２基

調査時には丘陵の大半が既に破壊されていた。１号墳は独立丘陵の頂部付近に立地し、墳丘約1/3のみ遺存する。復元すると径14.5ｍの円墳が想定できる。内部主体は不明。２号墳は鞍部に立地する径9.4ｍの円墳である。内部主体に竪穴系横口石室が構築されている。出土遺物から６世紀中葉の年代が考えられる。

弥生時代の貯蔵穴は１号墳の盛土下を含む丘陵のほぼ全面に分布する。円形ないし歪な方形プランを呈し、２ｍ以上の削平にも拘わらず、何れもよく遺存していた。特に２段構築のものは復元すると深さ７ｍに達する。時期は弥生時代前期末から後期初頭までである。

出土遺物　２号墳石室内から刀子、鏃などの鉄器類、貯蔵穴から弥生土器、石剣、石庖丁が出土。総量コンテナ30箱の遺物が出土。

まとめ　２号墳は周辺の群集墳の中でも古い形態の部類に属し、重要な編年資料になる。貯蔵穴群は北側の独立丘陵に立地する甕棺墓群（金隈遺跡）との有機的な関連を追求していく必要がある。さらに、周辺一帯には弥生時代の土地利用を考察する上で良好な遺跡が存在するものと期待される。



1．調査地点の位置（011－Ｂ－1．1：8000）

2．調査区全景（南から）

3．貯蔵穴、横口式石室検出状況（東南から）

8969　堅粕遺跡第３次（KKS－３）

所 在 地　博多区千代二丁目292外
調査原因　ビル建設
調査期間　900125～900207
調査面積　565㎡
担 当 者　山崎龍雄
処　　置　調査後破壊

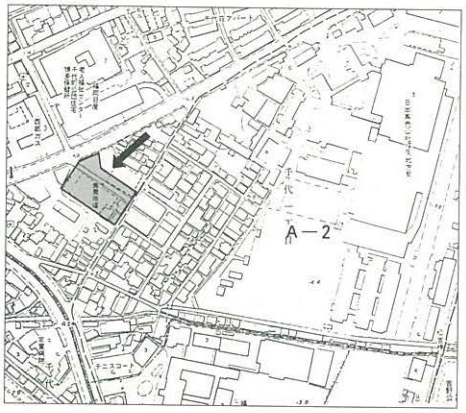
位置・環境　調査区は、北に博多湾を臨む海岸部の砂丘上に立地し、現標高は４ｍ前後を測る。調査前の状況は、宅地であった。

調査区周辺には、南西側に石堂川を挟んで博多遺跡群、東側に新幹線を隔てて吉塚遺跡群、北側に地下鉄建設工事に伴って調査を行った馬出遺跡群などがある。石堂川は中世末期に現在の流路に変更されたといわれており、堅粕遺跡群、博多遺跡群と同一の砂丘上に立地するものと思われる。

検出遺構　調査区は市街地であったため、建物の基礎による撹乱が激しかったが、今回の調査で検出した遺構は古墳時代前期の方形周溝墓２基、土壙17基、溝１条、奈良時代頃の土壙１基、近世の溝１条である。方形周溝墓の１基は内法で径14ｍ、南西側に陸橋をもつ。溝幅は３ｍ前後である。主体部は組合式木棺で0.7×2.5ｍを測る。２号墳は一部が工事で破壊されたため全容は不明であるが、主体部は割竹形木棺と考えられる。いずれも主軸方向は南西から北東方向である。

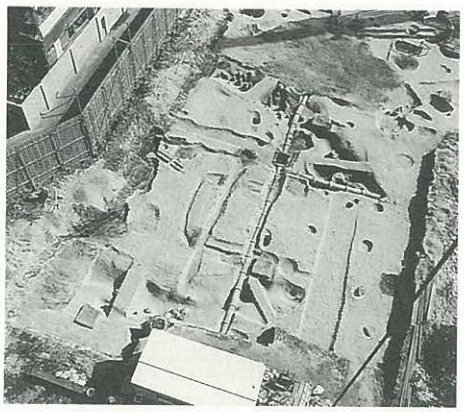
出土遺物　出土遺物はコンテナ12箱程度である。大半は１号方形周溝墓の周溝内より出土している。遺物には弥生時代中期初め頃のものがあり、当地点周辺にその時期の遺構が存在するかもしれない。１号墓の北西側の周溝内より水晶製の切子玉が１個出土した。方形周溝墓の主体部からの副葬品の出土はなかった。

まとめ　方形周溝墓の時期は、出土した土師器から古墳時代前期の布留式土器古段階期に相当するものと思われる。当調査区は堅粕遺跡群の推定線の西側にあり、遺跡範囲が西に更に拡がる事が判明した。



１．調査地点の位置（035－Ａ－2．１：8000）

２．調査区全景（南西から）



３．１号方形周溝墓検出状況（西から）

8970　田村遺跡群第10次（TMR－10）

所 在 地　早良区大字田字鶴園40外
調査原因　道路建設
調査期間　900208～900331
調査面積　600㎡
担 当 者　瀧本正志
処　　置　調査後破壊

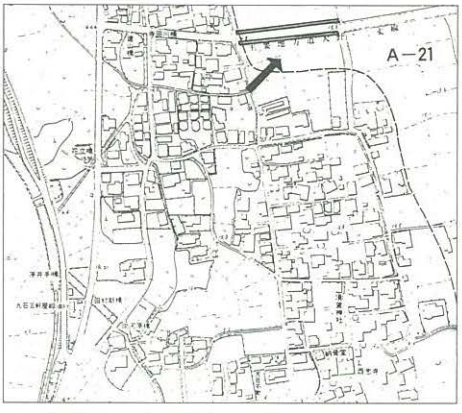
位置・環境　調査地は室見川などによって形成された沖積平野である早良平野のほぼ中央に位置し、標高14～15ｍ前後を測る。調査区内の現況は水田である。調査地を含む周辺地域には、条里制の土地区画を示す地形が坪単位ごとによく残っている。本調査地の東約200ｍで行った第５次調査では、中世の集落が確認されている。

検出遺構　・中世：掘立柱建物１、溝、土壙、小穴

掘立柱建物は調査区Ⅰ区の中央部で検出した。梁行２間の建物であるが、大半は調査区外に位置するために規模は不明である。溝は、幅20～80㎝を測り、南北に開削されている。この中で、坪を東西に３等分する位置に開削されている溝があり、注目される。

出土遺物　遺物はコンテナ８箱程が出土している。その大半は、土師器（杯・皿・甕）、磁器（碗・皿）、石器（石鍋）等の日常雑器である。

まとめ　今回の調査の目的は、調査区西端部における坪境遺構の確認と、坪内の使用区分の解明とにあった。調査の結果、調査地内においては坪境を明示する遺構などは確認できなかった。ただ、先に述べたように、溝の一つが、坪を東西に３等分する位置に開削されていることは、条里地形の残存する地域を調査する時の資料となろう。



１．調査地点の位置（084－Ａ－1．１：8000）

２．調査区Ⅱ区西半部（東から）

３．調査区Ⅲ区全景（東から）

8971　比恵遺跡群第27次（HIE－27）

所 在 地　博多区博多駅南四丁目10－18
調査原因　事業所建設
調査期間　900208～900228
調査面積　165m²
担 当 者　菅波正人
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査地は、比恵台地のほぼ中央部にあたり、「那津官家」に関連すると考えられる遺構群が検出された第７・13次調査地に隣接している。標高は約6.0m、地表下0.7～0.9mで基盤の鳥栖ローム層となる。遺構は全面に分布している。

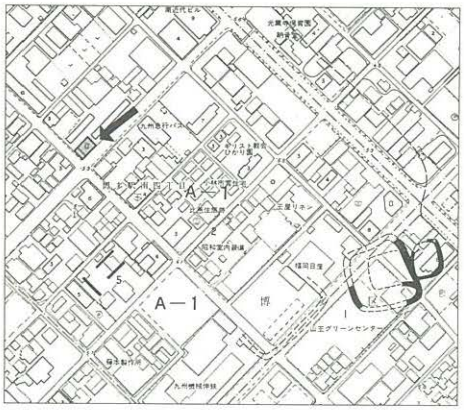
検出遺構
・弥生時代中期：竪穴住居址１軒、掘立柱建物２棟、井戸１基、溝１条、柱穴多数
・弥生時代後期～古墳時代初頭：掘立柱建物２棟、井戸１基、柱穴多数

検出した遺構は近・現代の撹乱によって削平されているため、遺構の残りは良くない。検出した柱穴のなかには底に礎板を敷いたものもある。

出土遺物　遺物は井戸や柱穴からコンテナ10箱分出土した。弥生時代では井戸から甕、壺、器台などの弥生土器、木製の刳貫きの井筒等が出土した。古墳時代ではやはり井戸から甕、壺、器台などの土師器が出土した。

まとめ　今回の調査では第７次調査地点で検出された建物群、井戸などが西側にも拡がってくることが確認できた。建物は２×２間、１×３間の４棟を検出した。このうち、長方形の掘り方で、底に礎板を敷く柱穴の建物は弥生時代後期後半～古墳時代初頭に位置づけられる。これらの建物は本調査区の東端から第７次調査地点の西端に集中している。

なお、本調査区では「那津官家」に関連する時期の遺構・遺物は検出されなかった。今後の課題である。



1．調査地点の位置（037－Ａ－1．1：8000）

2．調査区全景

3．井戸ＳＥ04検出状況

8972　相原古墳群第２次（ABK－２）

所 在 地　西区大字青木上ノ原
調査原因　畑地造成
調査期間　900213～900313
調査面積　121㎡（古墳１基）
担 当 者　山崎龍雄
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は高祖山から北東方向に派生する山塊の北側、谷を臨む尾根上に立地する。標高は墳頂部で56ｍを測り、現況は山林である。調査を行なったＥ群は２基で構成されるが、１基は既に消滅している。また谷を挟んで、北西側の斜面上にはＣ群20基が立地する。また相原古墳群の調査は昭和48年の調査以来２回目である。

検出遺構　古墳時代後期古墳１基、焼土壙１基

古墳は北から西側の墳丘裾が土取によって一部破壊されていたが、墳径は土層トレンチや地山整形の在り方から、９ｍ前後と推定できる。古墳の築造方法は、まず尾根の頂部を平坦にカットして５×７ｍ程度の不定形の土壙を掘り、その内側に一段の石室墓壙を掘る。その内側に腰石を置き、その上に石と土を盛り上げている。石室の裏込土は粘土を混入しているが、それ程強く丁寧に仕上げていない。石室の残りは概ね良好で、玄室部の天井石以外すべて残っていた。石室平面形態は両袖型で、規模は全長４ｍ、玄室内法は1.6×1.7ｍ、壁高は1.7ｍを測る。玄室各壁は腰石を２石ずつ横位に置き、２段目以上は持送っている。羨道部は玄室よりやや長いが、少し外へ開くタイプである。

出土遺物　石室内を中心にコンテナ２箱分出土した。須恵器が中心で、杯・提瓶・甕などの器種がある。玄室床面から奈良時代の杯などが出土している。ほかに装身具として、勾玉２点、耳環１点、小玉類などが出土している。

まとめ　当古墳の時期は須恵器から見れば、小田富士雄氏編年のⅣ～Ⅴ期に当たり、７世紀前半代が考えられる。敷石などの在り方から追葬が行なわれた可能性がある。

1．調査地点の位置（113．1：8000）

2．Ｅ１号墳全景（南から）

3．Ｅ－１号墳玄室の奥壁

8973　山の鼻１号墳（YHK－１）

所 在 地　西区大字徳永字山ノハナ265-1外
調査原因　重要（範囲）確認
調査期間　900213～900331
調査面積　320㎡（古墳１基）
担 当 者　小林義彦
処　　置　調査後埋め戻し現状保存

位置・環境　本古墳は、糸島平野の東縁部に東西長約３㎞にわたって狭長にのびる今宿平野のほぼ中央部に位置し、高祖山から派生する舌状丘陵の先端部に立地する前方後円墳である。この狭長な今宿平野には本古墳のほかに鋤崎古墳や今宿大塚古墳・丸隈山古墳など12基の前方後円墳がある。本古墳の西には谷を挟んで山の鼻２号墳、南の同丘陵部には若八幡宮古墳の２基の前方後円墳がある。

現況は、東斜面が山林、前方部上が畑地、西斜面が果樹園になっている。また、後円部は「宮崎安貞」碑の建立や高射砲陣地の構築によって大きく削平されており、石室の消失が予想された。

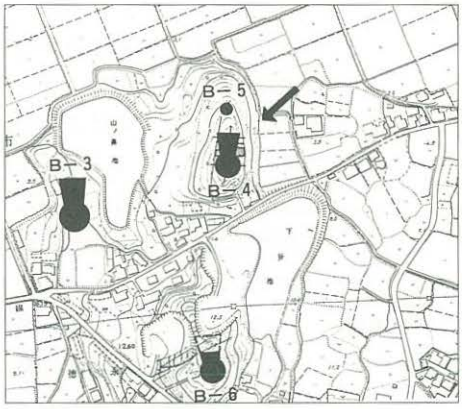
検出遺構　調査は、古墳の墳丘規模と主体部の有無確認を目的とし、樹木や農作物の間隙に12本のトレンチを設定して行なった。

その結果、後円部と西側くびれ部および前方部前縁で葺石基部を検出したが、前方部隅角の確認には至らなかった。これをもとにすると、本古墳は、後円部径23ｍ、前方部長30ｍ、前方部幅15ｍ、全長50ｍの前方後円墳である。

まとめ　主体部は消失していたが、墳丘盛土内や古墳周辺からベンガラの付着した板石片が出土しており、竪穴式石室の存在した可能性が想定される。

後円部の盛土中より鏡片が出土したほかは、墳丘上には埴輪の埋設がなく、供献遺物もないために明確な構築時期は決定しがたい。

また、後円部下から弥生時代中期前半の土壙墓２基が検出され、一帯には弥生時代の墳墓群が拡がっている可能性が想定される。



１．調査地点の位置（120－Ｂ－4．１：8000）

２．古墳全景

３．西側くびれ部検出状況（北から）

8974　博多遺跡群第63次（HKT－63）

所 在 地　博多区冷泉町90－３外
調査原因　共同住宅建設
調査期間　900213～900420
調査面積　275㎡
担 当 者　浜石哲也・菅波正人
処　　置　調査後破壊

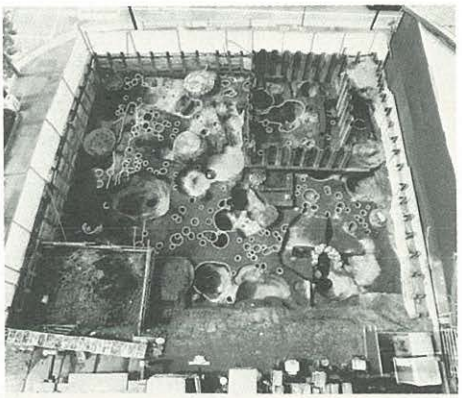
位置・環境　本調査地は、博多遺跡群が立地する砂丘のうちで、「博多濱」と呼ばれる砂丘の西端部にあたる。調査は現地表から約1.5ｍの客土を除去した後に、順次、包含層を掘り下げた。標高約3.5ｍを第１面として、３面の調査を行った。基盤の砂丘は北西方向に緩やかに傾斜している。

検出遺構
・第１面（13世紀～14世紀）：井戸、土壙、柱穴、一部分近世の遺構
・第２面（10世紀～12世紀）：井戸、溝、土壙、柱穴
・第３面（４世紀前半～９世紀）
　古　　代：竪穴住居址、井戸、土壙墓
　古墳時代：竪穴住居址、土壙

出土遺物　遺物は遺構・包含層からコンテナ100箱出土した。古代末から中世の遺物には土師器、黒色土器、瓦器、瓦、中国製陶磁器、銅製品、鋳型などがある。古代の遺物には土師器、須恵器、移動式のかまど、銅製巡方などがある。古墳時代の遺物には、土師器、小型仿製鏡などがある。

まとめ　今回の調査では、４世紀前半から14世紀にかけての遺構を検出した。特に、古墳時代の竪穴住居址の検出は、該期の集落の在り方を考える意味で貴重なものである。また、銅製巡方などの出土は官人の存在を示すもので、官衙などの施設の検出、古代の博多の役割の検討など、今後に期待された課題は多い。

1．調査地点の位置（049－Ａ－1．1：8000）


2．調査区第２面全景（東から）

3．第２面井戸ＳＥ104検出状況

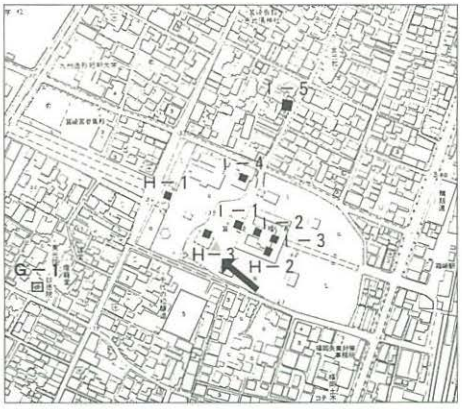
8975　箱崎遺跡第４次（HKZ－４）

所 在 地　東区箱崎一丁目2761
調査原因　放生池の掘削
調査期間　890705
調査面積　工事立会
担 当 者　佐藤一郎・常松幹雄
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は筥崎宮境内の南西部にあたる。この一帯は、博多湾沿岸に発達した南北に延びる古砂丘上に位置している。筥崎宮は、延長３（923）年創建とされる八幡宮で、対外貿易と防衛の両機能を備えていた。文献資料などから、宋商らが多く居留する「大唐街」もこの付近にあったことが推定されている。これまで高速鉄道建設に伴う箱崎・馬出遺跡群の調査のほか、福岡県粕屋総合庁舎建設に伴う調査が行われている。

検出遺構　今回の調査は、放生池の掘削時に瓦経が出土したことによるものである。福岡市教育委員会が報告を受けた時点で、瓦経が埋められていた土壙は既に構造物の下になっていた。調査は池の周囲にトレンチを設定し、他の埋納物の有無を確認することであった。しかしながら、他の埋納物は発見されなかった。

出土遺物　瓦経は総数36枚分で、内35枚が「仁王般若波羅密経」、１枚が「摩訶般若波羅密多心経」である。仁王経は釈迦没後の仏法の永続を願い、心経は釈迦の教えの神髄をまとめたものとされる。この瓦経は、書体などから、平安時代後期のものと考えられる。



1．調査地点の位置（034．1：8000）

2．瓦経出土状況

3．仁王般若波羅密経（巻下四）

8976　博多遺跡群第64次（HKT－64）

所 在 地　博多区博多駅前一丁目101
調査原因　ビル建設
調査期間　900226～900731
調査面積　620㎡
担 当 者　山口譲治
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査地点は、博多遺跡群が所在するふたつの砂丘のうちの南側の砂丘の東南端部に位置している。標高4.6ｍの現地表下１ｍ前後までは、既存建物の基礎等によって撹乱されており、調査は撹乱層を重機によって除去した後、それ以下の包含層について行なった。

標高2.8～３ｍの基盤砂層にいたる間で４枚の遺構面を調査し、奈良時代から江戸時代の遺構を検出した。

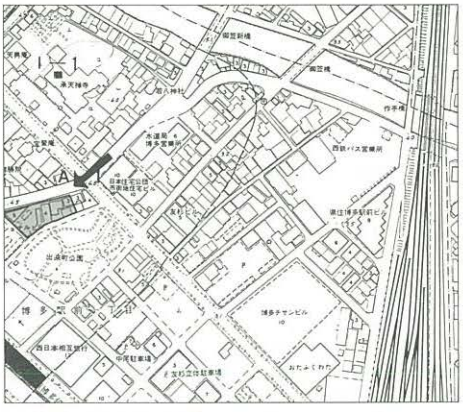
検出遺構
・奈良時代：甕棺墓？
・鎌倉時代：土壙、溝、柱穴
・室町時代：井戸、土壙、道路、土壙墓、溝、柱穴
・戦国時代：埋甕、柱穴、土壙、井戸、掘立柱建物、溝
・江戸時代：井戸、柱穴、土壙

出土遺物　包含層（整地層）・遺構からコンテナ298箱の遺物が出土した。

弥生時代中期の大形甕形土器（甕棺墓のものか）の破片が、コンテナ１箱ほどあるが古墳時代までの遺構は検出できなかった。奈良時代の１基の甕棺墓？があり、本調査区の遺構の上限を示している。中世からの遺物としては、土師器が最も多く、輸入陶磁器・北宋銭などの銅銭・鉄器・人骨・馬の頭骨などの自然遺物がある。戦国時代以降の遺物としては、国産陶磁器がある。

まとめ　本調査地は、東南部で12世紀後半の基盤砂が急角度をもって落ち込んでいるところから南側砂丘の東南端部に位置すると考えられる。

弥生時代の甕形土器は摩耗していないことから、本調査地の西側に甕棺墓が存在すると考えられる。また14世紀の道路は、中世博多のメインストリートと考えられ、この時期に本調査地の谷部を埋めて整地されており、中世博多の町が拡大したと考えられる。



1．調査地点の位置（036－Ａ－1．1：8000）

2．調査区第１面全景（西から）

3．第２面土壙墓の人骨出土状態

8977　藤崎遺跡群第18次（FUA－18）

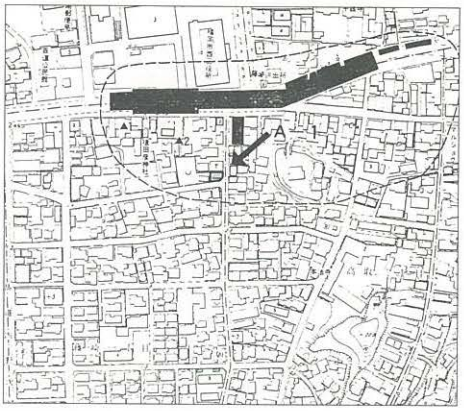
所 在 地　早良区高取一丁目59
調査原因　共同住宅建設
調査期間　900301～900307
調査面積　60㎡
担 当 者　宮井善朗
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地点は、北側が第15次、南側が第18次調査地点に隣接する。地表から0.8mまでを重機で除去した後に調査に入り、第１面、第２面の発掘を行った。

検出遺構　１面では、古代～中世の溝１条と、それに沿う柵列を検出した。また、古墳時代後期～古代と思われる竪穴住居址１軒を検出した。竪穴住居址は、一辺約４ｍの方形で、北側は調査区外にかかる。床面には、貼り床に用いられたと思われる粘土の散布が認められた。２面では、掘立柱建物１棟とピットを検出した。掘立柱建物は２間×４間で、覆土中に古代の遺物を含み、さらに竪穴住居址と主軸がほとんど同じであることから同時期のものと考えられる。

出土遺物　遺物は少ないが、16次調査区と同様、土錘が比較的多いのが特徴的である。

まとめ　１面で検出した溝は、16次調査区で検出された溝につながるものである。また、15次調査区ではほぼ直行する東西方向の溝が検出されており、なんらかの屋敷地の存在が想定される。



1．調査区地点の位置（081－Ａ－１．１：8000）

2．調査区第２面全景（西から）

3．第２面掘立柱建物 SB 202検出状況

8978　有田遺跡群第156次（ART－156）

所 在 地　早良区有田一丁目12－2
調査原因　専用住宅建設
調査期間　900303～900330
調査面積　131㎡
担 当 者　加藤良彦
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査区は有田・小田部台地東端の東側斜面に立地し、50m程北側で69次調査が実施されている。

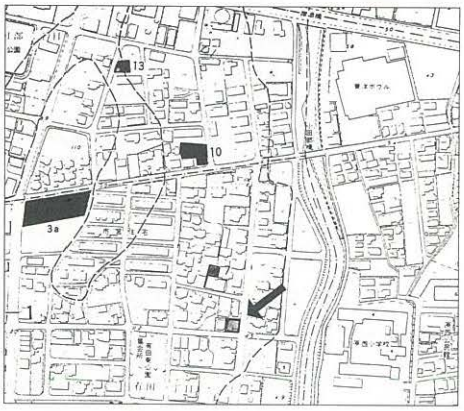
旧状は宅地で、表土下20～30cm程で黄白・淡桃色の八女粘土層の遺構面に達する。以前の削平が著しく、遺構の残りは良くない。

検出遺構
・古墳時代：竪穴住居址３軒
・古墳時代～古代：掘立柱建物２棟
・近世：土壙１基、流路１条

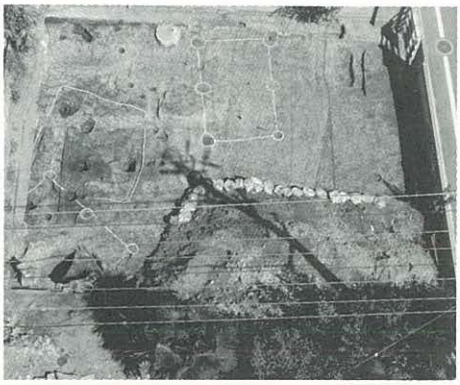
出土遺物　遺物は住居址、柱穴などの遺構内から古墳時代～古代の土師器・須恵器、中国製陶磁器、肥前系陶磁器を少量検出しており、総量でコンテナ２箱である。近世の流路からは古代の銅製鈴帯の鉈尾１点を検出している。鉈尾の検出は遺跡群内で３例目である。

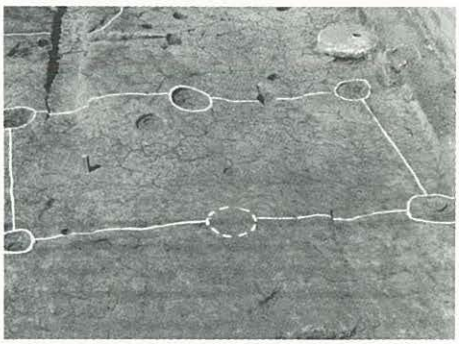
まとめ　竪穴住居址の１軒は3.0×3.2mの方形で中央に炉をもつ。幅10cm程の壁溝が南の一部を除いて巡っている。遺構の残りは深さ２～３cm程。他の２軒は地山にしみ込んだ覆土の汚れでそれと知れる程で、2.5×2.7mの方形を呈している。

掘立柱建物は１×２間で、それぞれ3.8×2.3m、3.6×1.7mを測る。１棟が竪穴住居址を切っており、これより後出する。



1．調査地点の位置（082－Ａ－1．1：8000）


2．調査区全景（南から）


3．掘立柱建物ＳＢ01検出状況

8979　藤崎遺跡群第19次（FUA－19）

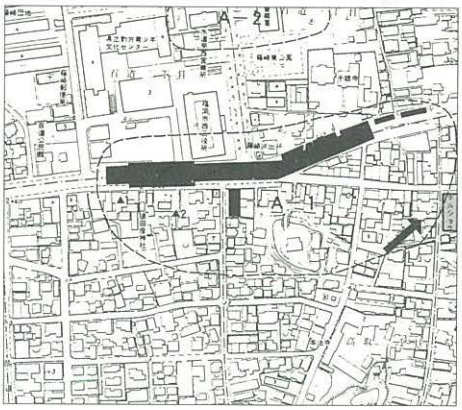
所 在 地　早良区高取一丁目455
調査原因　共同住宅建設
調査期間　900308～900328
調査面積　350㎡
担 当 者　下村　智
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地点は、藤崎遺跡群の東端部に位置し、南側の独立丘陵裾が平坦部へ移行する部分にあたる。標高は4.2m前後で、現地表下１ｍで黄白色砂層が現われ遺構が検出される。

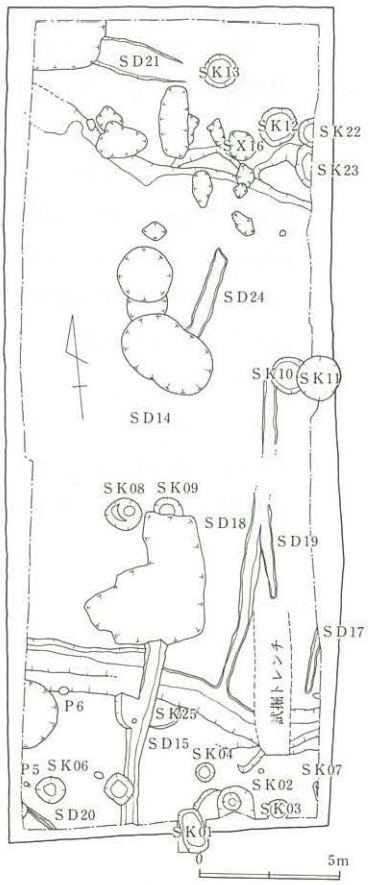
検出遺構
・古墳時代後期：土壙２基、溝１条
・中世：溝４条
・近世：土壙15基、溝３条
・各時期のピット群

出土遺物　出土遺物の中心は、近世の土壙群から出土した近世陶磁器である。18世紀に属する伊万里の染付碗や皿、鉢、蓋物、花生、瓶などがあり、肥前系の陶器も混在する。陶器は高取系が中心で、擂鉢、壺、花生、灯明皿などがある。その他、古墳時代後期の須恵器杯や壺弥生時代の太形蛤刃石斧なども出土している。遺物量はコンテナにして12箱程度である。

まとめ　古墳時代に属する土壙は、長径1.2m～1.5mの略円形か楕円形で、皿状に浅く窪むものである。焼土はみられなかったが、炭化物が多量に混入しているのが観察された。６世紀末から７世紀初めにかけての時期であろう。溝も同時期と考えられ、幅１ｍ前後の浅いものである。中世の溝は幅19ｍで調査区中央部を東西に横切っている。人工的な溝ではなくて、弥生時代以降の浅い谷か後背湿地の名残りと考えられる。近世の土壙出土遺物は、在地系の高取焼と肥前系の陶磁器類が組み合わさり、当時の流通と使用実態が類推できる貴重な資料である。今回の調査は遺跡群の端部ではあったが、遺跡の拡がりや、各時期の出土遺物によって藤崎遺跡群の一端を明らかにすることができた。



1．調査地点の位置（081－Ａ－1．1：8000）



2．遺構分布図

8980　有田遺跡群第157次（ART－157）

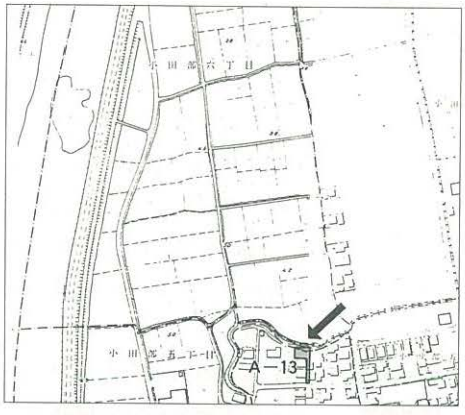
所 在 地　早良区小田部五丁目131－1
調査原因　専用住宅建設
調査期間　900314～900331
調査面積　128㎡
担 当 者　山崎龍雄
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は八手状に北へ延びる有田・小田部台地の北西台地の北側崖面上に立地し、標高は6～7mを測る。調査区周辺は、比較的調査が行われている地域であり、弥生時代前期の集落群、前期末から後期にかけての甕棺墓群、奈良時代を中心とする大型建物群、中世後期の15～16世紀代の居館址などが検出されている。

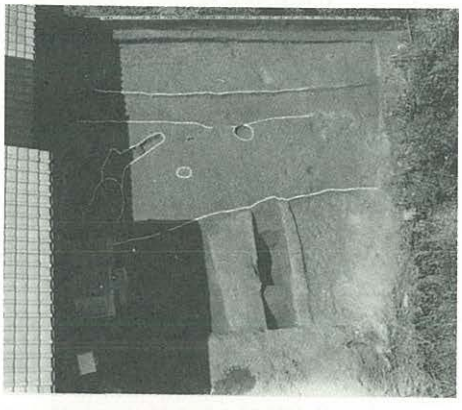
検出遺構　削平が著しく、遺構は少ない。弥生時代後期の土器を含む土壙4基と、16～17世紀の溝3条を検出した。

出土遺物　遺物の量は少なく、全部でコンテナ1箱程度。中世末頃の遺物が大半を占める。土壙からは鉄器が1点出土している。

まとめ　中世末頃の溝は、従来この地区周辺で確認されている居館址に伴う溝の一部とも考えられる。



1．調査地点の位置（082－A－1．1：8000）



2．溝SD01・SD03検出状況

3．溝SD03・SD08検出状況

8981　比恵遺跡群第28次（HIE－28）

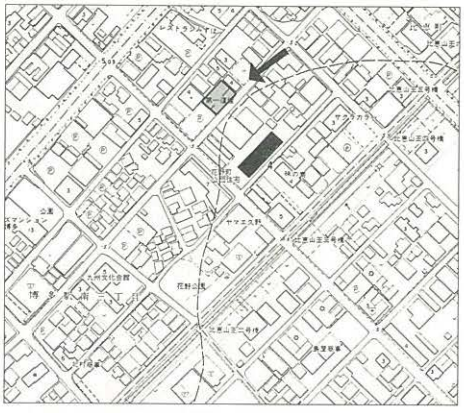
所 在 地　博多区博多駅南三丁目426
調査原因　共同住宅建設
調査期間　900314～900407
調査面積　405㎡
担 当 者　荒牧宏行
処　　置　調査後破壊

位置・環境　比恵遺跡をのせる台地の北縁に位置する。現状は倉庫跡地、以前は水田であった。標高5.40m。客土、水田土壌、床土下、地山の鳥栖ローム層になる。ローム層上面は調査区北側壁面で西から東に4.60～4.10mに落ちてゆく。ローム層が下降した調査区北東部では層厚15～70cmの砂と粘土の互層が堆積する。この互層はロームおよび遺構を削り、台地際の流水が激しかった事を窺わせる。互層からは弥生中期の遺物が出土した。

検出遺構　上記の土層堆積は試掘時までのもので、調査開始時には倉庫解体に絡んで遺構はほとんど壊滅していた。辛うじて遺存した遺構は弥生時代前期の土壙３基（方形プランの貯蔵穴１基を含む）、竪穴住居址１軒、弥生時代中期後半の甕棺１基のみである。

出土遺物　貯蔵穴 SK03 からは板付Ⅰ式からⅡ式への中間的な土器が出土。ほぼ同時期と考えられる SK10 から柱状片刃石斧、石庖丁、滑石製紡錘車が出土（コンテナ22箱）。

まとめ　調査区内では、鳥栖ロームを基盤とする台地が延び、弥生時代の遺構が濃密に分布する事が確認された。しかし、調査区北東部で認められたローム層の傾斜から台地の落ちは近いと考えられる。弥生時代前期後半代の貯蔵穴は南西に隣接する26次調査でも検出されており、その拡がりが更に明らかになった。



1．調査地点の位置（37－Ａ－1．1：8000）

2．調査区全景（西から）

3．土壙ＳＫ03完掘状況

8982　那珂遺跡群第24次（NAK－24）

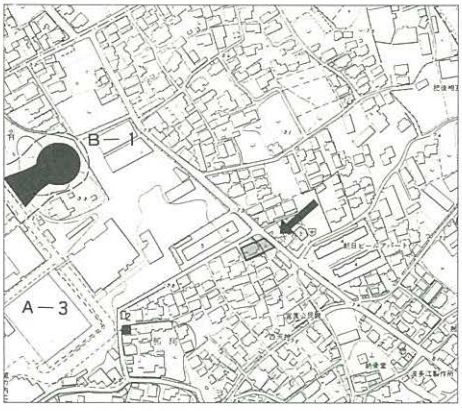
所 在 地　博多区那珂一丁目35
調査原因　共同住宅建設
調査期間　890802～890803
調査面積　325㎡
担 当 者　横山邦継
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査地は、標高10m前後を測り、広大な那珂遺跡群の中央部に位置する。対象地は1986年に調査された第８次調査地点の東側に隣接するが、大規模な削平のためにほとんどの遺構は失われていた。僅かに周辺の土層観察によって遺構の分布密度の高さが知られる。因に第８次調査では弥生時代中期の竪穴住居址17軒・掘立柱建物及びこれに伴う青銅器鋳造関係の遺物、古墳時代後期竪穴住居址４軒、７世紀後半から奈良時代の溝・大井戸、中世期の大溝などが検出されている。調査は、削平されたほぼ全面を清掃し、遺構の検出にあたった。

検出遺構　・弥生時代中期後半：井戸１
・中世末期：溝２

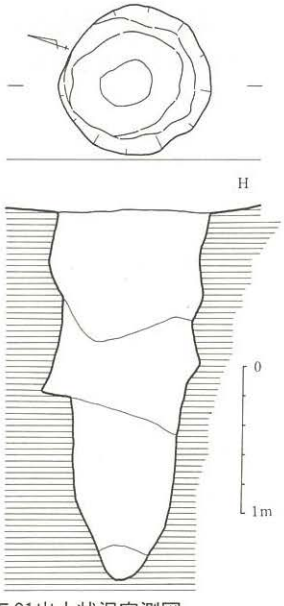
出土遺物　弥生時代中期後半の丹塗り袋状口縁壺・甕・器台や、中世後期瓦質土器・口禿げ白磁碗破片などが出土した（コンテナ３箱）。

まとめ　本調査地点では、遺構のほとんどが失われていたが、特に中世末期の大溝は第８次調査の大溝と連続する可能性が高く、本調査地点の字名『堀ノ内』の時期を考える上で重要である。



1．調査地点の位置（037－Ａ－1．1：8000）

2．調査区全体図



3．ＳＥ01出土状況実測図

8983　那珂遺跡群第25次（NAK－25）

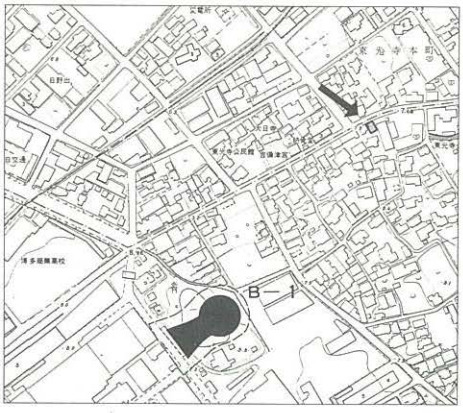
所 在 地　博多区東光寺一丁目218
調査原因　共同住宅建設
調査期間　890912～890921
調査面積　100㎡
担 当 者　山口譲治・常松幹雄
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査地は、那珂遺跡群が所在する那珂台地北部の標高7.4ｍ前後に位置している。本調査地の西200ｍに第18次地点、南西250ｍに剣塚古墳、北西200ｍに比恵遺跡群第18次調査地点がある。50㎝前後の盛土と耕土層を除去すると、鳥栖ローム層を基盤とする遺構が検出できた。

検出遺構　・古墳時代：柱穴
・平安時代：溝１、柱穴

出土遺物　柱穴・溝から各時期の遺物がコンテナ１箱出土した。古墳時代後半期の遺物として須恵器・土師器があり、平安時代の遺物として黒色土器・土師器、中世の遺物として土師器・青白磁がある。

まとめ　本調査地は近世以降の撹乱が激しく、古墳時代後半期から中世の柱穴15個と溝２条が検出されただけである。平安時代の溝は幅１ｍ弱で、横断面は逆台形をなし、東北東の方向に走り、80㎝前後の深さをもっている。中世の溝は幅２ｍ前後で、横断面は逆台形をなし、ほぼ南北の方位をもっている。



1．調査地点の位置（037－Ａ－３．１：8000）

2．調査区全景（北から）

8984　椛の谷遺跡第１次（KND－１）

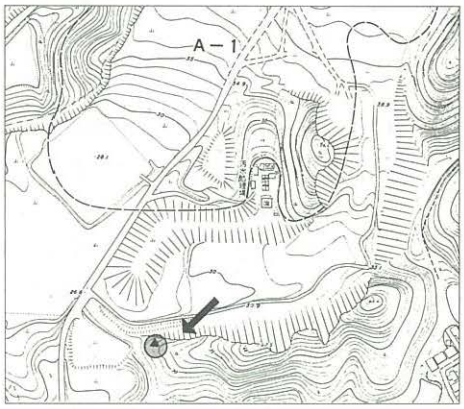
所 在 地　東区青葉台三丁目438－３
調査原因　青葉中学校建設
調査期間　891222～891223
調査面積　100㎡
担 当 者　山崎純男
処　　置　調査後破壊

位置・環境　遺跡は福岡市の東側に拡がる粕屋平野を北流する多々良川右岸の丘陵地帯に位置している。この丘陵地帯は城ノ越山から派生する支脈で、小さな谷が複雑に解析し、小丘陵を形成する。遺跡はこれらの丘陵の一つの頂部に立地している。周辺には遺跡は比較的少ないが、三留池をへだてた対岸の丘陵には土井遺跡群があり、かって銅剣、銅戈などの鋳型が出土している。また、後期古墳も散見できる。

検出遺構　工事中の不時発見によるもので、周辺を拡張調査したが甕棺墓２基を検出したにとどまる。

出土遺物　挿入式甕棺１基（蓋、身各１個体）、単棺１基

まとめ　この地域は古くから青銅器の鋳型が数多く発見されていて注目される地域であったが、弥生時代の生活遺跡は希薄であった。わずかに２基のみではあるが、今回の調査で甕棺墓を検出したことは、青銅器生産にたずさわった人々の遺跡が発見される可能性を示唆するものと考えられる。



１．調査地点の位置（007－Ａ－1．１：8000）

２．１，２号甕棺墓検出状況

３．２号甕棺墓検出状況

8985　今津Ｃ遺跡第１次（IMC－１）

所 在 地　西区大字今津723－２
調査原因　道路建設
調査期間　900122～900127
調査面積　120㎡
担 当 者　佐藤一郎
処　　置　調査後破壊

位置・環境　今津湾の東北部、浜崎山の西裾部の海岸に位置する。遺跡の東北には弥生時代に営まれた今津貝塚、そのさらに北側の毘沙門山南麓には栄西ゆかりの誓願寺が法燈を今に伝え、周辺域にはほかに今津古墓など日宋貿易に関係する寺院・遺跡が多い。1985年には、誓願寺の南辺で道路建設に伴って発掘調査（今津Ｂ遺跡第１次、調査番号8525）が行われている。

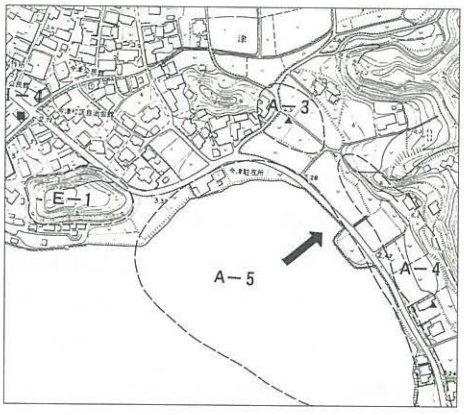
検出遺構　遺構面は現地表下1.2ｍの砂層で、調査区の南半部には包含層が残り、北半部は耕作により撹乱・削平を受けている。

・中世；土壙２基、掘立柱建物１棟

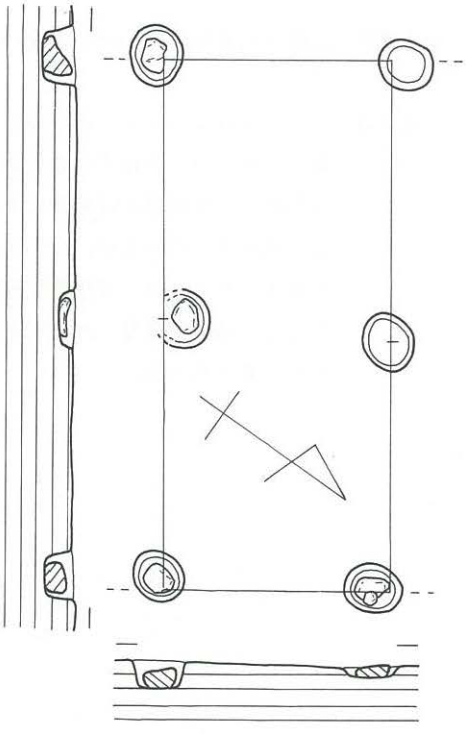
掘立柱建物は、限られた調査区では柱穴６個、１間×２間分を検出するにとどまった。柱穴は円形で、径40㎝前後、深さ10～20㎝を測り、うち柱穴６個に扁平な根石をもつ。土壙２基については、調査区が海岸線に面し湧水するために完掘できなかった。

出土遺物　遺物は土壙、柱穴のほか撹乱層からおもに出土した。12世紀代のものが大半を占め、白磁碗、龍泉窯・同安窯系青磁椀片などがある。ほかに８世紀前半代の須恵器杯片、弥生土器片などがある（コンテナ１箱）。

まとめ　今津地区は文献、伝世・表採された遺物から日宋貿易に関係する寺院址・遺跡が濃密に分布することが予測されていたが、今回の調査ではその一端を垣間見ることができた。



1．調査地点の位置（118－Ａ－４．１：8000）



2．掘立柱建物実測図（１：60）

8986　板付遺跡（ITZ）

所 在 地　博多区板付二丁目地内
調査原因　史跡整備
調査期間　890415～891029

調査面積　6,500㎡
担 当 者　山崎純男・濱石哲也
菅波正人・二宮忠司
処　　置　調査後埋め戻し保存

位置・環境　本遺跡の調査は史跡整備に伴う遺構確認調査である。1989年以来、整備事業に先行して国史跡・板付遺跡内の集落部の調査を行い今年度で２年次に当たる。

遺跡は福岡平野の中央部で、御笠川左岸、板付団地の東に位置する。南北600ｍ、東西170ｍ、標高10ｍ～13ｍの台地（約6.3 ha）と東西の水田（約４ha）が弥生時代前期の遺構確認地点である。

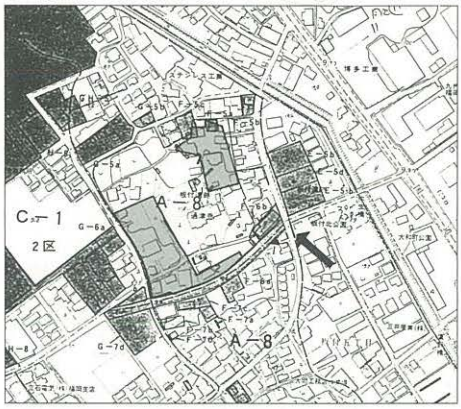
調査は1988年度の継続で環濠の確認、環濠内外の遺構確認を目的とする調査である。

本年度より整備事業が開始され、ガイダンス施設の建設を行った。

検出遺構　弥生時代の環濠の確認、環濠の出入り口の検出、弥生時代前期末の甕棺墓、弥生時代中期から後期の住居址、弥生時代前期から中期の貯蔵穴、中世の環濠。

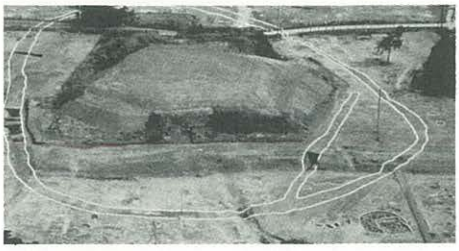
出土遺物　弥生式土器（夜臼式土器、板付式土器他）石器、小銅鐸他多数（コンテナ５箱）。

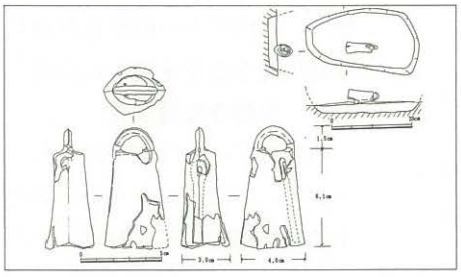
まとめ　今回の調査成果は、環濠の出入り口が発見されたことである。従来、板付遺跡の環濠は全周するものと考えられていたが、今回の調査で幅６ｍの出入口が判明した。これに伴い、昭和56年度調査で外濠に架る橋と考えた遺構により水田部分と環濠の出入り口が直線で結ばれた。もう一つは小銅鐸の発見である。弥生時代後期の住居址内より埋納状態で出土した。これは銅鐸の研究上貴重な発見となった。



1．調査地点の位置（024－Ｃ－1，1：8000）

2．環濠外遺構検出状況


3．環濠全景


4．小銅鐸出土状況および実測図

Ⅲ　文化財調査の概要

Ⅰ　文化財の調査

1．福岡市の近世社寺建造物調査

昭和61年度より始めた近世社寺調査を終了した。調査責任者土田充義氏（鹿児島大学教授、福岡市文化財保護審議会委員）。所在調査、本調査の結果は次のとおりである。

所在調査件数・棟数

	件数	棟数	東　区		博多区		中央区		南　区		城南区		早良区		西　区	
神社	162	460	29	70	27	41	28	149	20	71	7	22	16	36	35	71
寺院	225	445	31	67	58	139	46	71	12	21	10	13	25	52	43	82
計	387	905	60	137	85	180	74	220	32	92	17	35	41	88	78	153

本調査件数・棟数

	件数	棟数	東　区		博多区		中央区		南　区		城南区		早良区		西　区	
神社	9	13	4	5	1	2	2	2	0	0	0	0	0	0	2	4
寺院	27	63	2	2	15	50	3	3	1	1	0	0	2	2	4	5
計	36	76	6	7	16	52	5	5	1	1	0	0	2	2	6	9

また、本調査の結果は『福岡市の近世社寺建築』（Ａ４版・214頁）として刊行した。

2．福岡市の町家調査

昭和62年度より始めた町家調査を終了した。この調査は博多ロータリークラブ（故大部友之会長）から出された請願（『博多の古い街並みの復元について』）を受けて、市が日本建築学会に委託し、土田充義氏を調査責任者として実施したものである。所在調査、詳細調査の結果は次のとおりである。

所在調査棟数

	東　区	博多区	中央区	南　区	城南区	早良区	西　区	計
棟数	59	72	100	3	35	25	61	335

詳細調査棟数

	東　区	博多区	中央区	南　区	城南区	早良区	西　区	計
棟数	2	6	6	1	0	4	3	22

また、本調査の結果は、『福岡市の町家』（Ａ４版・202頁）として刊行した。都市化の影響下、市内の古い町家は急速に消滅しており、今後、移築復元を含めた町家の保存について具体的な研究を要する段階となった。

3．崇福寺書籍調査

昭和57年度より継続的に行ってきた崇福寺（博多区千代４－７－79）の収蔵品調査を終了した。3629点の古文書を始め、書籍・絵画・彫刻・工芸品など5109点におよんだ調査結果は『崇福寺収蔵品目録』（Ｂ５版・523頁）として刊行した。

Ⅱ　平成元年度の福岡市の文化財の指定

1．**飯盛神社本殿**…所有者；飯盛神社、所在地;西区飯盛609。旧早良郡７か村の総社、飯盛神社の本殿天明６（1786）年の建立。母屋桁の墨書銘から福博の大工・彫工の活動が知られる。

2．**浄満寺山門**…所有者；浄満寺、所在地；中央区地行２－３－３。一間一戸、四脚門、切妻造本瓦葺。すぐれて均整のとれた山門であり、江戸初期の姿をとどめている。

3．**正安四年銘梵字板碑**…所有者；香月一義、所在地；博多区美野島２－30－３。蒙古碇石を供養塔に転用したもので、正安四年（1302）年の造立。

4．**貞和五年銘梵字板碑**…所有者；成就院、所在地；西区飯盛字文殊前762。貞和五（1349）年の造立。飯盛山合戦があった南北朝時代の当地域の政治情勢の変動をうかがわせる。

5．**永和三年銘梵字板碑**…所有者；天満宮、所在地；東区箱崎２－10－20。通称箱崎天満宮の境内に所在する。造立年の永和三（1377）年は、北朝年号。九州探題今川貞世（了俊）下向後の南北朝時代の政治情勢の推移をうかがわせる。

6．**能古焼古窯跡**…所有者；永福寺・能古博物館、所在地；西区能古字寺脇。全長22ｍ、最大幅5.2ｍ、焼成室７室を含む８室構造の連房式登り窯。18世紀後半の陶磁器生産の有様を示す遺構。

Ⅲ　その他

昭和44年３月に国の重要文化財に指定された「旧日本生命保険株式会社九州支店」は、昭和47年から福岡市立歴史資料館として活用されてきたが、福岡市博物館の開館にともなってその役割を終え、平成２年３月をもって閉館した。今後の活用については利用計画検討委員会を設けて提言を受ける予定である。

飯盛神社本殿

平安四年銘梵字板碑

浄満寺山門

貞和五年銘梵字板碑

平成元（1989）年度調査遺跡索引（五十音順）

遺跡名	次数	調査番号	P.
〔ア行〕			
相原（あいばる）古墳群	第２次	8972	89
愛宕山（あたごやま）古墳	第１次	8938	56
有田（ありた）遺跡群	第149次	8905	23
有田遺跡群	第150次	8912	30
有田遺跡群	第151次	8919	37
有田遺跡群	第152次	8953	71
有田遺跡群	第153次	8960	78
有田遺跡群	第154次	8961	79
有田遺跡群	第155次	8965	83
有田遺跡群	第156次	8978	95
有田遺跡群	第157次	8980	97
飯氏（いいじ）遺跡	第３次	8921	39
飯倉（いいくら）Ｃ遺跡	第１次	8937	55
飯倉F遺跡	第１次	8940	58
飯倉H遺跡	第１次	8914	32
井相田（いそうだ）Ｃ遺跡群	第３次	8926	44
板付（いたづけ）遺跡（F-5i）		8901	19
板付遺跡（F-9）		8907	25
板付遺跡		8986	103
今津（いまづ）Ｃ遺跡	第１次	8985	102
入部（いるべ）遺跡	第３次	8931	49
大塚（おおつか）遺跡	第７次	8944	62
〔カ行〕			
影ヶ浦（かげがうら）古墳群	第２次	8968	85
椛の谷（かばのたに）遺跡群	第１次	8984	101
上月隈（かみつきぐま）遺跡	第１次	8958	76
堅粕（かたかす）遺跡群	第３次	8969	86
草場（くさば）古墳群	第２次	8951	69
鴻臚館（こうろかん）	第５次	8910	28
〔サ行〕			
四箇（しか）遺跡群	第24次	8952	70
拾六町亀田（かめだ）遺跡	第１次	8954	72
拾六町平田（ひらた）遺跡	第１次	8927	45
重留（しげとめ）古墳群	第３次	8913	31
鋤崎（すきざき）古墳群	第２次	8945	63
瀬戸口（せとぐち）古墳群	第２次	8928	46
〔タ行〕			
谷口（たにぐち）遺跡群	第１次	8932	50
田村（たむら）遺跡群	第９次	8934	52
田村遺跡群	第10次	8970	87
〔ナ行〕			
那珂（なか）遺跡群	第20次	8906	24
那珂遺跡群	第21次	8923	41
那珂遺跡群	第22次	8935	53
那珂遺跡群	第23次	8936	54
那珂遺跡群	第24次	8982	99
那珂遺跡群	第25次	8983	100
野多目（のため）Ａ遺跡	第　次	8956	74
〔ハ行〕			
博多（はかた）遺跡群	第46次	8903	21
博多遺跡群	第47次	8911	29
博多遺跡群	第48次	8915	33
博多遺跡群	第49次	8916	34
博多遺跡群	第50次	8918	36
博多遺跡群	第51次	8925	43
博多遺跡群	第52次	8929	47
博多遺跡群	第53次	8930	48
博多遺跡群	第54次	8941	59
博多遺跡群	第55次	8942	60

博多遺跡群	第56次	8943	61
博多遺跡群	第57次	8947	65
博多遺跡群	第58次	8948	66
博多遺跡群	第59次	8957	75
博多遺跡群	第60次	8959	77
博多遺跡群	第61次	8962	80
博多遺跡群	第62次	8963	81
博多遺跡群	第63次	8974	91
博多遺跡群	第64次	8976	93
箱崎(はこざき)遺跡群	第３次	8975	92
箱崎遺跡群	第４次	8967	84
羽根戸(はねど)古墳群Ｑ群	第１次	8955	73
原(はら)遺跡群	第14次	8908	26
原遺跡群	第15次	8966	83
蓮町(はすまち)遺跡	第１次	8920	38
比恵(ひえ)遺跡群	第22次	8902	20
比恵遺跡群	第23次	8909	27
比恵遺跡群	第24次	8917	35
比恵遺跡群	第25次	8924	42
比恵遺跡群	第26次	8939	57
比恵遺跡群	第27次	8971	88
比恵遺跡群	第28次	8981	98
藤崎(ふじさき)遺跡群	第15次	8922	40
藤崎遺跡群	第16次	8946	64
藤崎遺跡群	第17次	8964	82
藤崎遺跡群	第18次	8977	94
藤崎遺跡群	第19次	8979	96
福岡城肥前堀(ふくおかじょうひぜんぼり)	第４次	8950	68
〔マ行〕			
麦野(むぎの)B遺跡	第１次	8904	22
麦野C遺跡	第１次	8949	67
〔ヤ行〕			
山ノ鼻(やまのはな)1号墳	第１次	8973	90
〔ワ行〕			
脇山(わきやま)Ａ遺跡	第４次	8933	51

附　平成元年（1989）度刊行報告書一覧

（　　）内は、報告された遺跡の調査番号

第59集　「筑前国福岡城三ノ丸御鷹屋敷（図録編）」（7948）
第215集　「原遺跡（3）」（8814）
第216集　「田村遺跡Ⅶ」（8233）
第217集　「戸原麦尾遺跡（Ⅲ）」（8403）
第218集　「席田遺跡群（Ⅵ）」（8402・8414・8858）
第219集　「公園関係埋蔵文化財調査報告書　Ⅰ」（8770・8824・8830）
第220集　「橋本一丁田遺跡」（8825）
第221集　「築港線関係埋蔵文化財調査報告　Ⅴ　博多」（8653）
第222集　「那珂　2　―第13次―」（8736）
第223集　「都地・七反田遺跡」（8622・8659）
第224集　「大塚遺跡・女原遺跡」（8640・8660・8720）
第225集　「湯納遺跡　―第9次―」（8709）
第226集　「生松台」（8632・8714・8721・8734・8738・8821）
第227集　「比恵遺跡群（9）」（8717・8820・8859・8909）
第228集　「博多　13　―博多遺跡群第36次調査報告―」（8725）
第229集　「博多　14　―博多遺跡群第39次発掘調査概報―」（8806）
第230集　「博多　15　―博多遺跡群第40次調査報告―」（8833）
第231集　「野間Ｂ遺跡―第3次調査―」（8810）
第232集　「藤崎（5）」（8817・8818・8819）
第233集　「原遺跡　4」（8831・8839）
第234集　「有田・小田部　11」（8602・8646・8705・8742・8750・8853・8905）
第235集　「入部　Ⅰ　―県営圃場整備事業に伴う発掘調査の概要―重留遺跡第1・2次調査」（8748・8801）
第236集　「脇山　Ⅰ　―県営圃場整備事業に伴う発掘調査報告―」（8643・8722・8816）

「福岡市埋蔵文化財年報 Vol. 3―1988年度」

福 岡 市
埋蔵文化財年報 vol. 4
— 平成元(1989)年度 —

発　行　日　1991年3月10日
編集・発行　福岡市教育委員会埋蔵文化財課
〒810 福岡市中央区天神一丁目8-1
TEL. (092)711－4667
FAX. (092)711－4600
印　　刷　福岡印刷株式会社

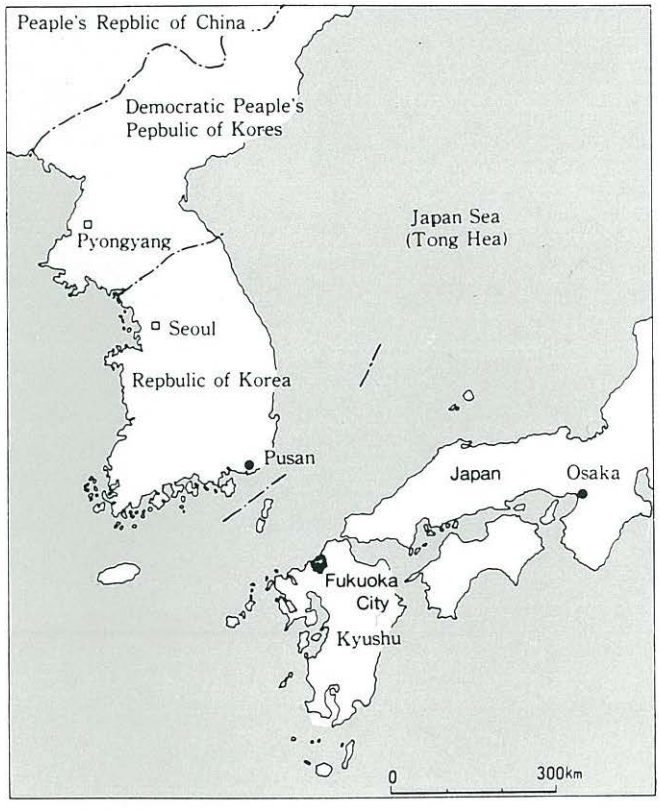
THE ANNUAL REPORT

OF THE

BURIED CULTURAL RELICS OF FUKUOKA CITY

Volume 4

1989



THE BOARD OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY

March 1991

Japan